

横町遺跡

—新環状・西関東道路建設に伴う発掘調査報告書—

2002・3

山梨県教育委員会
山梨県土木部

横町遺跡

—新環状・西関東道路建設に伴う発掘調査報告書—

2002・3

山梨県教育委員会
山梨県土木部

序

本書は、新環状・西関東道路建設に伴い平成11年度に発掘調査された春日居町横町遺跡の発掘調査報告書であります。今回の調査は本線の交差点予定部分にかかったため通常の本線部分に比べやや広く調査し、約4,000m²を対象といたしました。

本遺跡は、平成10年度の試掘調査によって初めてその存在が確認された訳ですが、その段階では平安時代末頃の遺物が若干出土したことから、対象域内の微高地上に小規模な集落が存在する程度と予想しておりました。

本調査に先立って再度試掘調査を行い、さらに対象域を絞り込むと同時に、より詳細なデータを得ましたが、これにより平安時代末だけではなくこれまで春日居町地域ではほとんど確認例のない弥生時代後期の遺物が予想外に多く出土し、その時期の集落も予想されました。

調査の結果、弥生時代後期の住居跡12軒、平安時代後期の住居跡25軒と溝2条、時期不明の土坑、さらにそれより新しく位置づけられる建物状の土坑配列などが確認されました。遺物ではそれぞれの時期の住居跡や溝に伴う弥生土器・土師器・灰釉陶器などが出土し、甲府盆地北部でのさまざまな新知見を得る事ができました。弥生時代では後期前半という時期の集落の調査例は非常に少なく、遺物の面からもこれまでの不足を補う貴重な資料が得られました。また、わずか1点でそれも底部あたりの小破片にすぎませんが、弥生時代後期に位置づけられる小型の土製品が確認されました。このような資料はこれまで県内では全く未確認であったことから、周辺資料と対比した結果、山梨県周辺では長野県北部～東部の箱清水式土器文化圏というごく限られた範囲にのみ散見される土製品であることが明らかとなりました。平安時代の集落から多くの遺物が出土し、とくに灰釉陶器と平安時代末期の土師器との伴出関係など興味深い資料が得られました。

本報告書が多くの方々の研究資料としてご利用いただければ幸甚です。

末筆ながら、種々ご協力を賜った関係機関各位、並びに直接調査に従事していただいた方々に厚く御礼申し上げます。

2002年3月

山梨県埋蔵文化財センター
所長 大塚 初重

例　　言

- 1 本書は、平成11年度に新環状・西関東道路建設に伴い発掘調査された春日居町横町遺跡の発掘調査報告書である。
- 2 調査は、県土木部の委託を受けて県教育委員会が実施した。
- 3 発掘調査及び出土品の整理は山梨県埋蔵文化財センターで行い、長沢宏昌・三森鉄治が担当した。
- 4 本報告書の編集は長沢が行った。第1章・第2章を三森が、第3章・第5章を長沢が執筆した。なお、自然科学分析は(株)パリノサー・ヴェイに委託し、その成果は第4章に示した。
- 5 写真撮影は遺構を長沢・三森が、遺物を写真家・小川忠博が行った。
- 6 本報告書にかかる出土品及び記録図面、写真等は一括して山梨県埋蔵文化財センターに保管してある。
- 7 発掘調査および本報告書の作成にあたり、以下の方々にお世話になった。記して謝意を表する次第である。
齊藤 孝正(文化庁)
内田 裕一(春日居町教育委員会)
小林 秀夫(長野県埋蔵文化財センター)
百瀬 長秀(長野県埋蔵文化財センター)
堀内規矩雄(長野県立歴史館)
小山 岳夫(御代田町教育委員会)
羽毛田卓也(佐久市教育委員会)
江川 幸子(松江市教育委員会)

目 次

序

例言

第1章 調査概要	1
第1節 椰査に至る経緯	1
第2節 調査組織	1
第2章 遺跡周辺の環境	2
第3章 遺構と遺物	3
第1節 遺構・遺物の概要	3
第2節 弥生時代住居跡	3
第3節 弥生時代遺物集中区	6
第4節 平安時代住居跡	7
第5節 土坑	11
第6節 溝	14
第7節 遺構外出土遺物	14
第4章 自然科学分析	97
第5章 調査の成果と課題	99

挿図目次

- | | |
|----------------------------|--------------------|
| 第1図 遺跡位置図 | 第42図 出土遺物 4 |
| 第2図 道路センターラインと調査区域 | 第43図 出土遺物 5 |
| 第3図 調査全体図 | 第44図 出土遺物 6 |
| 第4図 1号住居跡 | 第45図 出土遺物 7 |
| 第5図 2号住居跡 | 第46図 出土遺物 8 |
| 第6図 3号住居跡 | 第47図 出土遺物 9 |
| 第7図 13号住居跡 | 第48図 出土遺物 10 |
| 第8図 14号住居跡 | 第49図 出土遺物 11 |
| 第9図 15号住居跡 | 第50図 出土遺物 12 |
| 第10図 16号住居跡 | 第51図 出土遺物 13 |
| 第11図 18号住居跡 | 第52図 出土遺物 14 |
| 第12図 26号住居跡 | 第53図 出土遺物 15 |
| 第13図 27号住居跡 32号住居跡 | 第54図 出土遺物 16 |
| 第14図 35号住居跡 | 第55図 出土遺物 17 |
| 第15図 弥生時代遺物集中区 | 第56図 出土遺物 18 |
| 第16図 弥生時代遺物集中区微細図 | 第57図 出土遺物 19 |
| 第17図 I-26グリッド弥生土器集中区 | 第58図 出土遺物 20 |
| 第18図 4号・9号・11号・12号・37号住居跡 | 第59図 出土遺物 21 |
| 第19図 4号・9号・11号・12号住居跡カマド | 第60図 出土遺物 22 |
| 第20図 5号住居跡 | 第61図 出土遺物 23 |
| 第21図 6号住居跡 | 第62図 出土遺物 24 |
| 第22図 7号・8号住居跡 | 第63図 出土遺物 25 |
| 第23図 10号住居跡 | 第64図 出土遺物 26 |
| 第24図 17号住居跡 | 第65図 出土遺物 27 |
| 第25図 19号・20号住居跡 23号土坑 | 第66図 出土遺物 28 |
| 第26図 21号・22号・23号住居跡 | 第67図 出土遺物 29 |
| 第27図 24号住居跡 | 第68図 出土遺物 30 |
| 第28図 25号住居跡 | 第69図 出土遺物 31 |
| 第29図 28号住居跡 | 第70図 出土遺物 32 |
| 第30図 29号住居跡 | 第71図 出土遺物 33 |
| 第31図 30号住居跡 | 第72図 出土遺物 34 |
| 第32図 31号住居跡 | 第73図 出土遺物 35 |
| 第33図 33号住居跡 | 第74図 出土遺物 36 |
| 第34図 34号住居跡 | 第75図 出土遺物 37 |
| 第35図 土坑 | 第76図 出土遺物 38 |
| 第36図 24号土坑～30号土坑(掘建柱建物状配置) | 第77図 出土遺物 39 |
| 第37図 2号溝 | 第78図 出土遺物 40 |
| 第38図 H-19・20グリッド内遺物集中 | 第79図 弥生時代後期前半の集落分布 |
| 第39図 出土遺物 1 | 第80図 笛状土製品 |
| 第40図 出土遺物 2 | 第81図 鉢付着スヌとオコゲ |
| 第41図 出土遺物 3 | |

表 目 次

表1 遺物観察表	82
表2 樹種同定結果	97
表3 微細物同定結果	98
表4 金の尾・下横屋・堂の前・音羽・横町各遺跡遺構遺物比較一覧	100

図 版 目 次

図版1 遺跡全景	
図版2 遺跡遠景 1号住居跡 1号住居跡遺物 2号住居跡 3号住居跡 15号住居跡	
図版3 15号住居跡遺物 同 同 18号住居跡 18号住居跡遺物 18号住居跡炭化材	
図版4 18号住居跡炭化材 同 同 26号住居跡 26号住居跡遺物 同	
図版5 35号住居跡 弥生時代遺物集中区 同 同 同 4号住居跡	
図版6 4号住居跡カマド 5号住居跡 5号住居跡遺物 同 5号住居跡カマド 同	
図版7 5号住居跡カマド 7号住居跡カマド 7号住居跡遺物 同 10号住居跡 11号住居跡	
図版8 11号住居跡遺物 同 同 21～23号住居跡 24・25号住居跡 25号住居跡遺物	
図版9 24号住居跡 24号住居跡カマド 29号住居跡 30号住居跡 H-20グリッド遺物 同	
図版10 出土遺物	
図版11 出土遺物	
図版12 出土遺物	
図版13 出土遺物	
図版14 出土遺物	
図版15 出土遺物	
図版16 出土遺物	
図版17 出土遺物	
図版18 出土遺物	
図版19 出土遺物	
図版20 18号住居跡炭化材断面	

第1章 調査概要

第1節 調査に至る経緯

国道141号線(青梅街道)の北側に建設中の新環状・西関東道路の敷設に先立って、平成10年度に、春日井町下岩下字横町周辺の試掘調査が実施された。その結果、土師器を中心とする平安時代の遺物が検出されたことから、発掘調査が必要と判断された。

平成11年6月18日より遺跡周辺の試掘調査に着手した。平成11年度の試掘では、前年度に試掘された場所に加えて、工事の着工が予定されている周辺部全域にわたって実施した。試掘は、1m×2mほどの試掘溝(トレーナー)を約5m間隔で任意に設定し、掘り下げを行った。その結果、平成10年度に調査が必要と判断された区域にその隣接地500m²を加えて、総面積約5000m²を調査対象としたことにした。県土木部にこの結果を報告し、7月より本調査を開始した。

発掘調査は、平成11年7月1日～11月30日の5ヶ月間にわたって実施し、基礎整理事業は平成11年12月～3月、本格的整理作業は平成12年10月～平成13年12月までの約1年2ヶ月間かけて実施された。

なお、文化財保護法に基づく手続きは以下の通りである。

平成11(1999)年4月 道々芽木遺跡の発掘通知を文化庁長官に提出

平成11(1999)年11月 道々芽木遺跡の埋蔵文化財発見通知を甲府警察署長に提出

第2節 調査組織

調査主体 山梨県教育委員会

調査機関 山梨県埋蔵文化財センター

調査担当者 平成11年度・12年度 長沢宏昌(県文化財主事)

三森鉄治(　　ク　　)

作業員 雨宮昭仁、赤岡 敦、齊藤重信、高野眞寿美、平本玲子、飯田みづほ、佐藤武光、宮沢初恵、深沢芳邦、依田政子、志村昌昭、佐田久男、廣瀬金吾、手塚房子、手塚盛明、川口雅人、野呂瀬 優、古屋清美、山下勝美、山下正子、長沼真一、長田 淳、酒井誠一、佐野友美、駒田壮飛、渡邊初江、鈴木幸子、梶原洋子、渡邊千春、渡邊 誠

整理作業員 高野眞寿美、平本玲子、雨宮昭仁、古屋清美、飯田みづほ、齊藤重信、佐藤武光、手塚房子、雨宮一二三、江川理恵、齊藤律子、平川涼子、長田久江、伊能あや子、渡辺和子

第2章 遺跡周辺の環境

横町遺跡のある東山梨郡春日居町は、県の中央部、甲府盆地の東部に位置し、東と北は山梨市、西は甲府市、南は石和町と一宮町と接する。北に兜山・菩提山が聳え、南東に笛吹川が流れる。調査区は、笛吹川の支流・平等川によって形成された自然堤防上、標高約290mに位置する。所在地の下岩下という字名は、隆々と岩肌の露出する兜山の「岩の下」に立地することに因むという。本遺跡周辺には、上町田遺跡、市道遺跡、中川田遺跡等、平安時代を中心とする遺跡群が濃密に分布する。

この一帯は古代の山梨郡に属し、郡名との関係が推定される山梨岡神社が鎮座する。また、国府(こう)地区周辺は、御坂町国衙、一宮町東原の甲斐国分寺・国分尼寺周辺と共に、甲斐国府の所在地に比定される地域の一つである。「和名抄」には、甲斐国府が東八代郡にあると記されているが、その跡地は現在の御坂町国衙に比定される。「和名抄」が成立したのは10世紀中頃であるから、それより若干遅る9世紀末ころの甲斐国府が東八代郡にあったのは疑いないとされる。その一方で、この御坂町国衙は笛吹川の氾濫によって後に移転した場所であり、初期の国府は春日居町国府に置かれたとする有力な説もある。その根拠として、隣接地に甲斐最古の寺本廃寺のあること、国衙の鎮守社と言われる守宮明神(甲斐奈神社)が鎮座すること、山梨岡神社・賀茂春日両社明神等の古社や古墳群が近くに所在するなどの諸条件が挙げられている。まだ不確定な要素は多いものの、春日居町国府に初期の甲斐国府が置かれた点については、ほぼ定説になりつつあるようである。

縄文時代・弥生時代の遺跡は明確でなく、前者については鎮目地区で前期から後期の土器片が採取された程度であり、後者についても横町遺跡と隣接する上町田遺跡で少量の土器片が検出された程度で、今までに遺構が発見された事例はなかった。従って、今回の調査によって検出された弥生住居跡は町内初の発見と言える。古墳時代における町内の遺跡には、御室山古墳・笛原3号墳などの積石塚、天神のこし古墳・寺の前古墳・狐塚古墳等の後期古墳が知られている。このうち、寺の前古墳・狐塚古墳からは、三角縁変形神人鏡、雲珠・銅容器・直刀・刀子・鉄鎌・馬具・須恵器等の副葬品が出土した。律令期の7世紀末になると、寺本廃寺が造営される。県内で7世紀代に遡る唯一の寺であることから、この時期における春日居地域の勢力増大を象徴すると言えよう。寺本廃寺の瓦は、横町遺跡より4kmほど南西に位置する甲府市の川田瓦窯跡で生産された。奈良時代になると、隣接地の上土器遺跡と共に、一宮町国分寺の瓦をも供給するようになる。大化の改新(645)以後、大和朝廷は中央集権的国家体制の強化を図る。地方行政の面では、国・郡・里(郷)制が成立し、甲斐国には山梨郡、八代郡、巨麻郡、都留郡が設置された。近年の発掘調査によって、甲府市大坪遺跡から「表門郷」の刻書土器、一宮町松原遺跡で「林戸」、「石禾東」、同町大原遺跡で「玉井郷長」の墨書き土器が出土し、各郷の所在地が次第に明らかになりつつある。上掲の大坪遺跡・道々茅木遺跡を含む甲府市東部が表門(うわと)郷、その東隣りが石禾郷、山梨岡神社の鎮座する春日居町鎮目の付近が山梨郷と推定されている。

平安時代の遺跡は、町内全域にわたって分布する。横町遺跡周辺では、東に中川田遺跡、西に上町田遺跡、南に市道遺跡がある。いずれも散布地であり、発掘調査は行われていないので詳細は不明である。

以上、本遺跡を取り巻く原始・古代における環境について概観した。本遺跡周辺は古墳後期から奈良・平安時代にわたる甲斐国を中心地であり、その意味でも極めて重要な地理的・歴史的環境にあると考えられる。

第1回 遺跡位置図 遺跡名

- 横町遺跡は図中の矢印部分 ●は古墳
- 1 中川田遺跡(平) 2 倍虎誕生屢敷(中) 3 善提山(中) 4 別田北遺跡(平) 5 上町田遺跡(弥~平) 6 市道遺跡(平) 7 別田南遺跡(平) 8 裏町遺跡(古~平) 9 羊戸遺跡(平) 10 鹿野北遺跡(古・平) 11 小川奥右門屋敷(中) 12 加茂東遺跡(古・平安) 13 五反田遺跡(奈・平) 14 保雲寺遺跡(古・平安) 15 鹿野南遺跡(古・平) 16 神東町遺跡(古・平) 17 春日神社裏遺跡(平) 18 寺本廃寺(古~平) 19 大尻遺跡(平) 20 桟田遺跡(平) 21 大中寺遺跡(古・平) 22 国府遺跡(奈・平)
※略字 弥：弥生、古：古墳、奈：奈良、平：平安、中：中世

第3章 遺構と遺物

第1節 遺構・遺物の概要

今回の調査は新環状・西関東道路とアクセス道路との交差点部分に当たるため、通常の本線よりも広いエリアが対象となった。試掘調査の結果、南北に細長い調査域が対象となった。グリッドは4mグリッドとしたが、工事用に設置されていたA J T 5杭(座標 X = -36275.149 Y = 13961.874)からA J T 4-1杭(座標 X = -36310.874 Y = 13941.209)を見通したラインを基準ラインとした。A J T 5杭から10mの地点に基準杭(D-16杭)を設置し、見通し方向に数字、直交方向にアルファベットをふって、4mグリッドを設定したものである。なお、数字の小さい方向を向いてグリッド中心に立った場合、その右後ろの杭がグリッド番号を示すことと規定した。

調査の結果、予想以上の遺構遺物集中区域が確認された。弥生時代後期の住居跡12軒、遺物集中区1カ所、平安時代後期の住居跡25軒、竪穴遺構1基、遺物集中区1カ所、時期不明の土坑16基と掘建柱建物跡らしき柱穴列2基などである。

以下に時期毎に各遺構の概要を記すが、遺物は弥生時代住居跡内出土土器から遺構外の平安時代遺物、石器・鉄器まですべてを通しナンバー表示することとする。

第2節 弥生時代住居跡

・1号住居跡

E-7-8、F-7-8グリッド。1号竪穴状遺構に切られる。長径5m、短径4.5mの楕円形を呈する。確認面からの深さは10cmと浅く、床は軟弱である。柱穴は全く確認されなかった。主軸は南東-北西方向を示す。床面上に10×20cmの範囲にわずかに焼土が確認されたが、これは主軸ライン上の南側壁にちかく、これが炉跡とすれば他の住居跡と全く反対方向の入り口が想定されることになる。焼土がわずかに飛散する程度であることや同じ方向に炭化材が確認されていることなどから、これを炉とは認識しにくく、炉は1号竪穴状遺構に切られた部分に想定しておきたい。

遺物は非常に少ない。(1・3・4)はいずれも床面直上からの出土である。

・2号住居跡

D-10-11、E-10-11グリッド。長径3.8m、短径3.5mの楕円形を呈し、確認面からの深さ35cmを計る。主軸は南東-北西で、主軸ライン上に炉が存在したものと考えられるが、主軸に直交する枕石が確認されたものの、焼土・カーボンはその付近に全く確認されなかった。

柱穴は、主軸からみて左側には4基、右側には3基が確認されているが、入り口部分の左右2基だけが深く他は浅いものである。本来右側にも4基あったものと想像されるが、ほとんど振り込みが確認できない程度の浅いものであったと考えられる。

遺物はわずかである。壺(6・8)と台付壺の高台部(7)はいずれも覆土からの出土である。

・3号住居跡

E-6-7、F-6-7グリッド。北側の一部を溝によって切られており、南側1/3は調査区域外のため未調査である。推定長径4.4m、短径3.5mの楕円形を呈し、確認面からの深さ10cmを計る。主軸は南南東-北北西で、他の住居跡に比べやや南を向いている。炉は主軸ライン上に存在する。砂層を振り込んだ住居跡であり、床面も砂で軟弱である。

炉は枕石を有する地床炉で、主軸ライン上の奥壁寄りに位置する。枕石の入り口部側が地床炉の燃焼部となり、深さ約10cmにわたって焼土(砂)が確認されている。柱穴や周溝などは確認されなかった。

遺物も非常に少ない。壺(10)、壺(11)、蓋(9)などが出土している。蓋は床面直上である。

・13号住居跡

G - 11・12、H - 11・12グリッド。2号溝によって東側の一部を切られ、中央部には擾乱が入っている。推定長径4.6m、短径3.8mの楕円形を呈し、確認面でいきなり床面が検出された状況である。したがって、壁は確認できても数cm確認に過ぎない。主軸は東南東-西北西で主軸ライン上の北西寄りに直径40cmで炭化物の集中が見られた。枕石や焼砂は確認されなかったが、おそらく炉と思われる。柱穴その他の施設も確認されていない。

遺物も少なく、片口(14)、壺(15)を示す。片口は床面直上である。

・14号住居跡

E - 11・12、F - 11・12グリッド。長径5.0m、短径4.5mの楕円形を呈し、本住居跡も確認面がそのまま床面であった。溝に一部を切られている。主軸は南東-北西で、主軸ライン上に炉が存在する。2号住居跡と同様、本住居跡でも主軸に直交する枕石が確認されたものの、焼砂・カーボンはその付近に全く確認されず、炉の構造や使用を窺い知る状況ではない。ただ、住居の推定範囲内には焼砂やカーボンがあちこちに飛散しており、一見して火災住居であったことが想定される。柱穴や周溝は確認されていない。

遺物はごくわずかで、壺(16・17)、ミニチュア(18)を示す。もちろん、いずれも床面直上で、とくにミニチュアは入り口部付近に置かれていた。

・15号住居跡

H - 16・17、I - 16・17グリッド。平安時代の17号住居跡に一部切られているが、推定長径4.6m、短径3.9mの楕円形を呈し、確認面からの深さ5cmを計る。主軸は南東-北西で、主軸ライン上に炉が存在する。

炉は、奥壁に近い部分に位置し、主軸に直交する枕石と、枕石に接して80×60cmの楕円形に5cmの厚さで焼砂が確認された。

柱穴は6本確認されている。主軸に対し、左右対称の位置に3本づつが確認されたもので、径40～50cm、深さ20～25cmを計る。

遺物は入り口右側に比較的多く集中していた。(19)は住居中央奥の炉を挟んでその両側につぶれていた。(21)は入り口左に大破片が、右に小破片となって散っていたもので、いずれも床面直上出土である。(20)も中央付近からの床面直上から出土している。器種は壺・壺・高杯・蓋が確認されている。

・16号住居跡

I - 17・18、J - 17・18グリッド。長径5.8m、短径5.0mの楕円形を呈し、確認面からの深さ5cmを計る。主軸は南東-北西で、主軸ライン上に炉が存在する。柱穴その他の施設は全く確認されなかった。

炉は、奥壁に近い部分に位置する地床炉で、枕石はなく70×50cmの楕円形に5cmの厚さで焼砂が確認された。

遺物は少なく、口唇部に刻みを有する壺と折り返し口縁の壺の破片が出土したのみである。

・18号住居跡

I - 23・24、J - 23・24グリッド。本住居跡の上には平安時代の19号、20号住居跡とそれより新しい時期の23号土坑が構築されている。平安時代の2軒の住居跡は掘り込みも浅く影響はほとんど無いが、土坑は本住居跡床面よりも10cm以上深く掘り込まれていた。さて、本住居跡は長径5.2m、短径4.5mの楕円形を呈し、確認面からの深さ15cmを計る。壁は緩やかに立ち上がり、床面は軟弱である。主軸は南南東-北北西で、主軸ライン上

に炉が存在する。

住居跡内には4基のピットが確認された。主軸ラインに入り口を仮定すると、入り口両側にピットが確認される。柱穴であろう。右側は1本で、床からの深さ約20cm、左側には2本が確認され、いずれも25cmである。左の2本は右に比べ一回り大きい掘り方を有する。形状は違うものの、主軸ラインからはそれぞれ約1mである。他の1基は土坑内に確認されたものであるが、径30cm程度の不整円形を呈し、推定される床面からの深さは約20cmである。これも他の3基のピットと同じ深さであり柱穴と考えられよう。本遺跡の他の住居跡の例からすれば、6本柱穴が一般的であるため、主軸の対称位置、さらには奥側も精査したが全く確認できなかった。

炉は主軸ライン上に枕石が確認され、枕石の入り口側に径50cmの燃焼部がある。内部にはわずかに焼砂が確認できる程度であり、砂地での燃焼の結果は通常の焼土の形成とかなり状況が異なることをものがたるものであろう。

さて、本住居跡は火災住居である。入り口部から左側にかけて炭化材が多く残存している。図中のエレベーションc-c'、d-d'にみられるように住居内部に倒れ込む状況が確認できる。なお、c-c'に確認された材は円形ではなく板状況を呈する。おそらく入り口部に横たわった材なども板状であったと考えられる。なお、これらの炭化材については樹種同定を行っているが、クヌギ節とコナラ節、さらにケヤキの3種類が確認されており、その詳細は第4章に示す。

遺物は口唇部に刻みを有する甕が多く、壺(49)、蓋(50)も確認されている。甕や壺の磨きは丁寧に行われている。また、小破片では波状文の施されたものが目立つ。なお、2点の筋錘車(250・251)が床面直上から出土している。

・26号住居跡

H-24、I-24グリッド。小型の住居跡であるが、形状ははっきりしない。本住居跡は調査区内の北東側に展開する疊層に掘り込まれたものである。疊層の一面の疊のなか、ところどころに疊が見られず遺物がまとまっている状況が確認されたことから、それらを遺構と判断し、焼砂やカマド残骸などが確認されたものについて住居跡として報告することとした。本住居跡もそんな住居跡のひとつである。

疊の見られない範囲を結び、それを住居跡の推定範囲と考えた。長径3.2m、短径2.9m程度となり、ほぼ3mの円形と推定される。範囲内には焼砂が飛散している。明確な炉をはじめ、柱穴や周溝などの施設も確認されなかった。

遺物はすべて床面としたレベルとほぼ同一で出土している。複合口縁の壺(64)や甕(66など)、高坏(67)などが出土している。なお、わずかに波状文の施された甕も見られる。

・27号住居跡

I-27、J-27グリッド。本住居跡も26号住居跡同様疊層の疊空白部を住居跡と認識したものであり、平安時代の30号住居跡に切られている。推定径2.8m程度と考えておく。炉、柱穴など住居跡内施設は全く確認されないが、推定域には焼砂が飛散している。

遺物は少ない。ほとんど波状文と簾状文の甕であるが、内外面条痕の小破片(76)が1点確認されている。

・32号住居跡

H-28・29、I-28・29グリッド。30号住居跡を挟んで27号住居跡と反対側に位置する。本住居跡も疊空白部分を住居跡と推定したものだが、推定径3.2m程度と27号住居跡より一回り大きい。やはり炉、柱穴などの施設は確認されていない。焼砂の飛散は同じである。

遺物は推定域全体から出土している。壺甕片口高坏など器種は豊富で出土量も比較的多い。波状文と簾状文の施されるものと条痕、さらに丁寧な磨きの行われるものなどバリエーションも豊富である。主体を成すのは波状文と

縦状文の組み合わせである。なお、107・108は上記の土器とは様相を異にし、櫛状工具による弧状文と斜格子が施されたものである。他の土器に比べ一段階古く位置づけられるものである。

・35号住居跡

H-21・22グリッド。長径42m、短径3.9mの梢円形を呈し、確認面からの深さ30cmを計る。床は軟弱である。主軸は南東-北西で主軸ライン奥に地床炉が確認された。

炉は枕石を有さない地床炉で、60×50cmの不整形に焼砂が形成されていた。焼砂の厚さは最大5cmである。柱穴周溝は全く確認されなかった。

遺物は住居全面からまばらに出土している。折り返し口縁の壺(110)や口縁部に刻みを有する壺(111)も確認されるが、主体をなすのは波状文・縦状文の壺である。そのほかの器種では高坏や片口などがある。なお、片口は炉の周辺に細片となって散っていた。

第3節 弥生時代遺物集中区

K-M-25～29グリッド。200m²程度の部分に弥生土器の集中が確認された。とくにK・L-27グリッド内で集中の度合いが濃い。土器は破片となって散っているが、24例の接合資料が確認されている。2m以内の接合例がほとんどであるが、最大の間隔を見てみると178は5.4m、126は3.6m、242は5.0m、154は5.0m、166は4.2m、169は4.0mを計る。これらについては、少なくともその場で捨てる(または置く)という行為は想定しにくく、離れた場所からの投棄とするほうが考え易い。接合破片数は最大が140の9点で、154の8点、134の6点と続く。

土器集中エリアの覆土は暗い褐色砂質土でとくに焼砂やカーボン、あるいは骨片などが集中していた訳ではない。また、石組みやピット、埋壺なども確認されなかった。ただ、土器に混ざって、人頭大の礫がまばらに確認されていることと、エリア内的一部にまるで住居床面であるかのような若干踏み固められた面(他遺跡の通常の住居跡の床面に比べるとるかに軟弱である)が確認されている。

県内のこれまでの調査例ではこの時期のこのような土器集中区域の確認は初めてであろう。住居跡群の一角に形成された土器集中区域といえば、土器捨て場を想定することが最も自然なのであろうが、縄文集落で確認されるそれに比べ、土器の量も少なく規模も小さい。集中区域が調査区域外に伸びることはあり得ないことから、少なくとも10数軒の住居の生活廃棄物の集積場たる土器捨て場にしては遺物の量が少なすぎる。先に記した様相からは祭祀も想定できず、この遺構の性格の決定付けは現状では困難である。

土器は124～254までの131点を示すが、実際にははるかに多くの小破片が出土している。器種には壺、壺、高坏がみられるが、波状文・縦状文の施された壺や条痕施文の壺の破片が目立つ。時期的にも同一時期の所産のものが多いと考えられるが、195・229のように一段階古く位置づけられる資料も含んでおり、このエリアの形成時期が短期間に限定できない状況である。

特殊遺物では紡錘車(252)が出土しているが、18号住居跡の2点とは形状が全く違い、断面四角形を呈し孔も大きい。また、249は中部高地の後期前半に時折見られる土製品で、完形で出土した事例では口縁部に小孔が穿たれており、笛の可能性が考えられる。なお、254は平安時代の壺の口縁部破片であるが、口縁部内面に焼成前にヘラ書きした文字(もしくは記号)が確認できる。このヘラ書きはさらに続いていると思われるが、小破片であるため判読できない。このような資料は類例がないものと思われる。

第4節 平安時代住居跡

・4号、9号、11号、12号、37号住居跡

D～F－12～15グリッド。5軒の住居跡が複雑に切り合い、さらに9号住居跡は7号・8号住居跡とも切り合うが、ここではこの5軒の住居跡について記す。これらの住居跡は確認面から床面までが非常に浅く、セクションではっきり切り合いの順序が確認できる状況ではなかったうえ、それぞれの住居跡の床面レベルも同じであったため、覆土の土色で図示した平面図のような切り合い関係、すなわち12号→11号・37号→4号→9号住居跡の順で新しくなると想定した。37号住居跡以外の4軒の住居跡からは灰釉陶器が出土しているが、いずれの住居跡からも美濃系の虎渓山1号窯と一段階新しい丸石2号窯の灰釉陶器が出土しており、灰釉陶器から前後関係を求めるることはできない。また、土師器は37号住居跡も含めほとんど同一の内容であり、そこからも確実な時期差を求められない状況である。5軒とも柱穴等の施設は全く確認されていない。カマド前面とその残骸付近の床面は踏み緩められていたが、それ以外の部分は軟弱である。

12号住居跡以外の4軒の住居跡は住居の辺の向きが同じである。これに対し12号住居跡は45度傾き、主軸がほぼ南北となっている。大きさは4号住居跡が5mの正方形、9号住居跡が長軸5m、短軸4.5m、11号住居跡が一辺4.2m、37号住居跡が一辺3m、12号住居跡は推定で一辺4.5m～5m程度である。

カマドは9号と4号住居跡で確認され、カマド残骸らしき焼砂のまとまりが11号と12号住居跡で確認されている。以下にその概要を記す。

4号＝東壁の南コーナー寄りに構築された石組みカマドである。袖石は高さ30cm程度で、2ないし3枚の石を並べたと思われるが、一番奥の袖石が立ったまま残っていた。袖石間は30cmを計る。焼砂は約5cmの厚さで堆積していた。

9号＝東コーナーに構築された石組みカマドである。1号土坑によってほとんど破壊されていたが、左側袖石と土留め石が立ったままであった。焼砂は堆積がみられるほどではなく飛散する程度であったが、全面にカーボンが散っていた。

11号＝東コーナー付近から中央部にかけて焼砂とカーボンの集中がみられ10～30cmの大石や土器破片も集中していたことからカマド残骸と判断した。焼砂とカーボン集中範囲は2×1mで焼砂はわずかである。石はあきらかに元位置は動いているがコーナーから1m、壁から50cmの大型の石1点のみ埋め込まれた状態で原位置と判断した。したがって本住居跡のも9号同様東コーナーカマドと考えておきたい。

12号＝南壁中央と住居跡内中央の2カ所に焼砂とカーボンが集中していた。いずれも焼砂は5cm以下の厚さである南壁の集中部には石が全く確認されていないが中央部には1点30cm大の石が確認されている。この2カ所ともカマドであるとすれば2軒の住居跡の重複も考えられるが、壁が確認されたのは南壁とその東コーナーだけであったため、1軒の住居跡として報告しておく。本住居跡のカマド位置は南壁中央と判断する。

遺物は非常に多いが、土師器の壺・高台付壺・皿・甕・鉢・羽釜、灰釉陶器の壺・皿・楕・甕などが出土している。4号住居跡ではこのうち羽釜が含まれない。283・284は今回の調査で唯一確認された青磁である。9号住居跡では土師器はすべての器種が存在するが灰釉陶器概要を少ない。また、273に示した4号住居跡の鉢と本住居跡の415では形状その他に大きな違いがあり興味深い。前者は他の甕と同様の胎土と整形が行われているのに対し、後者は大粒の砂粒が目立ち、質感が全く異なる。11号住居跡はすべての器種に小型の甕も加わり、量も多い。支障破片であるため正確さには欠けるが、羽釜が目立つ。12号住居跡も11号住居跡とほとんど同じ内容である。37号住居跡は遺物が少ない。

これら5軒の住居跡で共通するのは小型の壺である。底部の形状から判断すると4号住居跡の256・257は底部が丸みを帯びる。12号住居跡の463・466もこれに類似した状況と判断できる。これに対し9号住居跡の400・401は底部に角が生じつつある。底部変化を想定すれば、過渡的状況と考えられる。そして、11号住居跡の433と37号住居跡の670は底部が鋭く尖っており5軒の中では最も新しく位置づけることが可能であろう。小型壺の底部変

化である丸から角へという流れからは以上のような新旧関係、すなわち4号・12号→9号→11号・37号を考えられるが、これは土色による判断とは異なる。前述したように、含まれる灰釉陶器も10世紀後半と10世紀末～11世紀初頭のものが入り交じっており、時期決定は困難な状況である。ほとんど時期差の無い重複例である。なお、464は土器壊の一群众に混ぜて図版作成してしまったが、丸石2号窯期の灰釉陶器であった。

ところで、11号住居跡の441の高台付壊は、身部に白色粘土を用い、台部には赤褐色粘土を用いている。身部の白色粘土中にはこの地域で通常みられる赤色粒子が含まれ、色調の違いはともかく当地域の粘土が用いられていたことがわかる。台部の赤褐色粘土は色調は一見当地方の粘土と同じであるが特徴的な赤色粒子が含まれておらず、粘土は別地域のであろう。ともかく身部と台部の色調が全く異なり意識して製作されたものと考えられる。

・5号住居跡

B-13、C-13グリッド。調査区の制約から一部未調査である。主軸は4号住居跡などと同じく南東-北西で、南コーナーにカマドを有する。一辺3.5mの正方形と推定される。柱穴は確認できなかった。カマド全面のみ床が良好で、他は軟弱である。

カマドは1.5×1.2mの掘り方を有する石組みカマドで、焚き口部分の袖石間は40cmを計る。焼砂は約5cmの堆積であった。

遺物は比較的多く、壊・高台付壊・皿・甕・小型壺・鉢と灰釉陶器の壊が出土している。4号住居跡と同じ内容で時期的にも差が無いものであろう。

・6号住居跡

C-14グリッド。5号住居跡に隣接するが、これも調査区の制約から一部を調査したに過ぎない。一辺が推定で3m程度の小型の住居跡と推定されるが、確実に判断できたのは南西壁の一部だけである。住居跡の方向は4号住居跡などと同様である。

本住居跡は柱穴もカマドも確認されず、遺物の集中から住居番号を付したものである。

遺物は意外に多いものの、必ずしも住居跡の一括資料とは言い切れない。しかし、ここではまとめて図示している。壊・甕・羽釜・小型壺・置きカマドと灰釉陶器の壊と皿(段皿含む)が出土しており、隣接の5号住居跡と変わらない内容である。

・7号、8号住居跡

E-15・16、F-15・16グリッド。セクションから7号が8号を切っていると判断した。また、8号は南コーナーを1号土坑によって切られている。7号は長径3.5m、短径3m、8号住居跡は長径5.5m、短径4.2mと、いずれも長方形を呈するが、特に8号は極端である。住居跡の方向はいずれも4号住居跡などと同様である。

床面はカマド付近のみ固く、それ以外は軟弱である。柱穴は確認されていない。

カマドは、いずれもコーナーカマドであるが、7号は西コーナーに、8号は南コーナーに構築されている。

7号=1.1×0.7mの掘り方を有する石組みカマドで、袖石2枚ずつが両サイドに立っていた。袖石間は35～40cmを計る。焼砂は堆積する状態ではなくカーボンなどと混ざって飛散する程度であった。

8号=1号土坑によってほとんど破壊されており、残部を調査したものである。壁から1.5mのところにまで焼砂、カーボンがみられた。純粋な焼砂層ではないものの厚さは10cm程もあった。内部には最大25cm程の石が確認されており、これも石組みカマドであったと考えられる。

遺物は比較的多い。7号住居跡では壊・高台付壊・甕・鉢と灰釉陶器の皿・碗・壺が出土している。8号住居跡からは7号住居跡の器種に加え、羽釜と灰釉陶器の段皿が確認されている。これらの住居跡の灰釉陶器は虎渓山1号窯期のもので、灰釉陶器からは時期差が認められないが、住居跡の切り合い、及び小型壊の341と342、370と371の底部の比較から、7号がやや新しく位置づけられることになろう。

・10号住居跡

F - 14・15 G - 14・15 グリッド。非常に小型の住居跡で、一辺 2.8m である。本住居跡も完掘したにもかかわらず、カマドやその残骸が確認されなかった。若干の落ち込み部分に遺物が集中していたもので、住居跡ではない可能性もあるが、ここでは住居跡として報告する。方向は 4号住居跡などと同一である。はっきり床と判断できる硬化面も確認されていない。内部に 30cm 大の石数点が確認されるがまばらに散っており、その付近に土中に焼砂やカーボンが集中していることからカマドも存在しないと判断した。

遺物は壊・小型壺・鉢・羽釜と灰釉陶器の椀が出土している。

・17号住居跡

I - 16・17、J - 16・17 グリッド。弥生時代の 15号住居跡を切って作られている。方向は 4号住居跡などと同じである。やや不正な正方形で、一辺 3.1m を計る。床は極めて軟弱である。柱穴は確認されない。

カマドは南コーナーに構築された石組みカマドと思われるが、すでに破壊されており、30cm 大の石 1 点が確認されたに過ぎない。焼砂やカーボンはコーナーに沿うように $1.4 \times 0.8m$ の範囲に散っていた。

遺物は少なく、壊と壺が出土した。

・19号、20号住居跡

J - 23 グリッド。弥生時代の 18号住居跡内に構築された 2軒の住居跡である。この 2軒の住居跡は重複しているが、その重複部分に 23号土坑が掘り込まれており、切り合いは不明である。またこれらの住居跡もカマドが確認されたわけではなく、四角形の掘り込みが確認されたことで住居跡としたものである。

遺物はほとんどない。わずかに 19号住居跡では土坑の掘り込まれた部分から壊と灰釉陶器の椀(497～500)が、20号住居跡では小型壺の破片が出土しただけである(501)。

・21、22、23号住居跡

H - 14・15、I - 14・15 グリッド。3軒の重複である。22号・23号は 4号や 7号などと同じ方向を向くが、21号は角度がずれ、12号にちかい主軸方向を示す。これらの住居跡はセクションから 21号→23号→22号の順で新しくなると判断した。いずれの住居跡もカマドもしくはその残骸付近以外の床は軟弱である。柱穴は全く確認できなかった。21号住居跡は確認された一辺が約 3m、22号住居跡は一辺 2.8m の正方形を呈し、23号住居跡は長辺 3.5m、短辺 3m の長方形である。

カマドが良好に残っていたのは 22号住居跡で南コーナーに構築されたコーナーカマドである。 $1.2 \times 0.9m$ の梢円形の掘り方を有し、内部からは 20～50cm 大の石数点が出土している。しかし、いずれの石も原位置を止めていたとは考えられず、袖石の間隔等は不明である。本カマドには焼砂の堆積が厚く最大 10cm を計る。他の 2軒のカマドは既に破壊された残骸であるが、焼砂やカーボンの分布範囲からこれらもコーナーカマドであったと考えられる。23号はうすく焼砂やカーボンが散っている程度である。21号は壁に接して $1.2 \times 1.1m$ の範囲に焼砂やカーボンが飛散しており、10cm 程の厚さとなっている。焼砂の飛散状況は微妙で、コーナーカマドというより、コーナーにちかい位置に作られたものである可能性が高い。

遺物は少ない。21号住居跡からは壊・壺・鉢・置きカマド(502～510)が、22号住居跡からは壊・高台付壊・壺と灰釉陶器壊(511～521)が、23号住居跡からは壊壺羽窯灰釉陶器壊と椀(522～532)が出土している。

・24号、25号住居跡

G - 13・14、H - 13・14 グリッド。セクションから 25号住居跡が 24号住居跡を切っていることが確認された。住居跡の方位は 25号住居跡が 4号住居跡などと同一であり、24号住居跡はそれよりやや東に向く。いずれも南東側に擾乱を受けている。しかし擾乱は幅約 50cm と狭く、住居跡の大きさは推定可能である。24号住居跡は不整長方形。

方形で長辺3.8m、短辺3.1mを計る。25号住居跡はそれより一回り小さく、長辺3.5m、短辺2.9mを計る。今回確認された平安時代の住居跡のなかではこの2軒の住居跡の床は比較的しっかりしている。柱穴は確認されなかった。

カマドは24号住居跡にのみ確認されている。南コーナーに構築されたコーナーカマドで径0.8mの円形の掘り方を有し、内部から20～30cm大の石数点が出土している。内部には焼砂は飛散する程度であるが、カーボンだけが2cm程の厚さで層をなしていた。25号住居跡ではカマドは確認されなかったが、南東壁が全面攪乱を受けていたため、カマドはその部分に存在したものと思われる。

遺物は、24号住居跡から壺・鉢・蓋・甕・羽釜と灰釉陶器の椀・壺(533～547)が出土している。25号住居跡からは壺・甕・小型甕と灰釉陶器の椀・皿(548～564)が出土している。なお、25号住居跡の564は須恵器であるが、焼成温度によるものか赤褐色にちかい色調であり、通常の青灰色とは全く違う質感である。

・28号住居跡

H-27・28、I-27・28グリッド。本住居跡も疊層中に掘り込まれた住居跡で、疊の空白部分に焼砂やカーボンが飛散している状況から住居跡と判断したものである。長辺4.3m、短辺3.6m程度の長方形住居跡と推定される。焼砂等は住居内と思われる部分のはば全面に散っていることから、あるいは火災住居であったかもしれない。カマド、柱穴等は一切確認されなかった。

遺物は少なく壺・甕・鉢・羽釜などが出土(565～575)している。

・29号住居跡

J-26・27、K-26・27グリッド。弥生土器集中区内に掘り混まれた住居跡で、わずかながらも遺物が集中していた部分でカマドが確認されたことから住居跡と判断した。カマド部分は疊層にかかるが住居本体はもともと疊の存在しない部分に構築されている。辺が未確認のため定かではないが、一辺4m程度と推定される。

遺物はカマド内から壺(576)が、その周辺から壺・高台付壺・羽釜と灰釉陶器の椀が出土(577～586)している。

・30号住居跡

I・J-28グリッド。本住居跡も疊層中に掘り込まれた住居跡で、弥生時代の27号、32号住居跡を切っている。疊の空白部から一辺2m程度の小型の住居跡と推定されるが、カマドは一部残存していた。カマドは0.8×0.7mの掘り方を有し、25cmのいしを袖石とした石組みカマドである。両袖石は立ったままであり、焚き口間は約30cmである。カマド上部にわずかに焼砂ブロックが確認された程度で、燃焼部内部には焼砂は飛散する程度であった。

遺物はカマド内部から壺(587)と甕(594)、さらに灰釉陶器壺(596・597)が、周辺から壺・高台付壺・灰釉陶器壺が出土(588～595)している。

・31号住居跡

G-27・28、H-27・28グリッド。本住居跡も疊層中に掘り込まれた住居跡であるが調査区の制約からおおむね半分の調査となった。疊空白部と遺物の散布状況から、一辺4.2m程度と推定される。調査範囲内では柱穴もカマドも確認されていない。

遺物は意外に多く、壺・高台付壺・甕・羽釜と灰釉陶器の椀・壺、須恵器甕が出土(598～624)している。

・33号住居跡

F-15・16、G-15・16グリッド。8号住居跡に接し、土坑に切られている。住居跡の辺の方向は4号住居跡などと同じである。床はカマド付近以外は軟弱である。柱穴は確認されず、カマドは西コーナーに構築された石組みカマドである。

カマドは、残骸であったが、コーナーを中心に1mの扇形に焼砂やカーボンの集中がみられた。また、内部には

20～30cm 大の石数点が確認されている。この部分の中心最下層には焼砂が3cmの厚さで堆積していた。

遺物はカマド内から甕(638・640・641)と灰釉陶器碗(649)が出土した。それ以外では壺・高台付壺・甕・羽釜と灰釉陶器の碗・皿などが出(625～652)しているが、646は2ないし3単位の把手となる丸底の鍋である。11世紀中葉以降に主体となるもので、今回の調査では唯一の出土である。

・34号住居跡

G-18・19グリッド。一辺3.4mの正方形住居跡で辺の方向は4号住居跡などと同じである。4基の土坑に切られ、一部搅乱を受けている。床はカマド付近以外は軟弱である。柱穴は確認されなかった。

カマドは西コーナーに構築されたコーナーカマドである。0.8×1.2mの掘り方を有し、内部には20～40cm大の石が多く確認されている。すべての石が横たわっており、すでに破壊されていたことが明らかである。袖石もはっきりせず、焚き口の幅も不明である。内部にはわずかに焼砂が飛散する程度であった。

遺物は、壺・高台付壺・高台付皿・甕・鉢と灰釉陶器の碗・壺などが出土(653～669)している。

・36号住居跡

C-10グリッド。一辺約3mの小型の浅い落ち込みが確認され、わずかに焼砂やカーボンの飛散が認められたことと大きさから住居跡と判断したものである。カマドの痕跡は全く認められず、遺物も全く出土しなかった。

第五節 土坑

本節では土坑について記すが、竪穴状造構として調査した造構についても、まとめて本節で報告する。

・1号竪穴

G-8グリッド。3号住居跡を切っている。3.8×2.1mの長方形を呈し、確認面からの深さ0.4mを計る。住居跡の覆土と違い、焼砂やカーボンは含まれない。掘り込み下部には疊層が存在するため底面や壁面のところどころに疊が顔を出している。遺物は住居跡と同じ時期の壺・高台付壺・甕と灰釉陶器の壺が出土(681～687)した。

・1号土坑

E-15グリッド。4号、8号、9号住居跡を切っている。長方形を呈し、長径3.8m、短径1.3m、確認面からの深さ0.4mを計る。住居跡群と同じ時期の688～694の遺物が出土しているが、中層部からキセル破片(未実測)が出土しており、おそらく江戸期以降の墓坑と思われるが、墓坑とすれば、江戸期に通常みられる座棺ではなく伸展葬となろう。

・2号土坑

C・D-11グリッド。楕円形を呈し、長径1.7m、短径0.8m、確認面からの深さ0.2mを計る。

・3号土坑

D-11グリッド。不整楕円形を呈し、長径1.2m、短径0.9m、確認面からの深さ0.2mを計る。

・4号土坑

D-11グリッド。円形を呈し、径1.2m、確認面からの深さ0.2mを計る。

・5号土坑

E - 12 グリッド。不整円形を呈し、径 1.2m、確認面からの深さ 0.2m を計る。

・6号土坑

E - 12 グリッド。不整椭円形を呈し、長径 1.5m、短径 1.1m、確認面からの深さ 0.2m を計る。

・7号土坑

G - 17 グリッド。円形を呈し、径 1.1m、確認面からの深さ 0.2m を計る。覆土中からわずかに甕の小破片が出士した。

・8号土坑

H - 17 グリッド。不整椭円形を呈し、長径 1.5m、短径 1m、確認面からの深さ 0.2m を計る。

・9号土坑

H - 17 グリッド。円形を呈し、径 0.9m、確認面からの深さ 0.2m を計る。

・10号土坑

G - 19 グリッド。不整円形を呈し、径 1.1m、確認面からの深さ 0.3m を計る。

・11号土坑

F・G - 19 グリッド。円形を呈し、径 1.2m、確認面からの深さ 0.2m を計る。

・12号土坑(欠番)

・13号土坑

G - 19 グリッド。円形を呈し、径 1.1m、確認面からの深さ 0.2m を計る。

・14号土坑

G - 19 グリッド。34号住居跡を切っている。円形を呈し、径 1m、確認面からの深さ 0.1m を計る。

・15号土坑

G - 19 グリッド。本土坑も 34号住居跡を切っている。円形を呈し、径 1m、確認面からの深さ 0.1m を計る。

・16号土坑

G - 20 グリッド。不整椭円形を呈し、長径 0.9m、短径 0.7m、確認面からの深さ 0.1m を計る。

・17号土坑

G - 20 グリッド。円形を呈し、径 1m、確認面からの深さ 0.2m を計る。

・18号土坑

K - 20 グリッド。椭円形を呈し、長径 1m、短径 0.8m、確認面からの深さ 0.2m を計る。

・19号土坑

K-19グリッド。楕円形を呈し、長径0.7m、短径0.6m、確認面からの深さ0.1mを計る。

・20号土坑

K-19グリッド。楕円形を呈し、長径1.1m、短径0.9m、確認面からの深さ0.1mを計る。覆土中から平安時代の壺底部と羽釜片が出土した。

・21号土坑

K-19グリッド。円形を呈し、径1.1m、確認面からの深さ0.1mを計る。

・22号土坑(欠番)

・23号土坑

J-23グリッド。18号、19号、20号住居跡内に掘りこまれた土坑で、不整形を呈し、長径2.2m、短径1.9m、確認面からの深さ0.3mを計る。

・24号～30号土坑

これらは当初個々に土坑番号を付して方形の土坑と認識していたが、図に示したように直線上の並びが確認できたため、まとめて報告することとする。24～27号までがL字状の並びとなり、28～30号までそれとやや角度を変えて直角に交わる位置に確認された。それぞれ一辺1.6m前後の方形を呈し、確認面からは0.2m前後の深さである。ただし、25号だけが一回り大きく、一辺約2mの大きさである。大きさ、深さ、並びなどから同一の時期かつ目的のもとに掘られたことは明らかであろう。

このような並びからは、通常、掘立柱建物跡が想起されるため、図もそれを想定した図を示すこととしておいた。しかし、これらの土坑については覆土の縮まりがなく、他の平安時代の遺構とは明らかに覆土の土質も違うこと、平安時代末の住居跡を切っていることなどから、少なくとも平安時代にまで溯源り得る土坑列とは考えられない。逆に、ビニールなど明らかに搅乱を示す物は含まれていない。なお、25号土坑からは覆土中から弥生時代の壺、平安時代の壺・壺の破片が出土しているが、平安時代にまで溯源り得ないという認識から図示していない。ただ1点27号内から近世かと思われる素焼きの小型壺と思われる小破片が出土している。これについての時期の特定はできないが、これを土坑に伴うものと考えれば、近世もしくはそれ以降の土坑列の可能性を考えておきたい。

・31号土坑

G-19グリッド。本土坑も34号住居跡を切って構築されている。円形を呈し、径1.1m、確認面からの深さ0.1mを計る。

・32号土坑

G-19グリッド。本土坑も34号住居跡を切っている。不整円形を呈し、長径1.4m、短径1.1m、確認面からの深さ0.1mを計る。

・33号土坑

F-19グリッド。円形を呈し、径1m、確認面からの深さ0.1mを計る。

・34号土坑

D-12グリッド。円形を呈し、径1m、確認面からの深さ0.2mを計る。摩滅した土師器破片と灰釉陶器破片が出土している。

・35号土坑

M-27グリッド。不整円形を呈し、径1.5m、確認面からの深さ0.1mを計る。本土坑からは、図示していないが、弥生時代の住居跡群と同じ時期の土器破片が出土している。口唇部に刻みを有する壺破片、波状文と簾状文の頸部破片、内外面条痕文胸部破片などである。

第6節 溝

今回の調査では平安時代の溝一条と時期不明の溝二条が確認された。後者は規模も小さく、遺物も出土していない。ここでは多量の遺物が出土した2号溝を報告する。

・2号溝

今回の調査区を横断する形で確認された溝で、今回設定したグリッドラインに対しほば45度の傾きで流れるが、傾斜から北々西→南々東への流れが想定される。

狭い部分で0.9m、広い部分で1.9mの幅となっているが、1.2m程度の幅が平均であろうか。確認面からの深さは0.2m～0.4mである。溝自体が砂層に掘り込まれたものであるが、覆土も当然砂質土である。

遺物は、溝の全域から出土しているが、南になればなるほど遺物が濃くなる状況が把握できる。一部に弥生土器も含むものの、ほとんど平安時代の住居跡群と同じ時期の遺物に限られる。そのなかで30資料(1資料は番号不明のため図示せず)の接合が確認されている。3点の接合は699・722・733・807・808・811・812・813の8資料であるが、733の4.2mである。2点の接合は695・698・699・701・736・743・752・758・759・770・771・774・777・793・798・802・805・810・814・815・820の21資料であるが、こちらは距離の離れた接合例が多い。698の14.8mが最も遠く、695の9.8m、793の9.2m、815の8.7mなどが挙げられる。

土師器の壺が主体であるが、695～698などと699の底部の状況の違いから、若干の時期差を求めるこどもできるよう、こらは住居跡の時期差の範囲内であり、日常の生活の中での廃棄の結果と考えることが可能であろう。他の器種も、高台付壺・壺・鉢・羽釜などの構成は住居跡のそれと全く同じである。灰釉陶器は虎渓山1号窯期と丸石2号窯期が混在しており、これも住居跡の状況と違わない。

772は、溝とは明らかに時期の異なる弥生時代後期の壺底部である。底部に見慣れない調整の痕跡があるので報告する。土器整形後、焼成前の段階で底面内側の中心部を櫛状工具によってえぐり取り、本来10mmはある底部厚を1mmにまで薄くしたものである。これが破片であるために中心の状況は不明であるが、中心は穴が空けられていたかもしれない。しかし、通常焼成前の“穿孔”であるならば、きれいな円形に穿孔するはずであるし、回りにいくらでもある円柱状の道具を使えば事足りるのであって、このような手間のかかる方法を用いるのはずもない。また、このようなえぐりの痕跡をそのままにして、未調整のまま焼成することなど考えられない。どう考えてもえぐりの痕跡をそのままに残すことが目的であったとしか考えられない。また、えぐりが外面にまで達していたのかも不明であり、興味深い資料である。

第7節 遺構外出土遺物

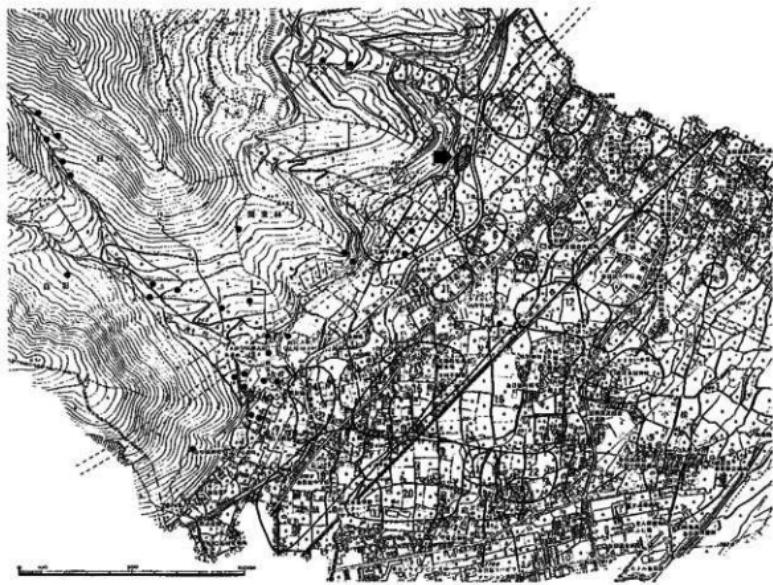
遺構に伴わない遺物は非常に多くすべてを取り上げることはとても不可能であるので、特に遺物の集中が見られたH-19・20グリッドの平安時代遺物を中心に述べることとする。

H - 19・20グリッドでは第図に示したように遺物の集中が見られた。図に示したように集中の一部に20~40cm 大の石やこの集中範囲内に焼砂・カーボンのまとまりがみられることから住居跡であったことも否定できないが、遺構として捉えるまでにはいたらず、ここで報告することとする。821~838までに復元資料を示した。

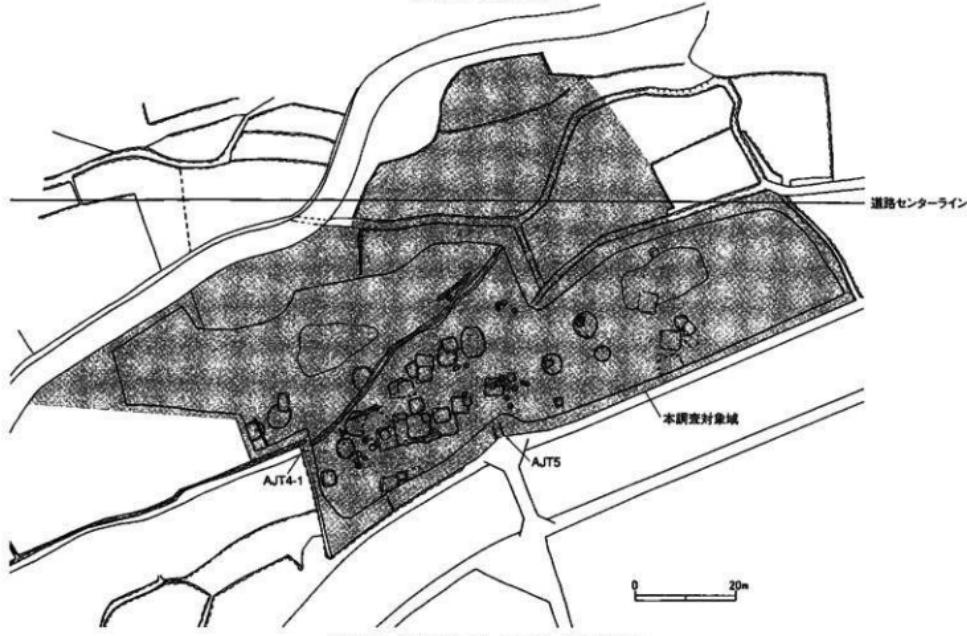
壺8個体、高台付皿1個体、高台付壺3個体、甕3個体、鉢3個体である。これらの資料は住居跡の内容と変わるものではないが、羽釜や灰釉陶器が含まれないことと、838に示した鉢が通常の甲斐型の(甕系)鉢と様相が異なることなどが相違として挙げられる。

839の置きカマドはI - 29・30グリッドから出土したものであるが、通常の置きカマドは底部の幅が広く、掛け口が狭くなる形態であるのに対し、本資料は明らかに上部の掛け口が広い形態となっている。熱効率からは、このような形態が好ましくないことは明らかであるが、あえてこのような形態のものを作っているのである。

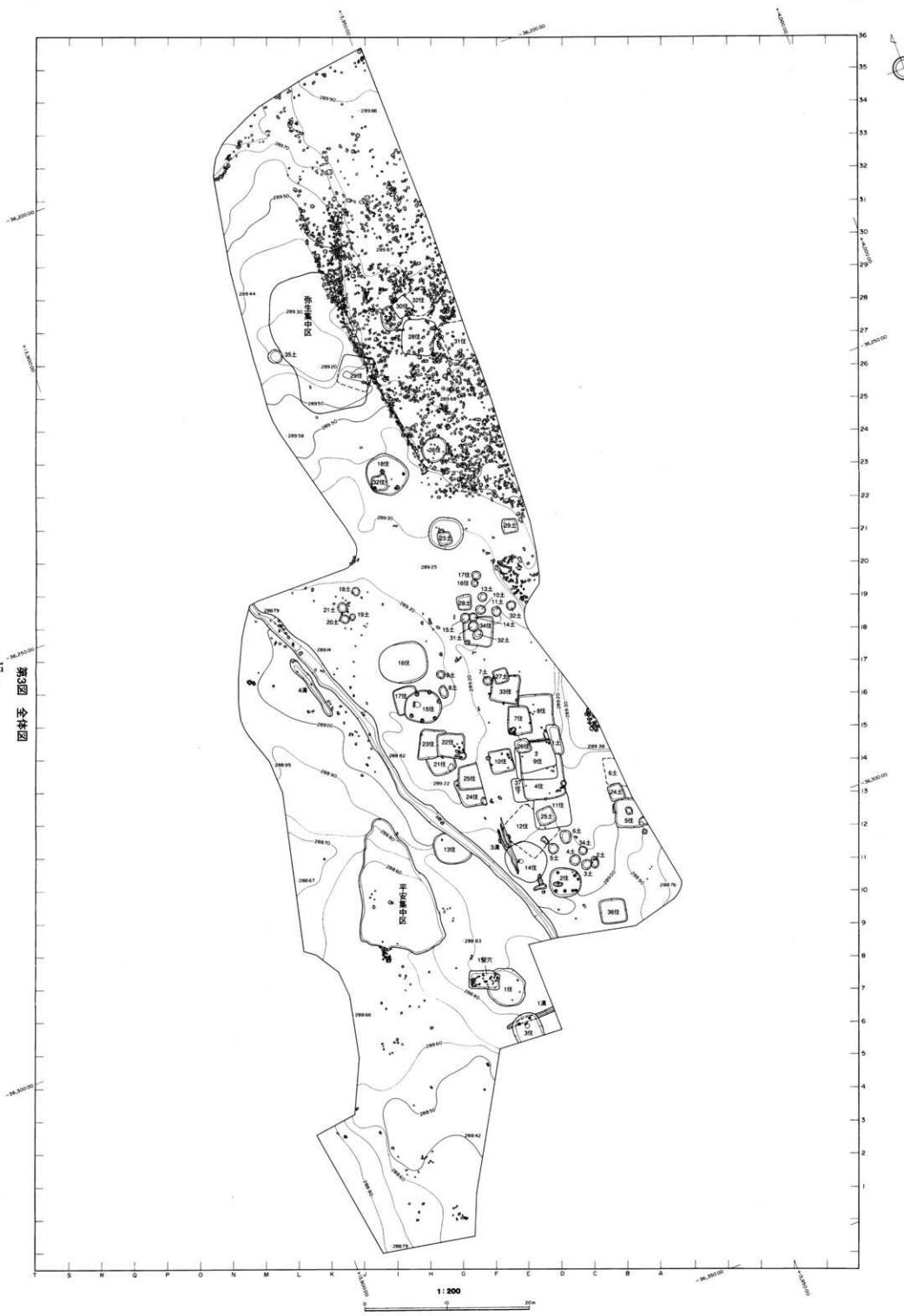
255はK - 30グリッド出土の壺で、体部下部の削りもみられず直線的な胴部となっていることなどから11世紀代に位置づけておく。本資料の底部内面には、焼成前にヘラで“大”の文字が書かれている。

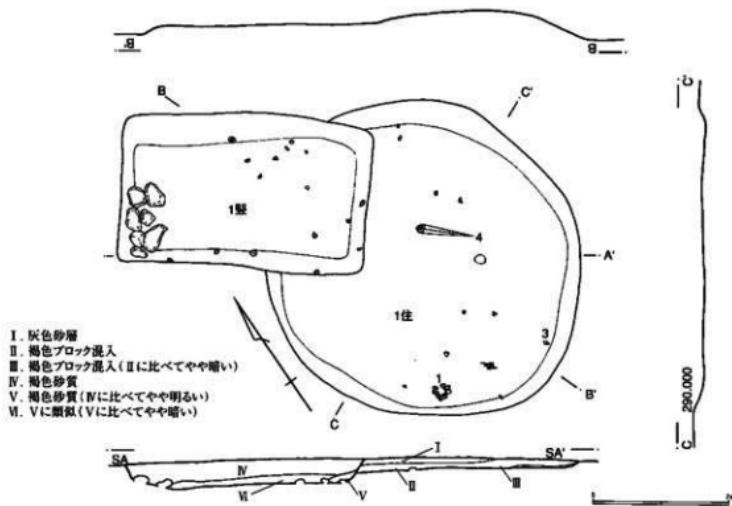


第1図 遺跡位置図

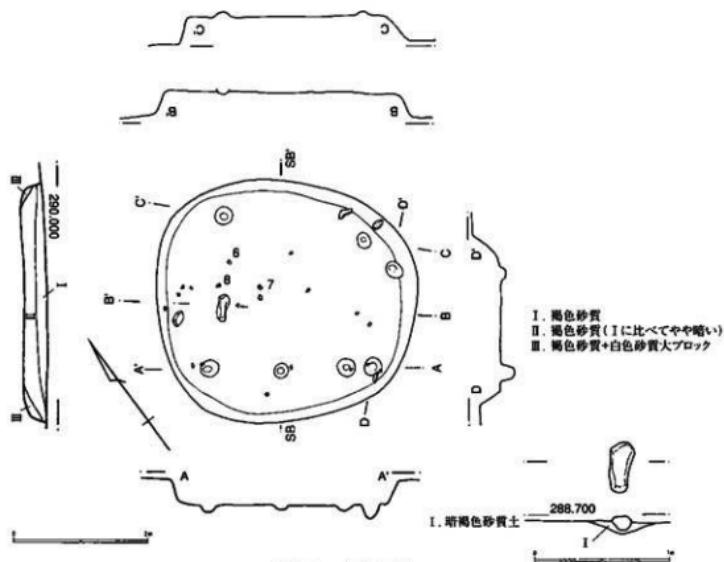


第2図 道路センターラインと調査区域

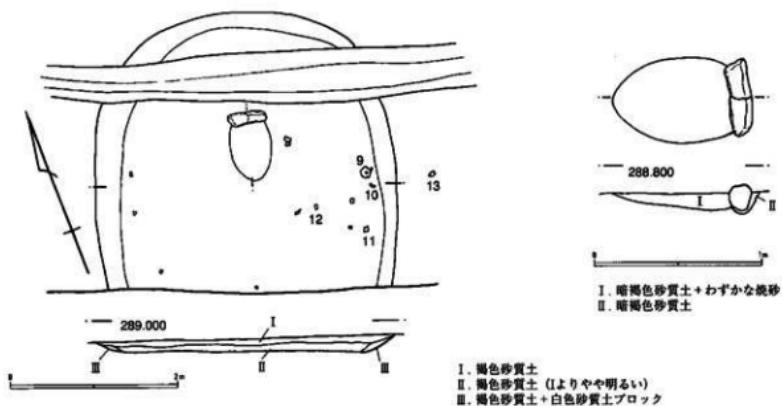




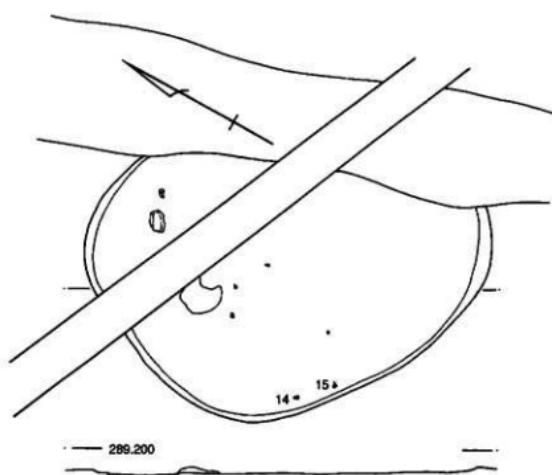
第4図 1号住居跡



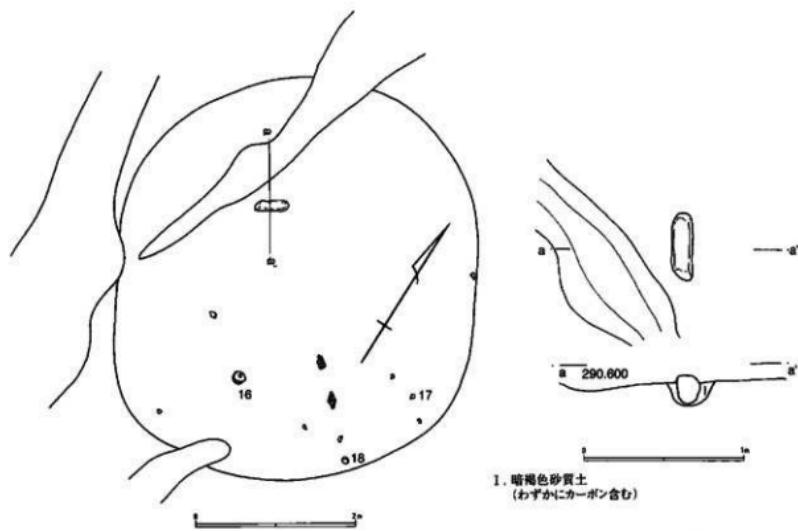
第5図 2号住居跡



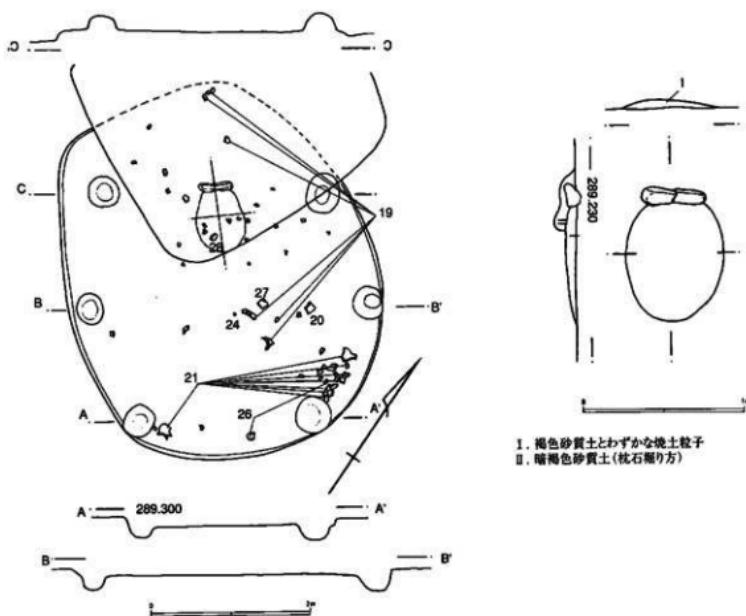
第6図 3号住居跡



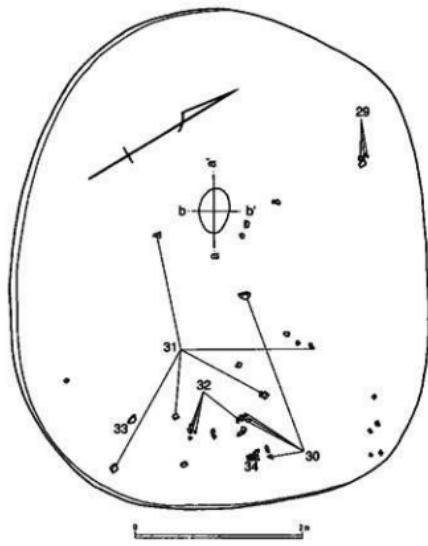
第7図 13号住居跡



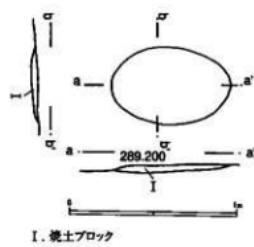
第8図 14号住居跡



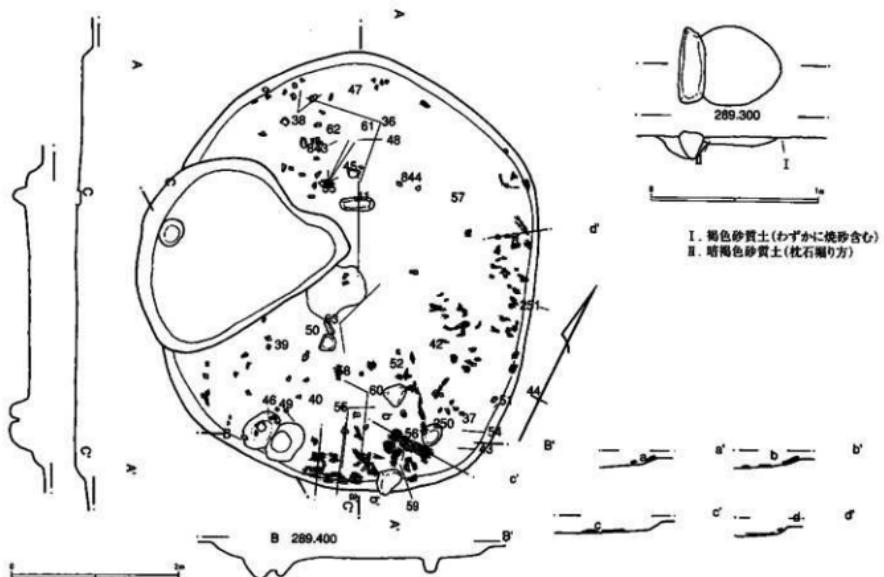
第9図 15号住居跡



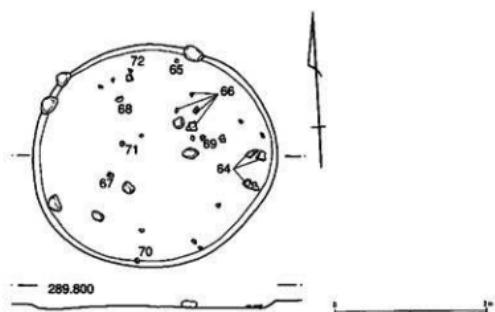
第10図 16号住居跡



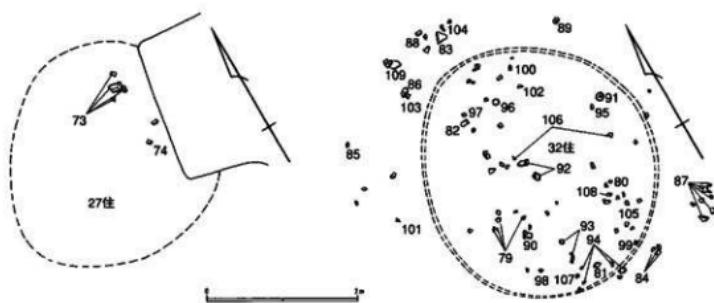
I. 焼土ブロック



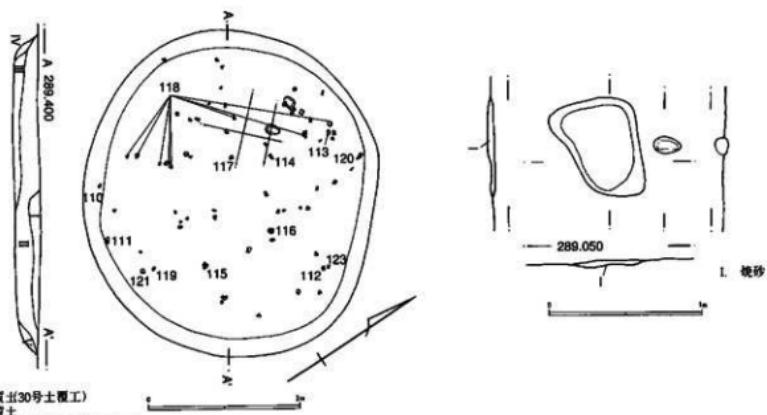
第11図 18号住居跡



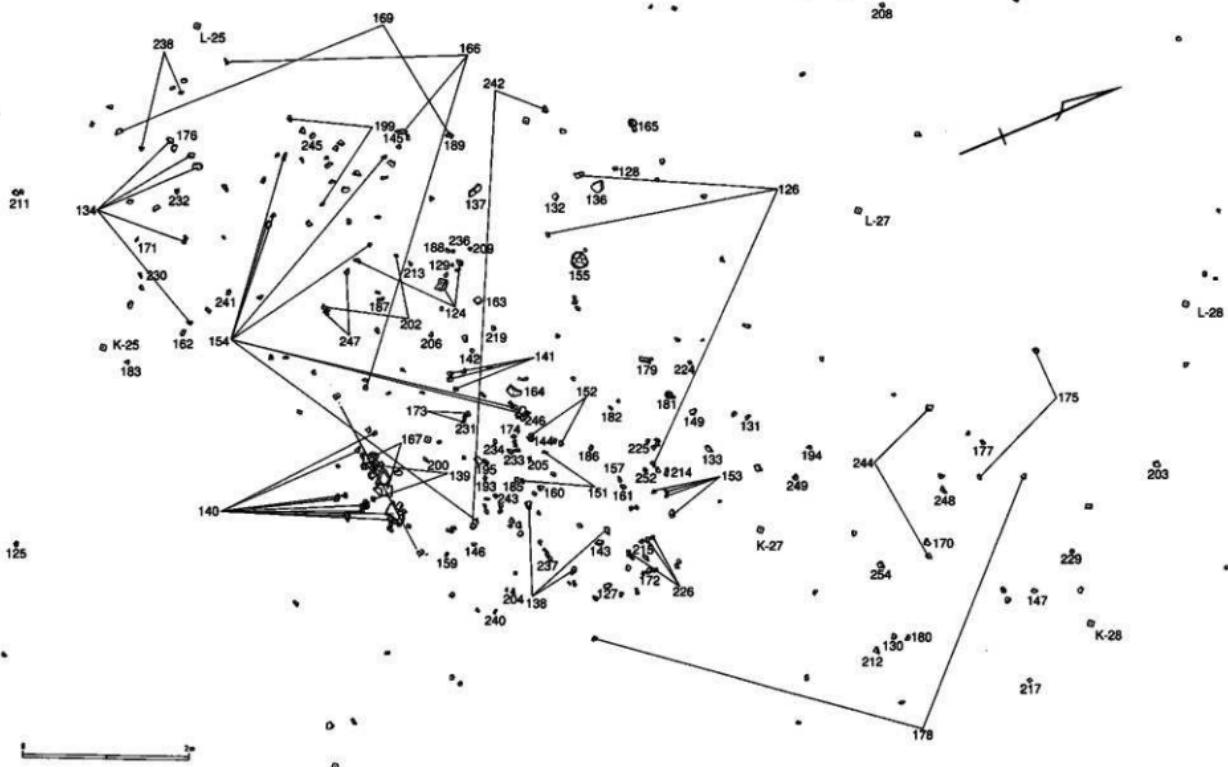
第12図 26号住居跡



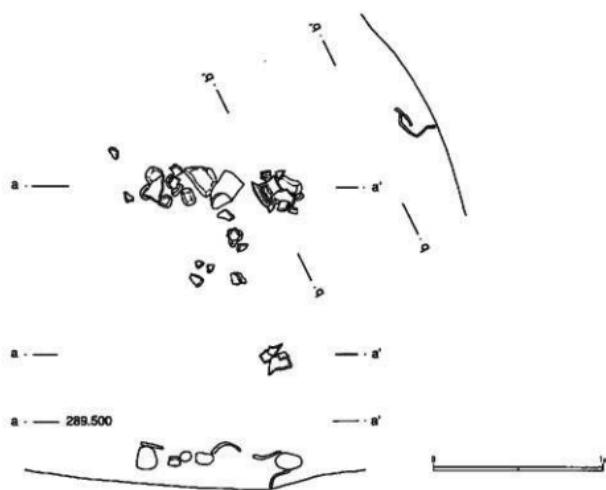
第13図 27号・32号住居跡



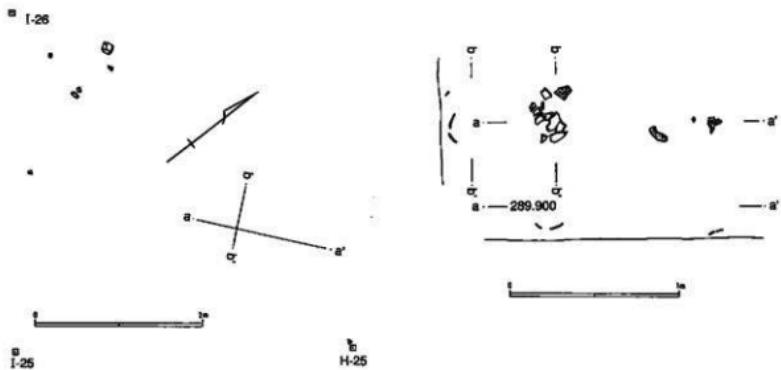
第14図 35号住居跡



第15図 弥生時代遺物集中区



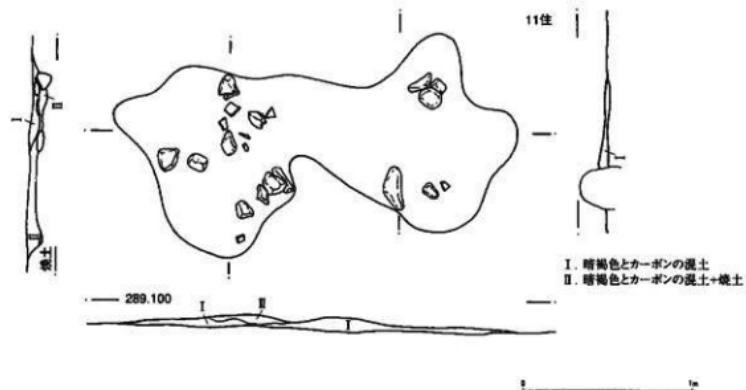
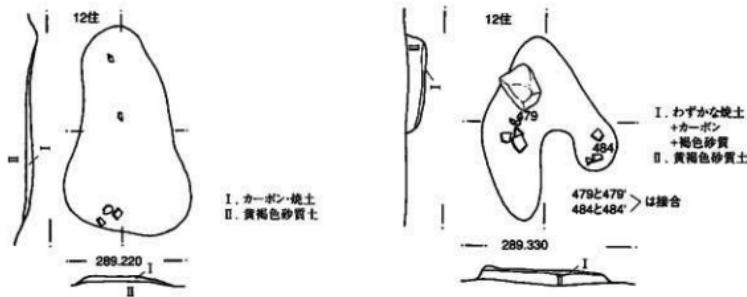
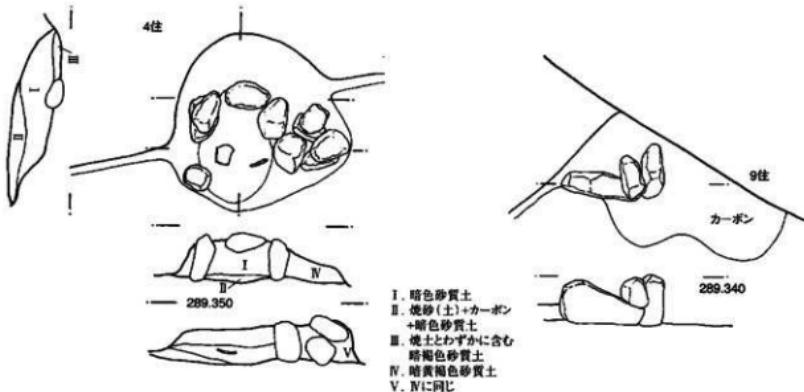
第16図 弥生時代遺物集中区微細図



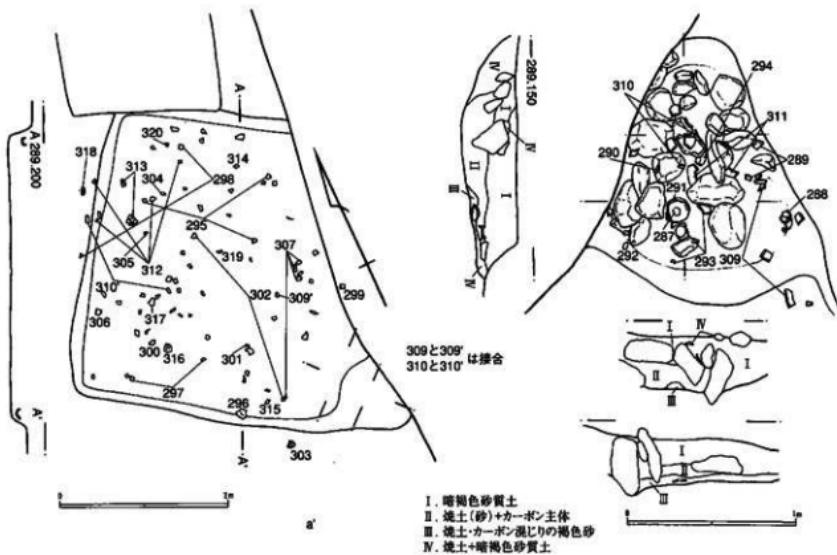
第17図 I-26グリッド弥生土器集中区



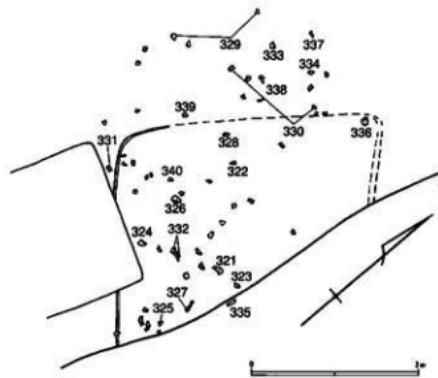
第18図 4号・9号・11号・12号・37号住居跡



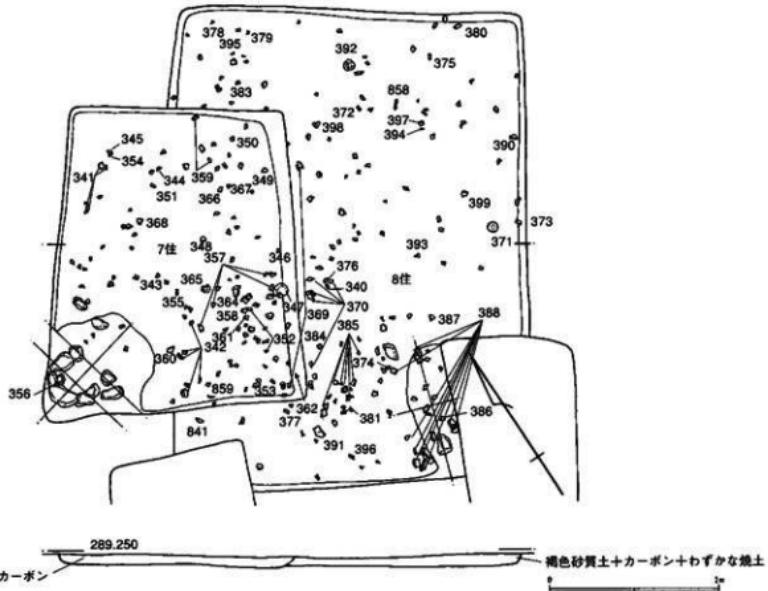
第19図 各住居跡カマド



第20図 5号住居跡



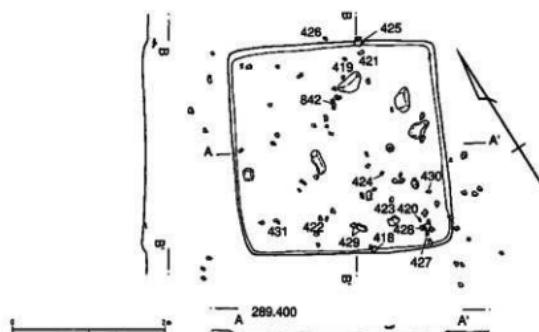
第21図 6号住居跡



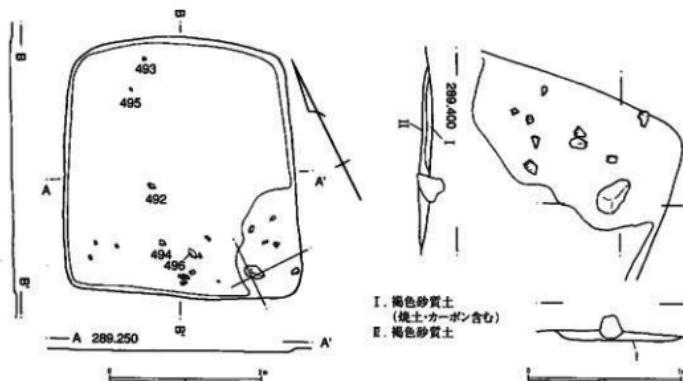
- I. 暗褐色砂質土
(焼土・カーボン含む)
II. 暗褐色砂質土
(カーボン主体)
III. 暗褐色砂質土
IV. 暗褐色砂質土
V. III層と類似=褐色砂質土
VI. 褐色砂質土
(III, V, VI層と類似)

- I. 暗褐色砂質土
(焼土・カーボン・灰含む)
II. 暗褐色砂質土
(焼土・カーボンを含む)
(I層に比べ少ない)

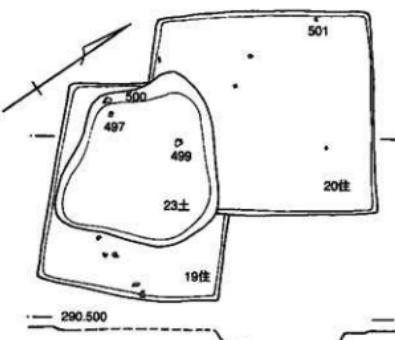
第22図 7号・8号住居跡



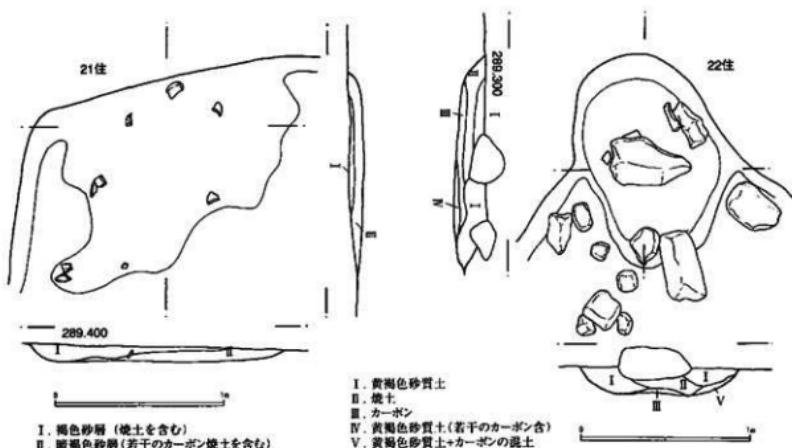
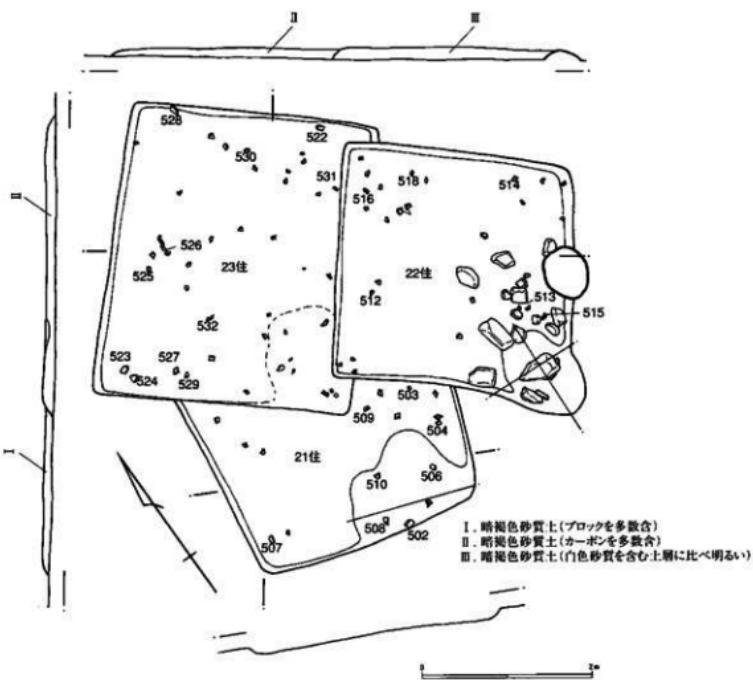
第23図 10号住居跡



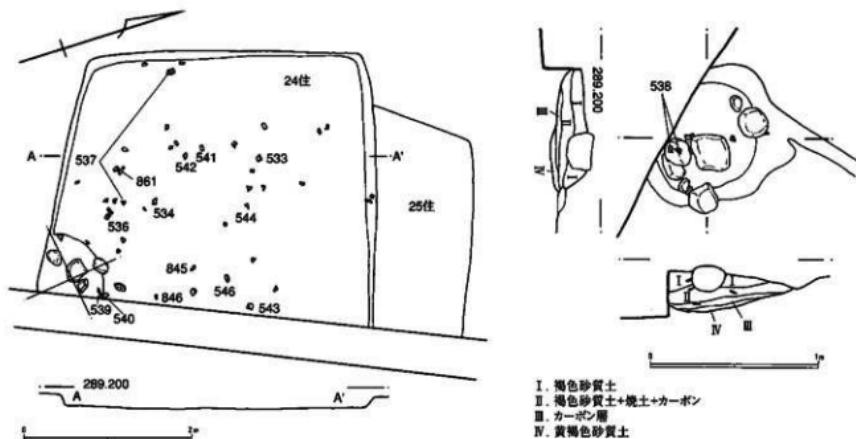
第24図 17号住居跡



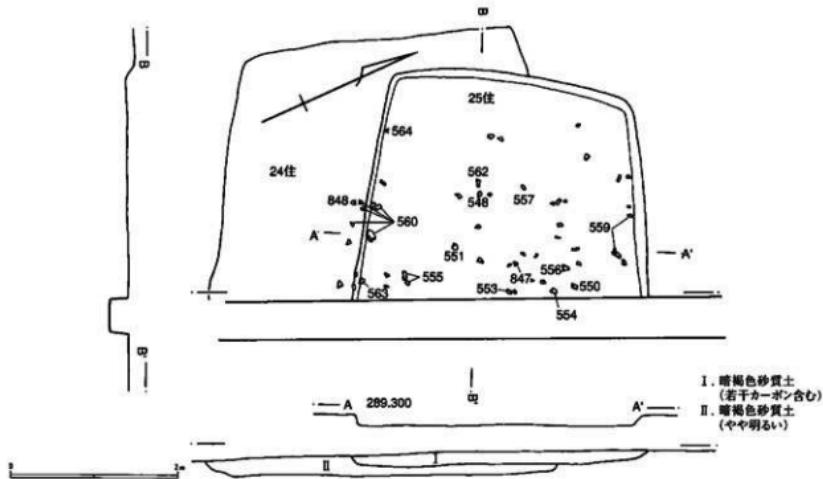
第25図 19号・20号住居跡 23号土坑



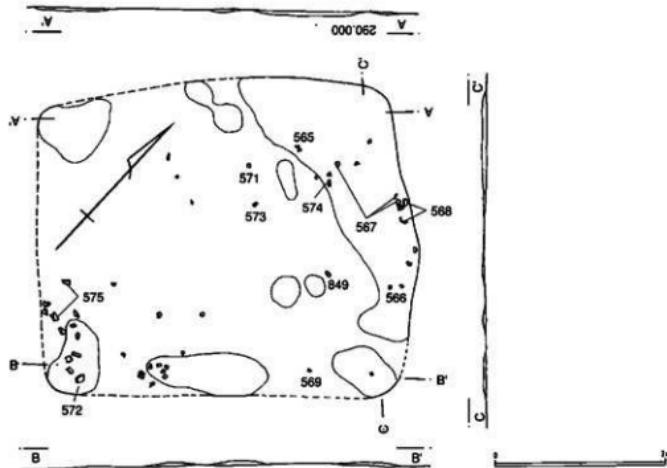
第26図 21号・22号・23号住居跡



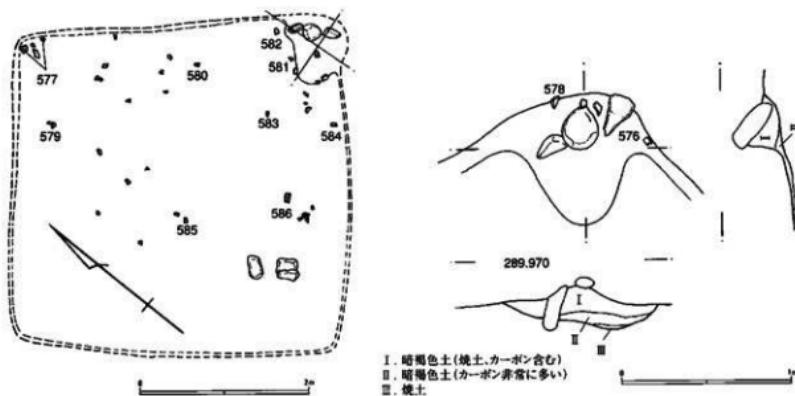
第27図 24号住居跡



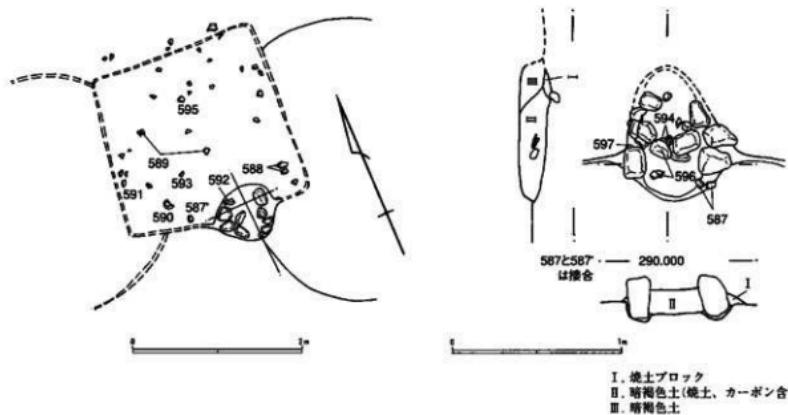
第28図 25号住居跡



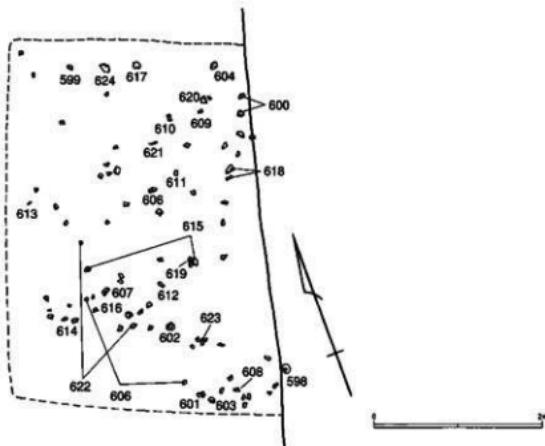
第29図 28号住居跡



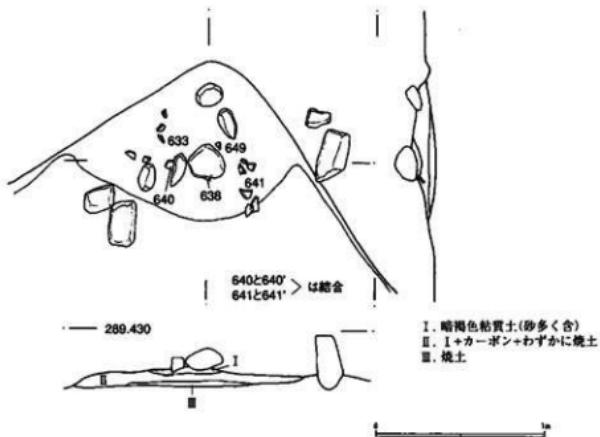
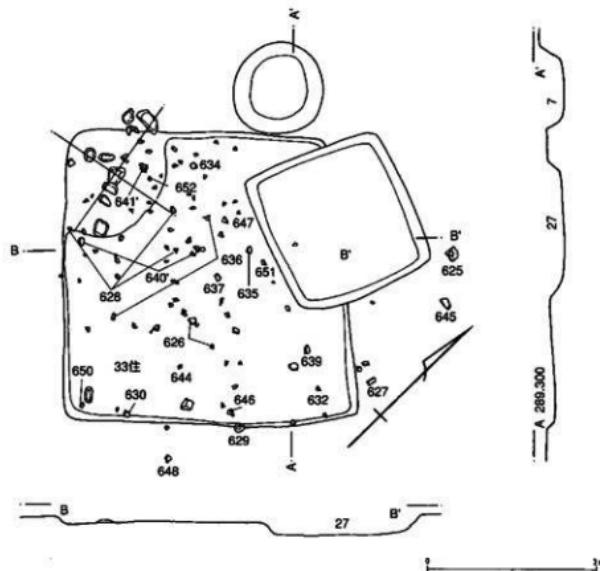
第30図 29号住居跡



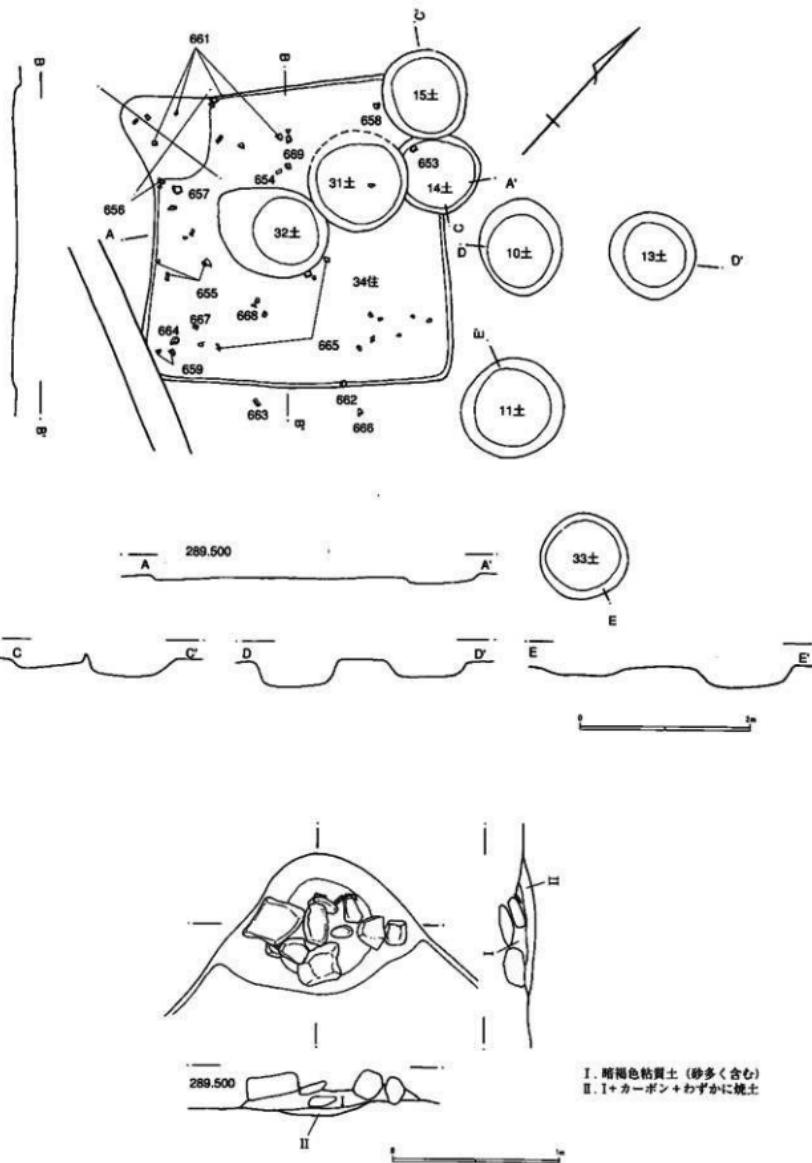
第31図 30号住居跡



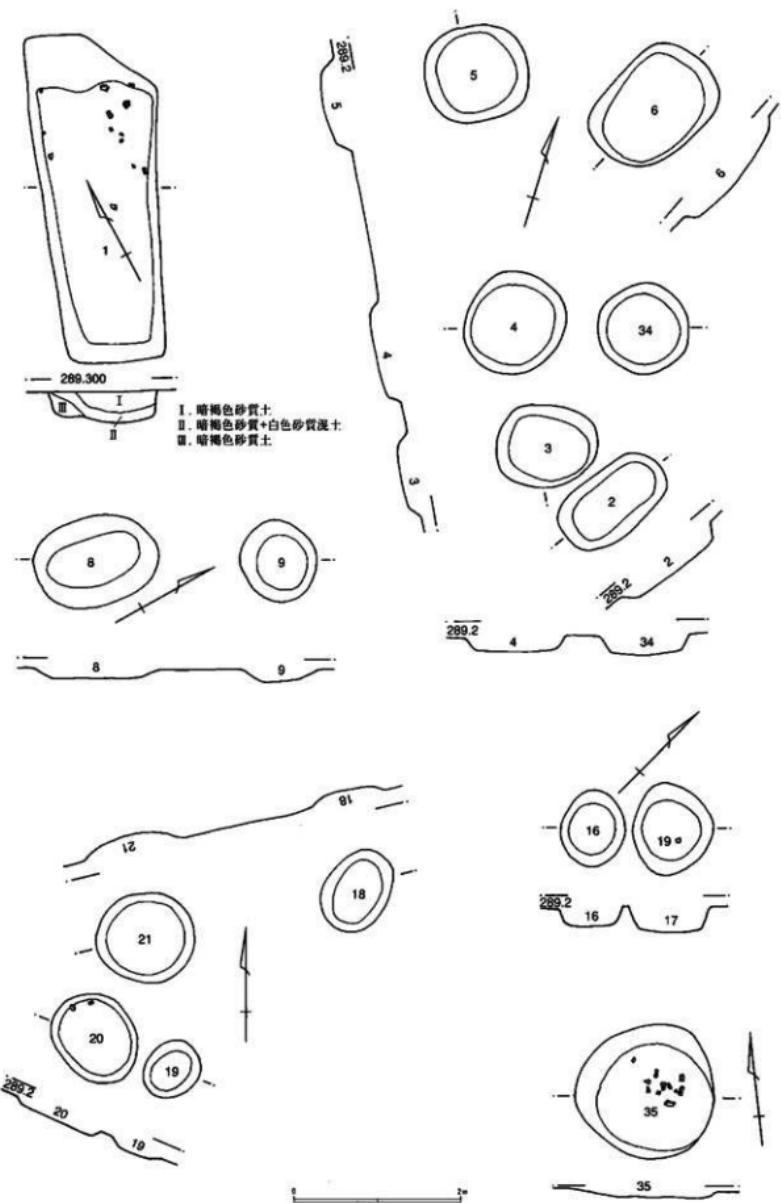
第32図 31号住居跡



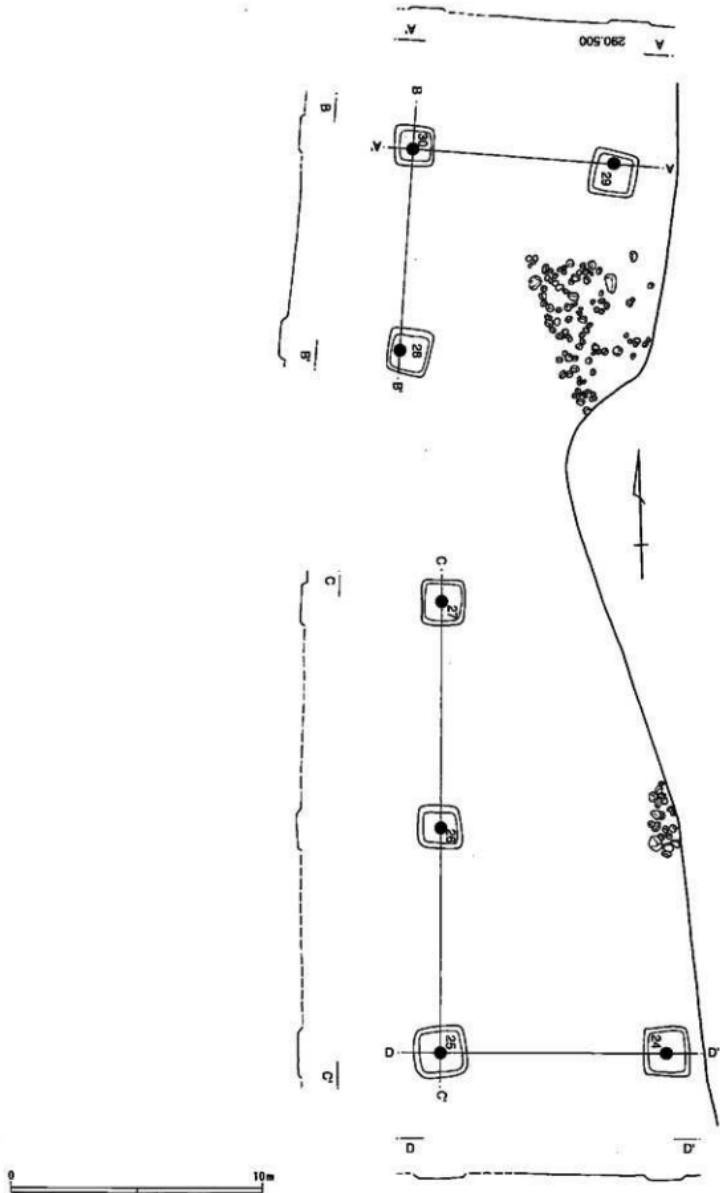
第33図 33号住居跡



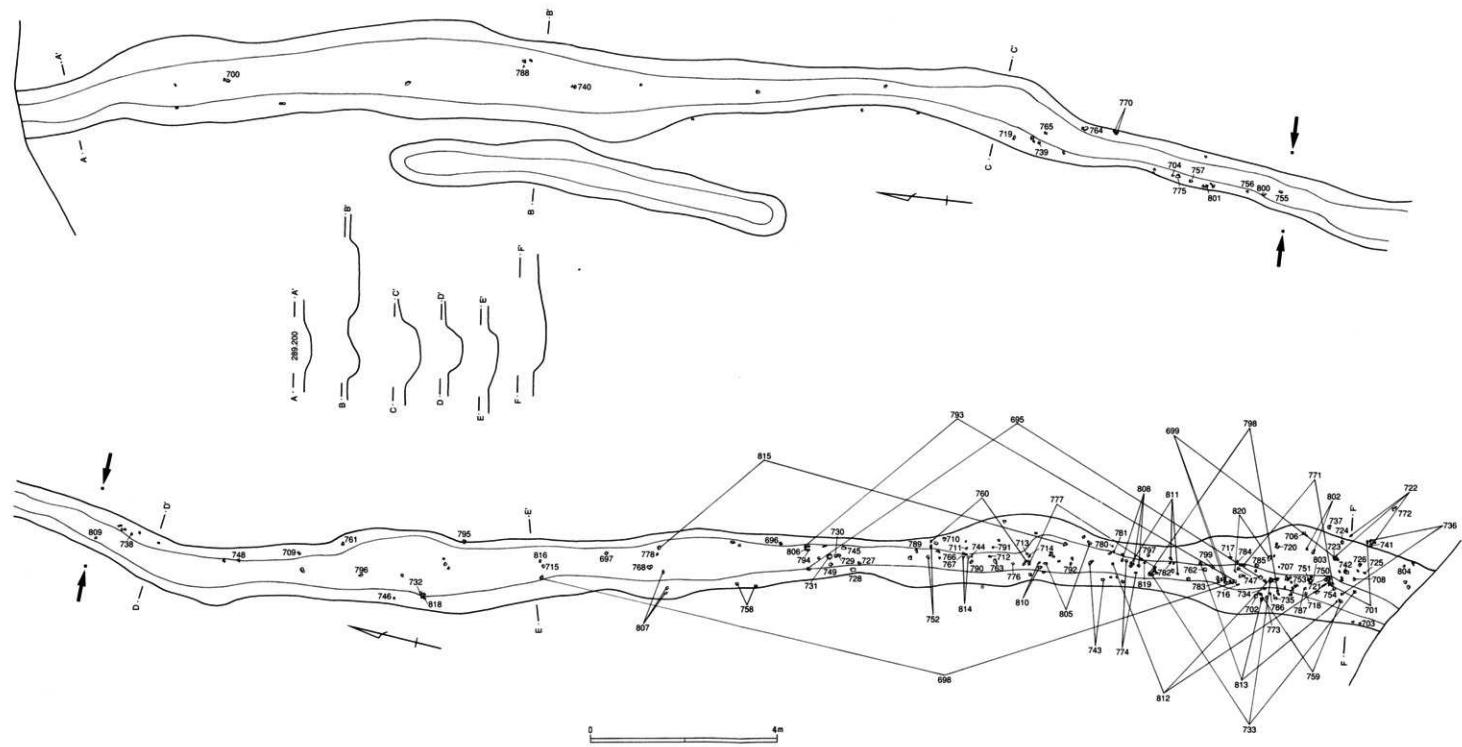
第34図 34号住居跡



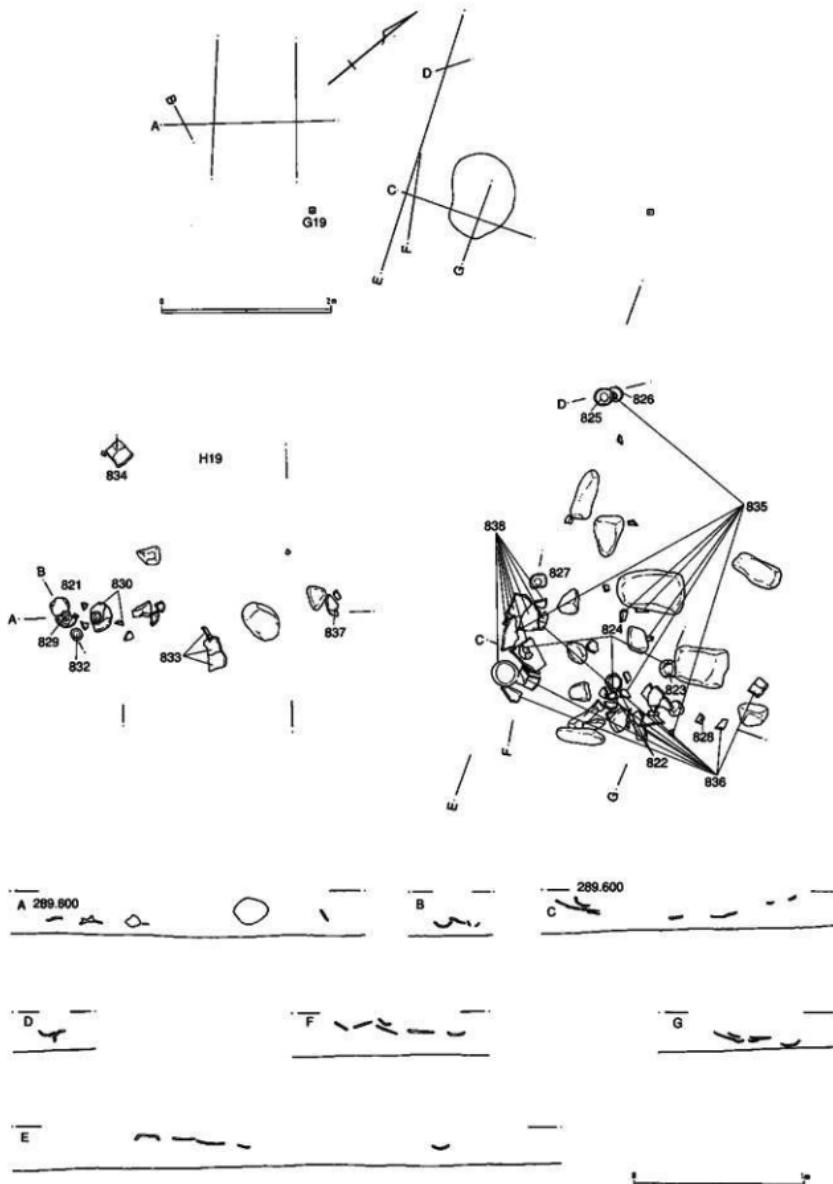
第35図 土坑群



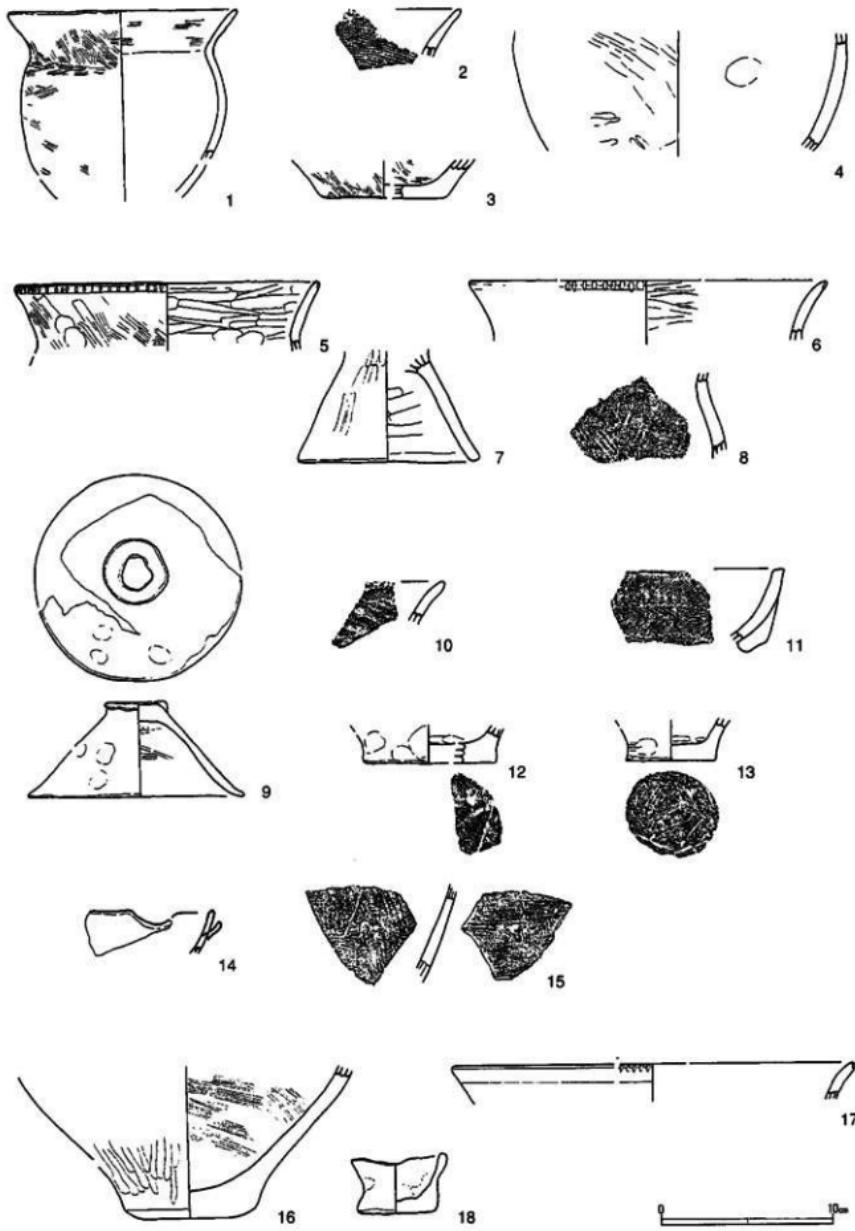
第36図 24号～30号土坑(据立柱建物状配置)



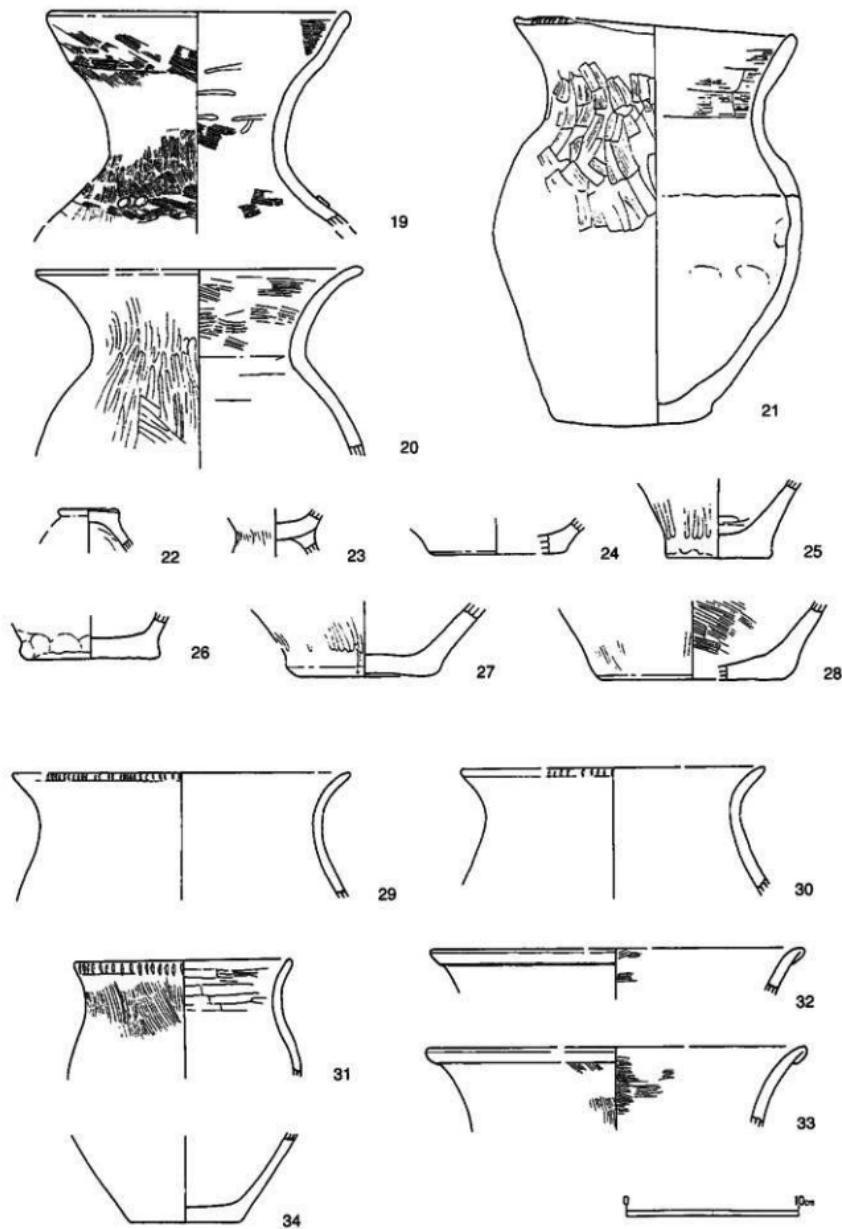
第37図 2号溝



第38図 H-19・20グリッド遺物集中

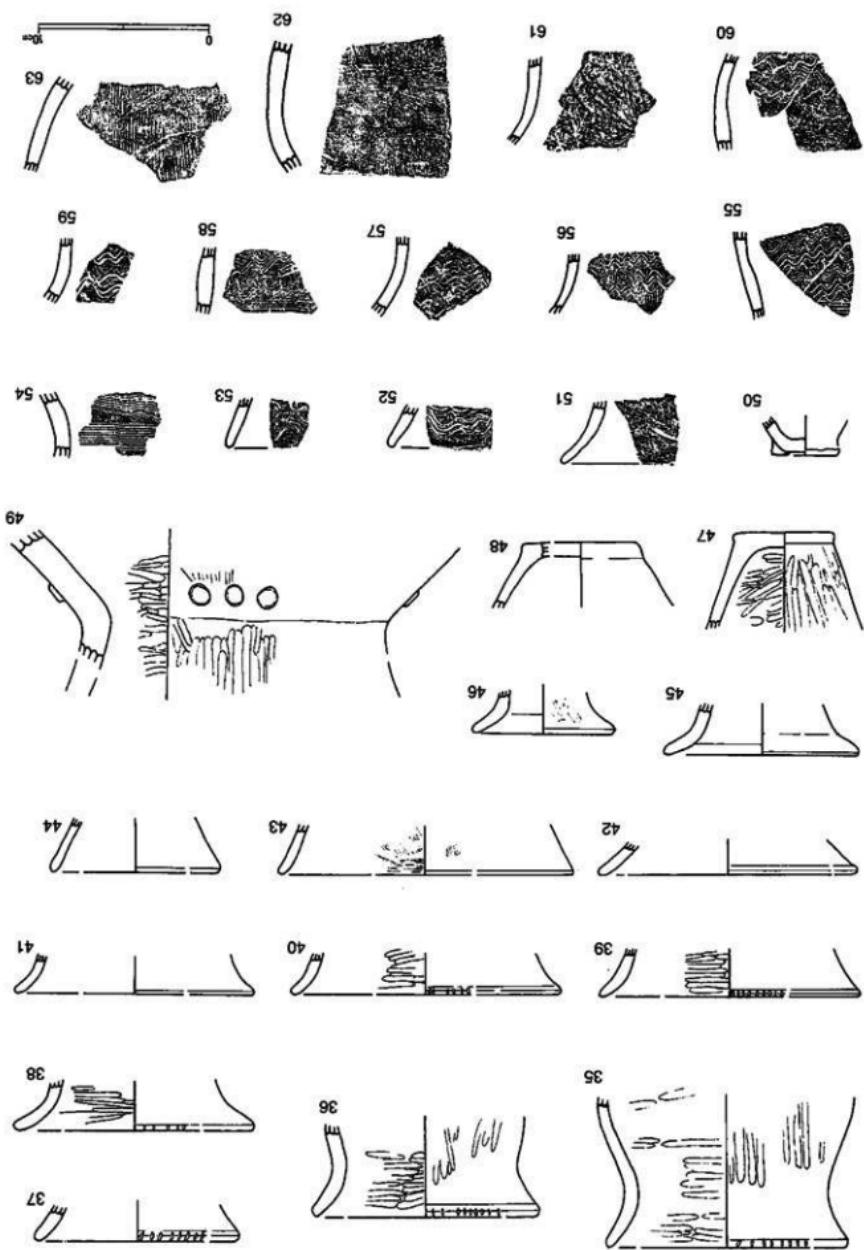


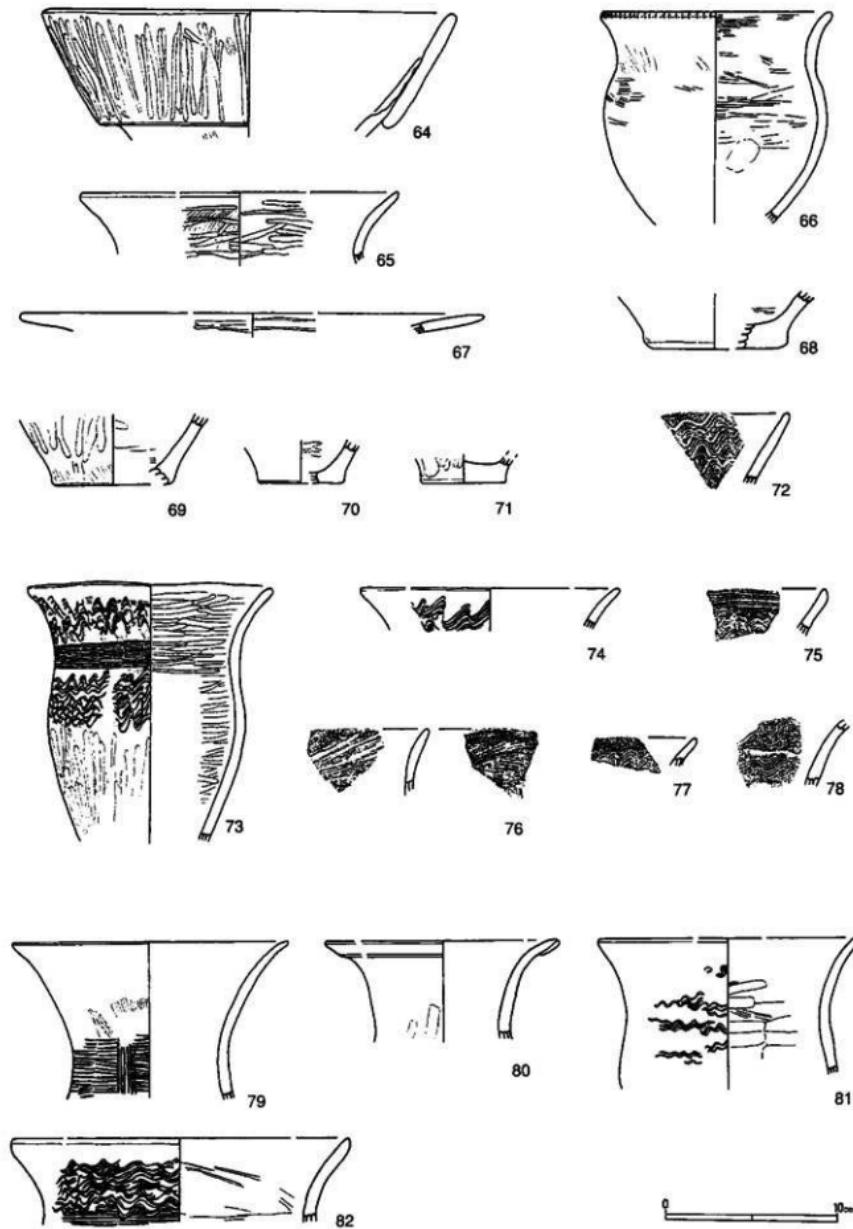
第39圖 遺物1



第40図 遺物2

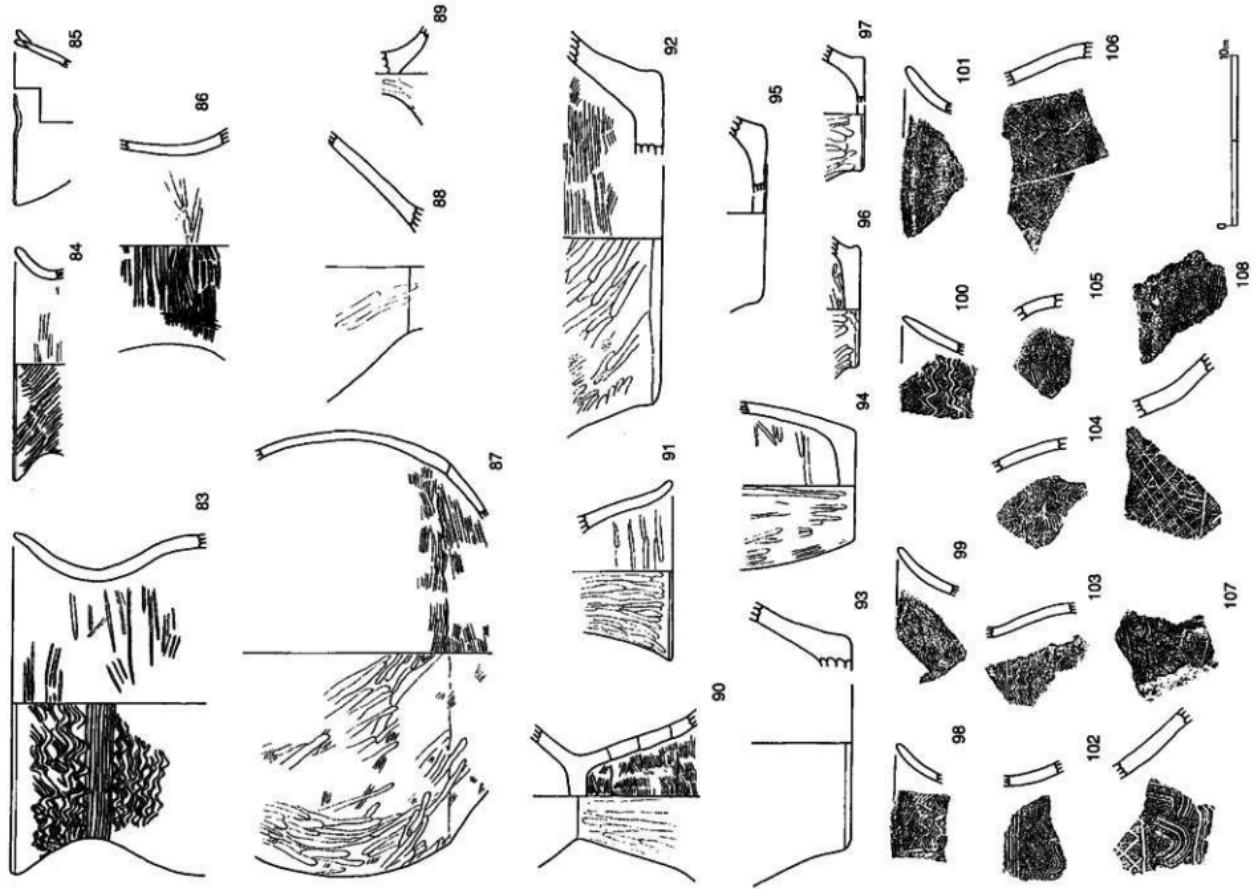
第41圖 通物3

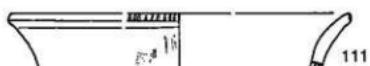
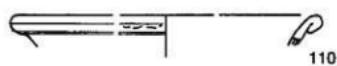
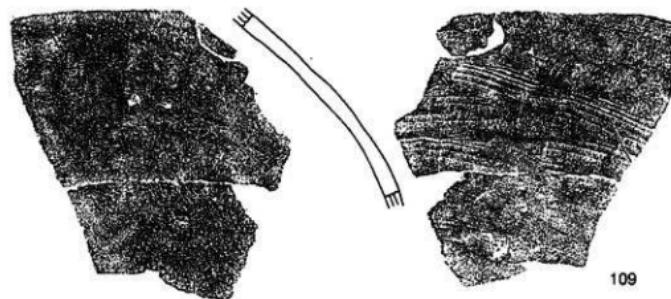




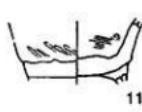
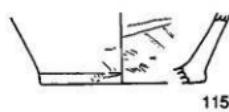
第42図 遺物4

第43圖 遺物5





114



117

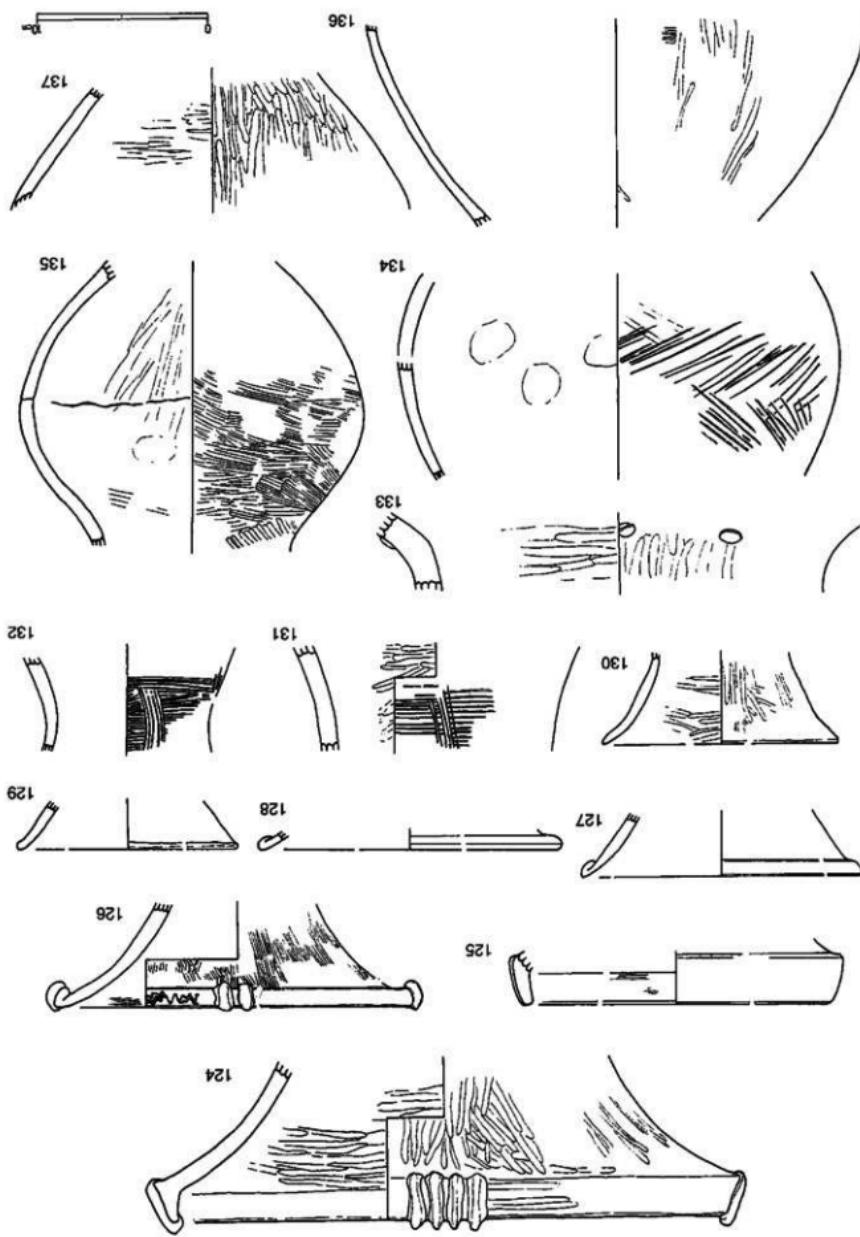


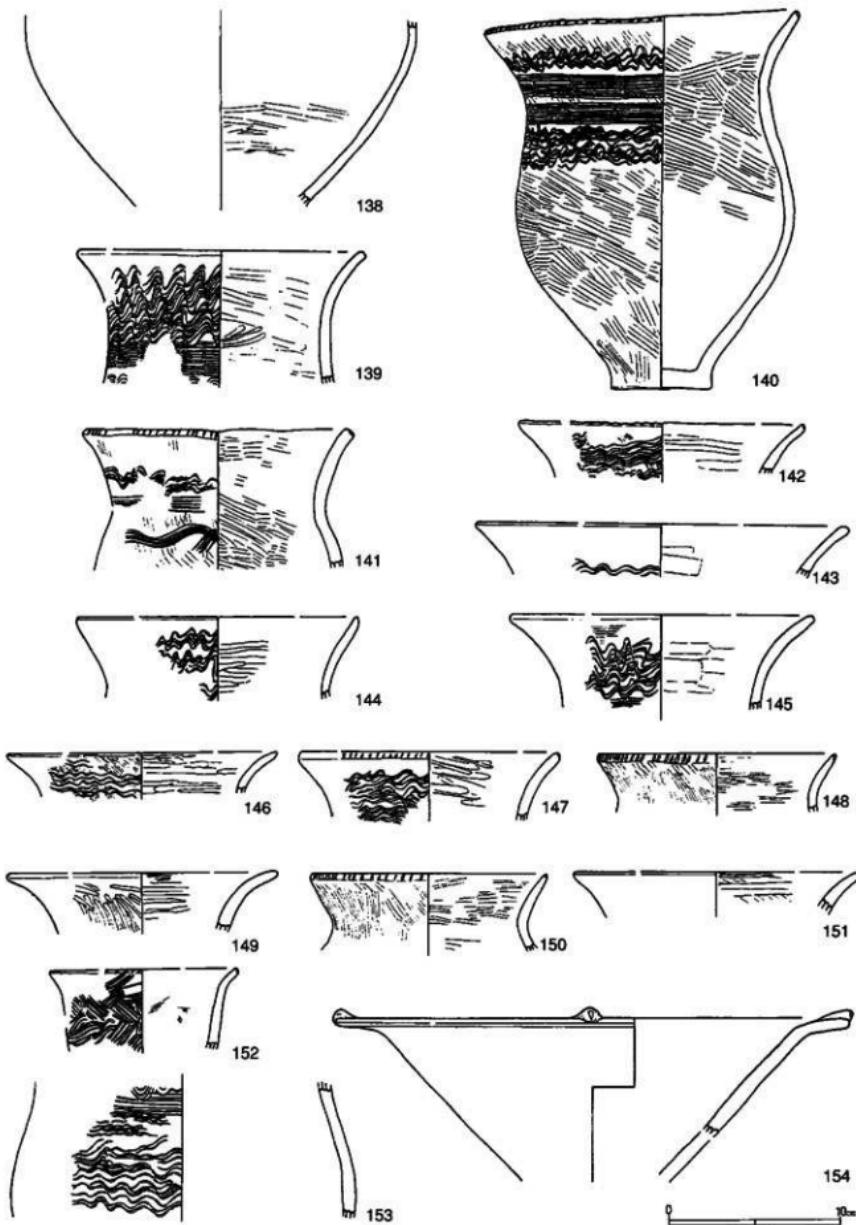
118



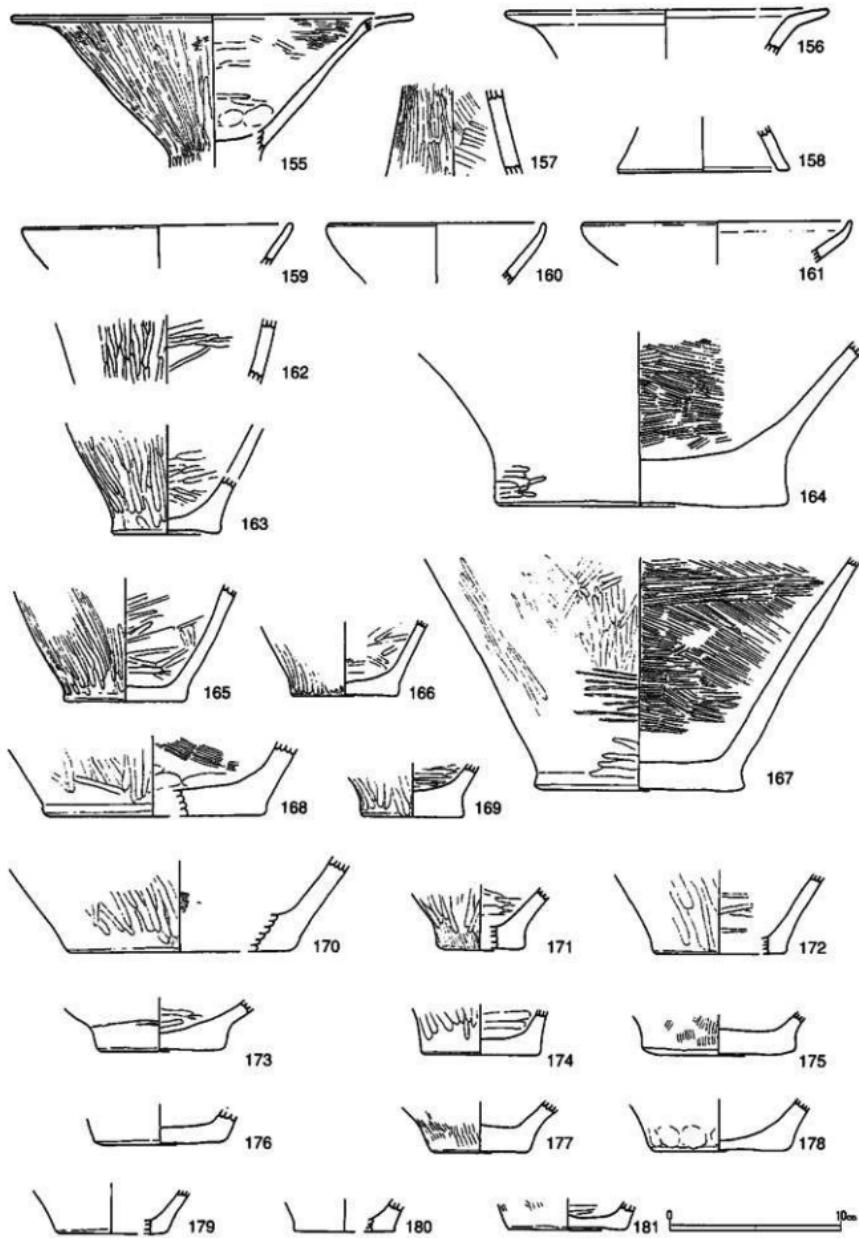
第44図 遺物6

第45圖 遺物7

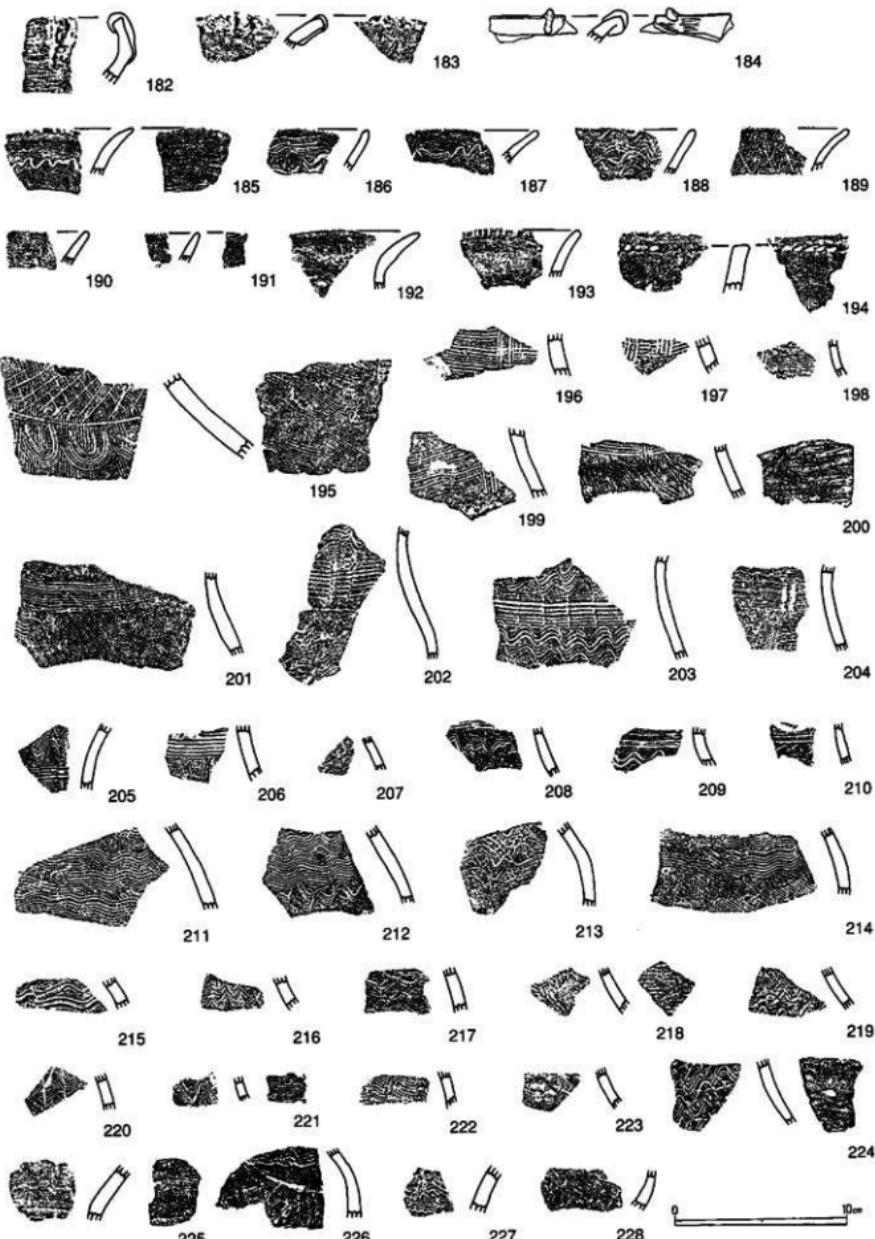




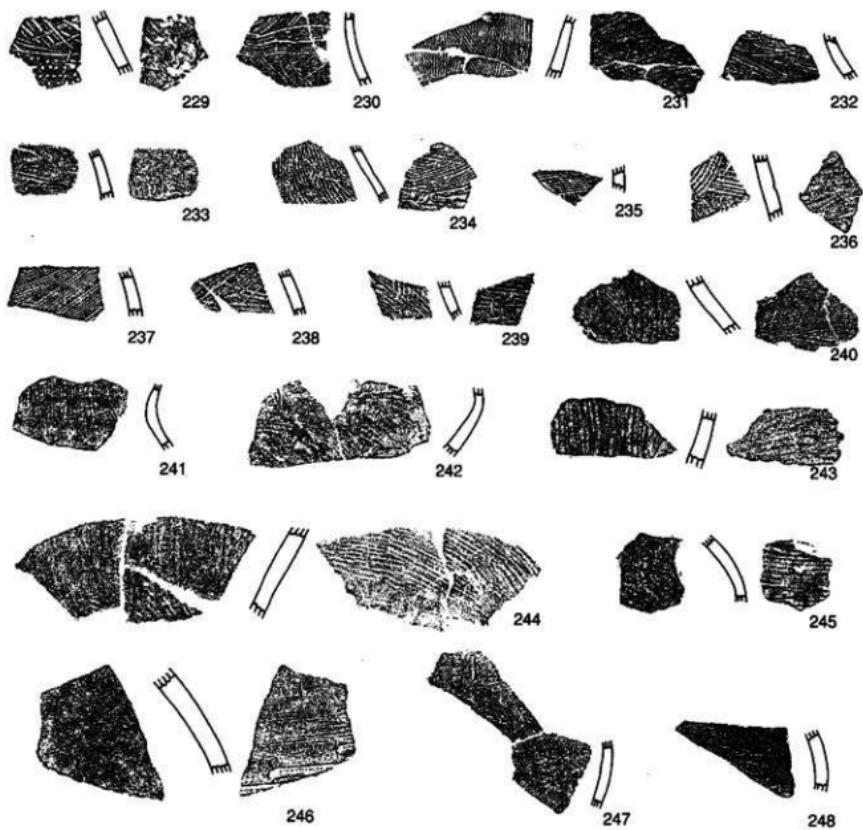
第46図 遺物8



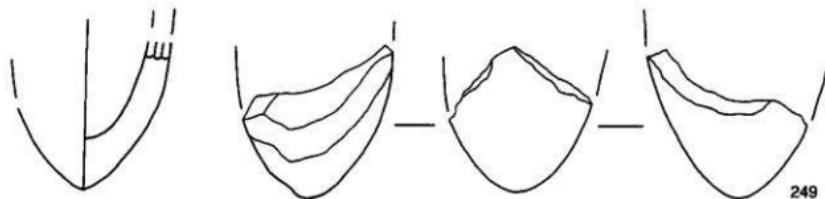
第47図 遺物9



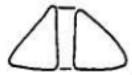
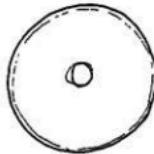
第48図 遺物10



第49図 遺物11



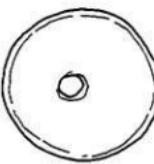
249



250



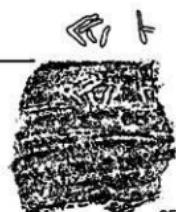
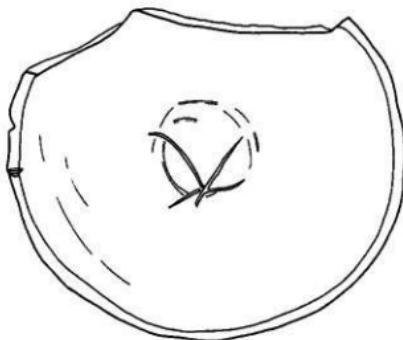
251



252



253

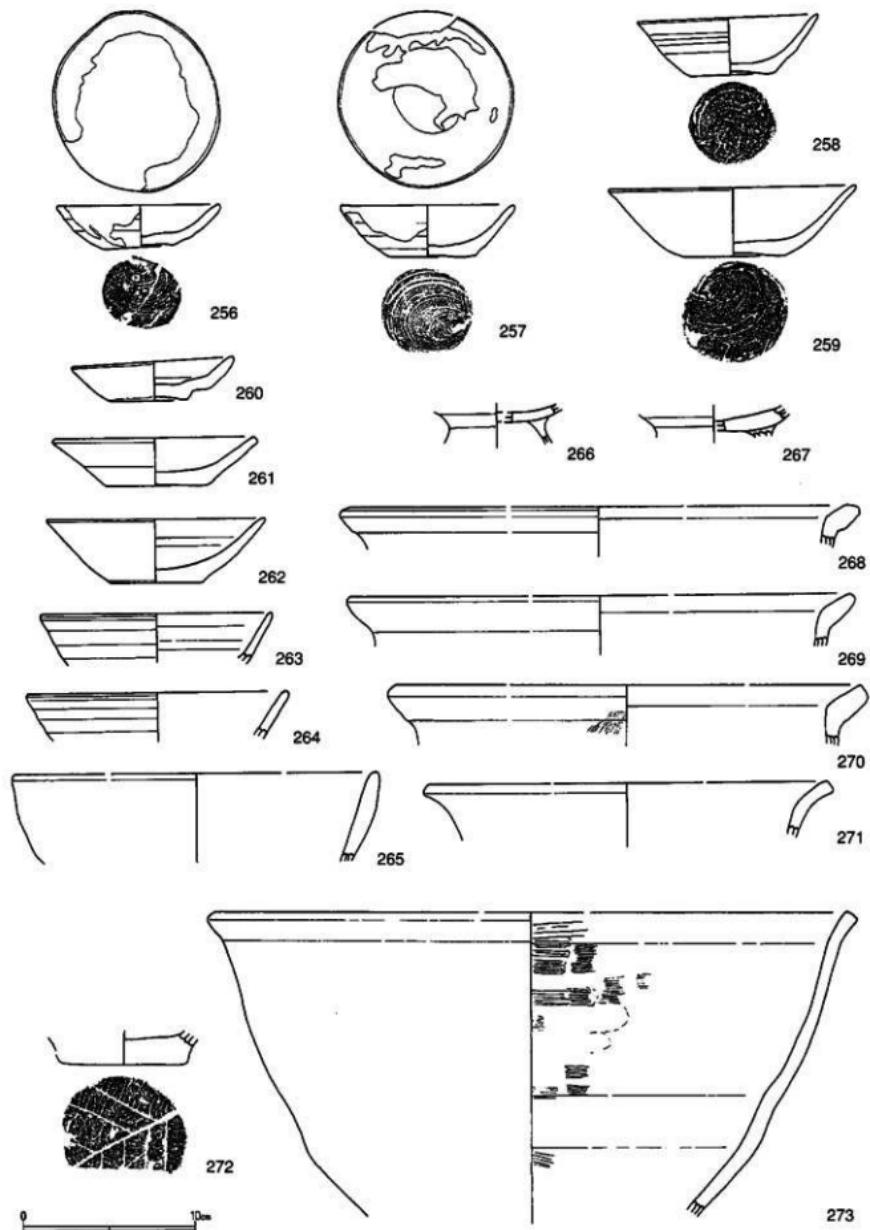


255

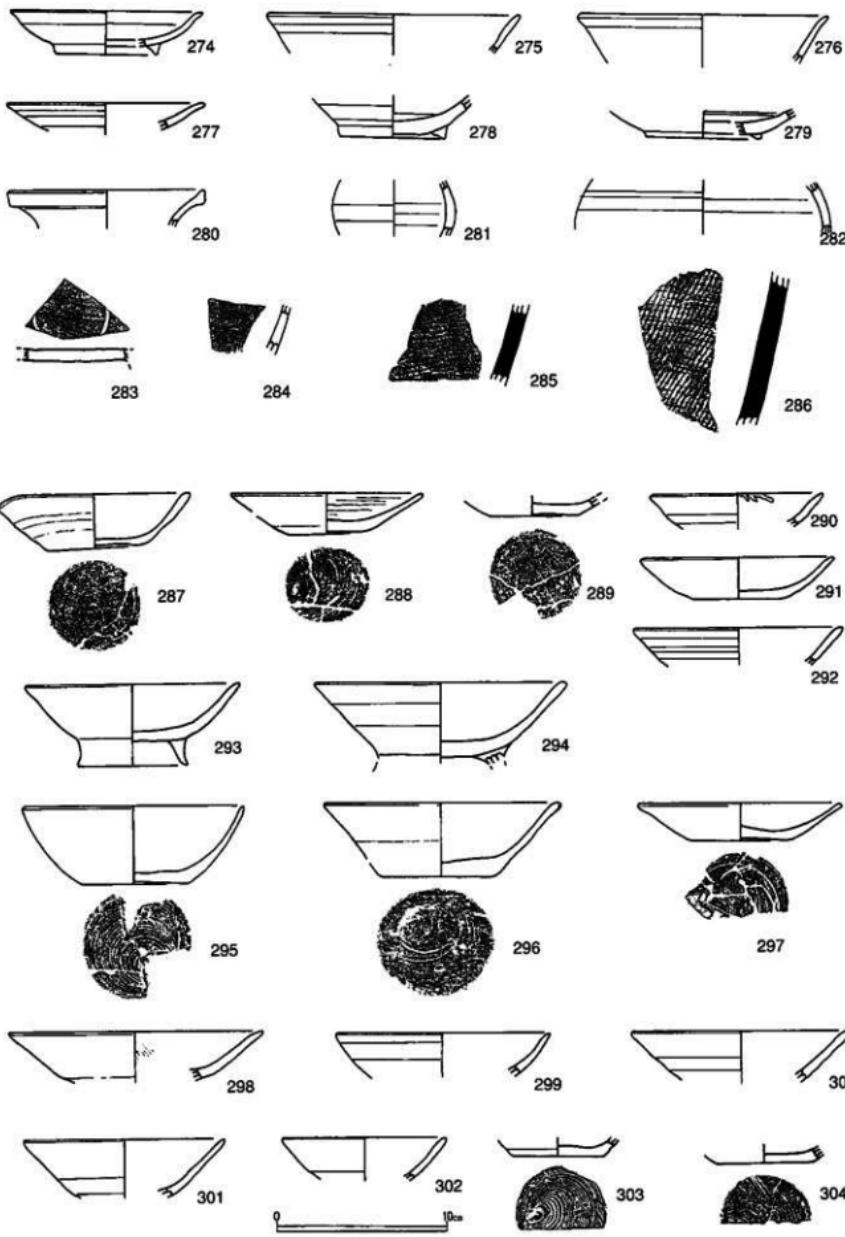
0

10cm

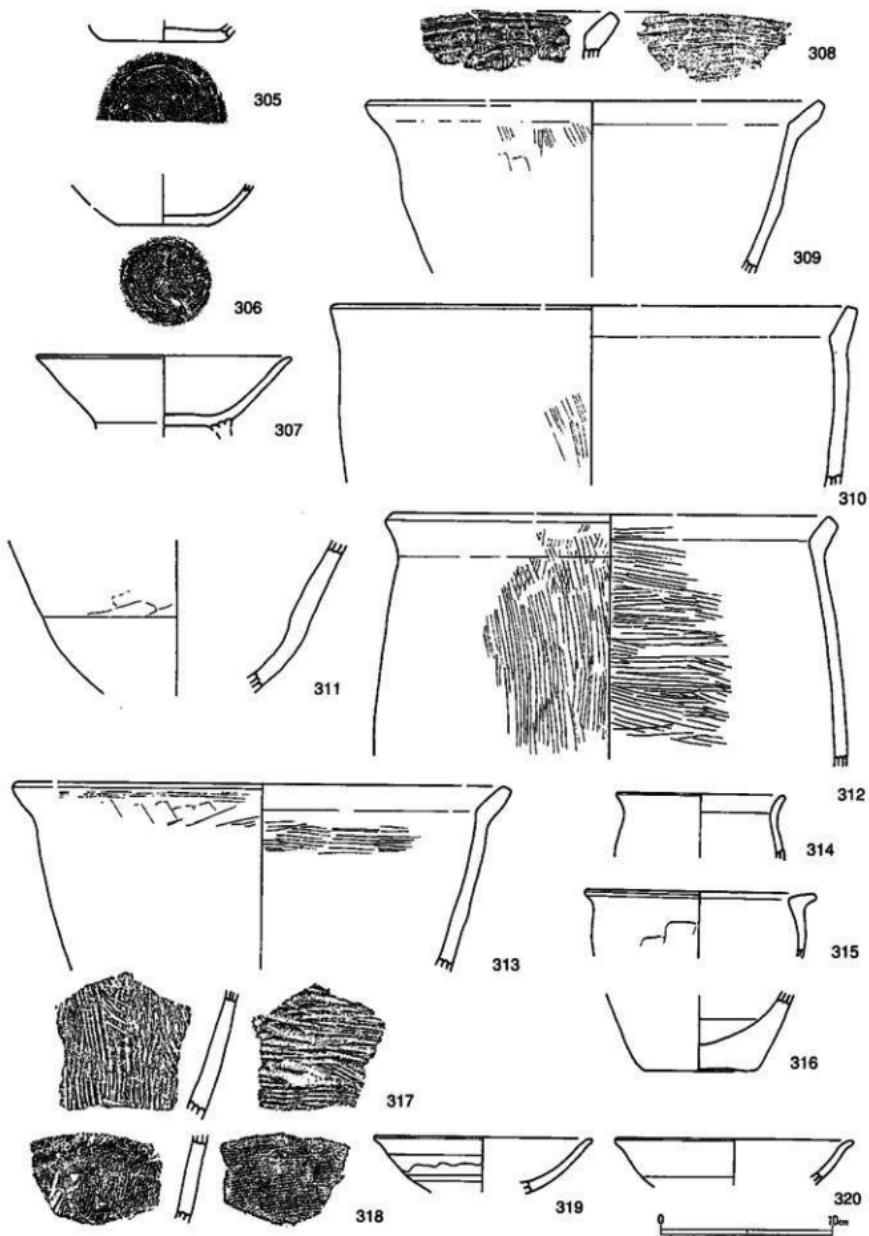
第50図 造物12



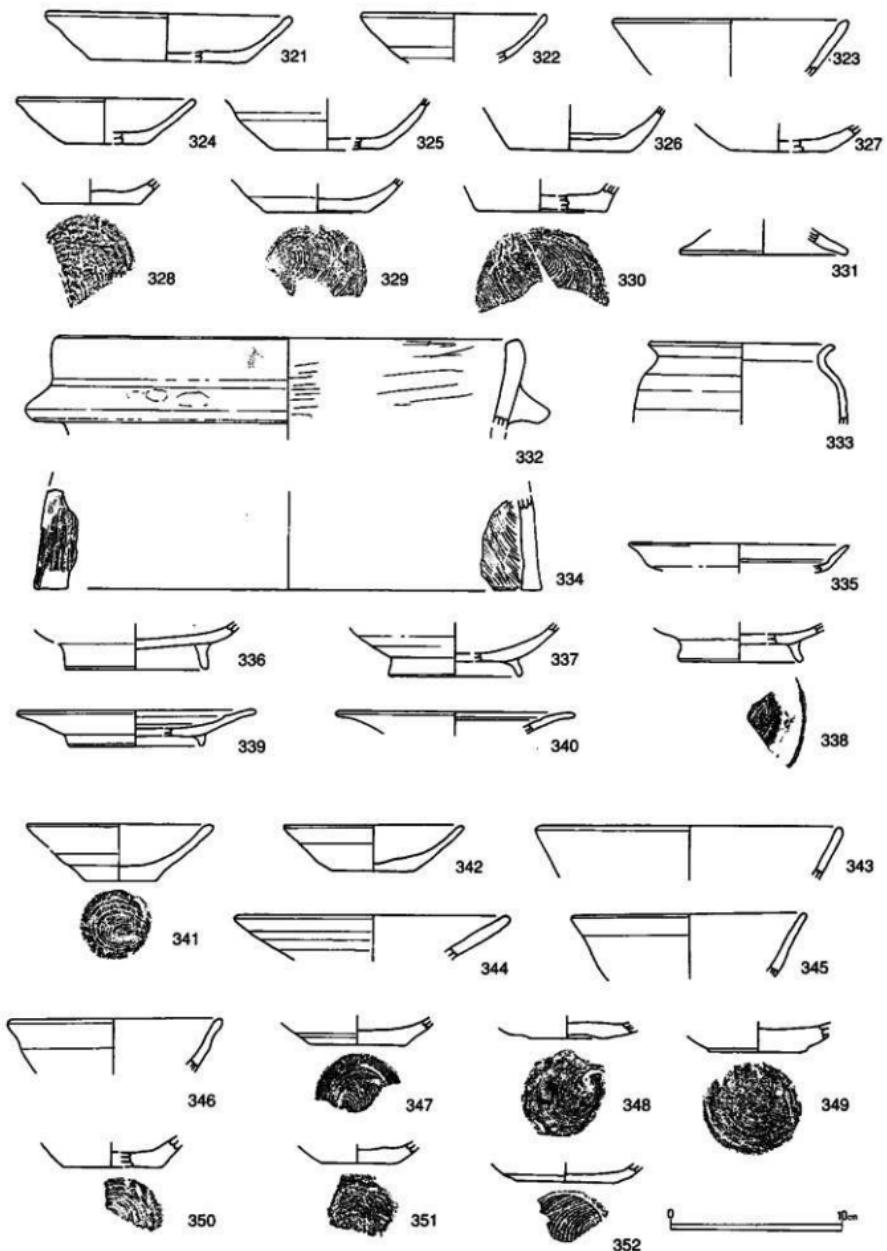
第51図 遺物13



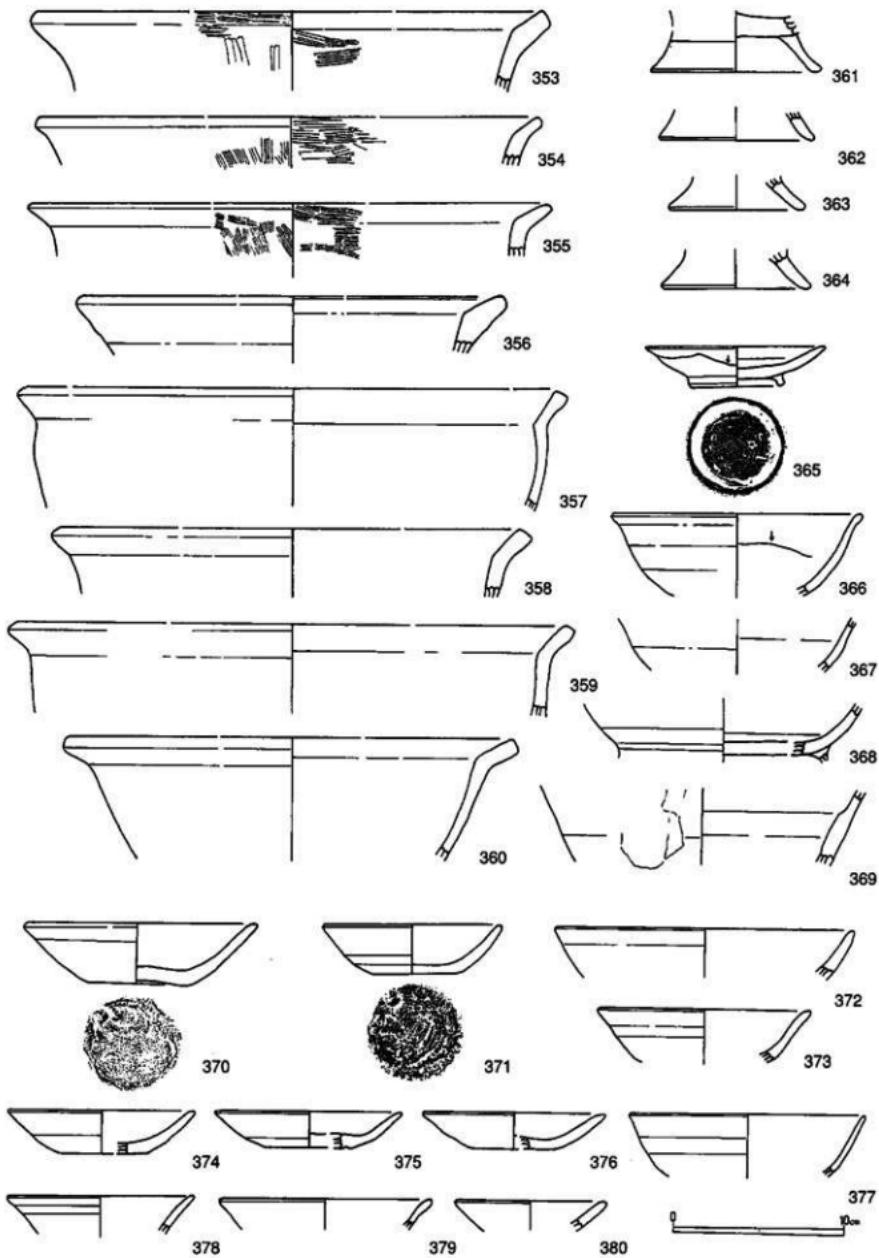
第52圖 遺物14



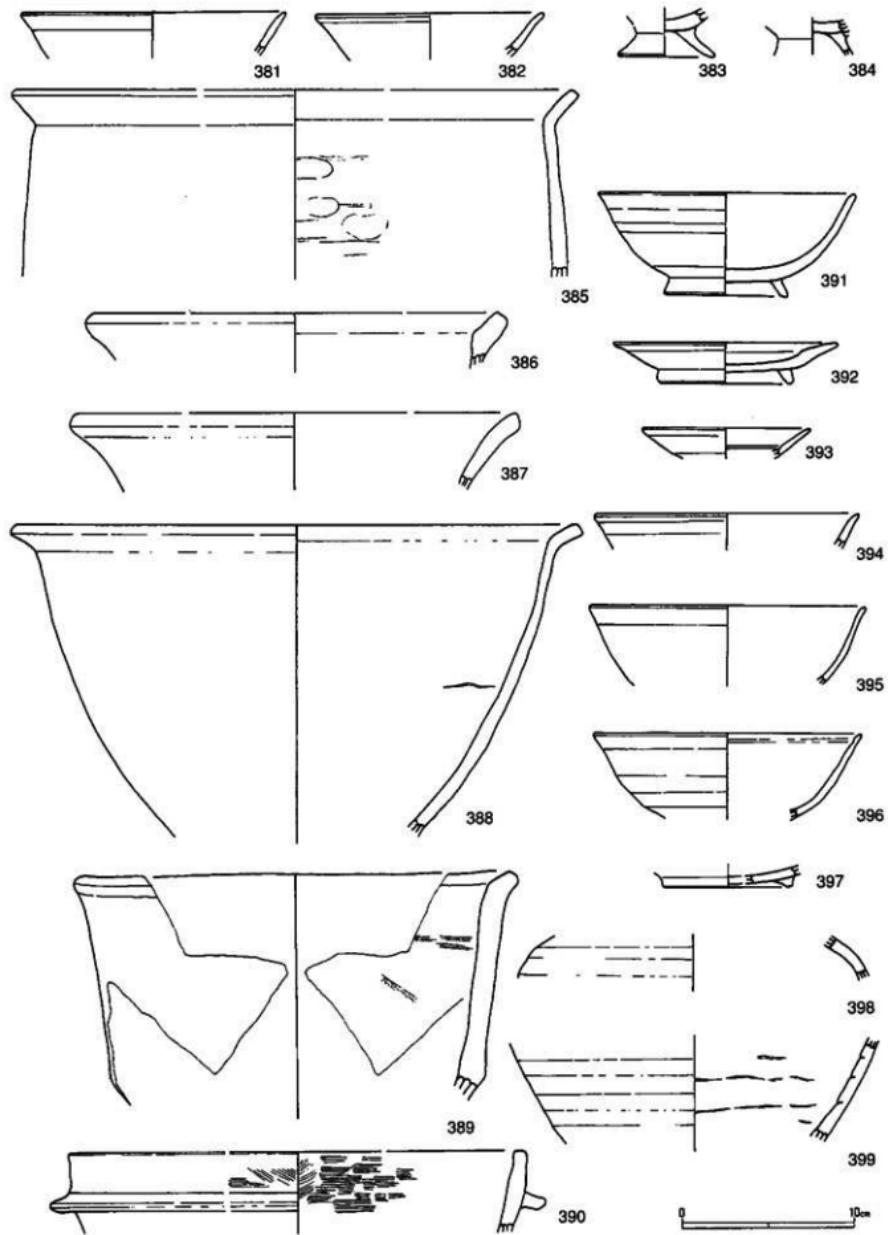
第53図 遺物15



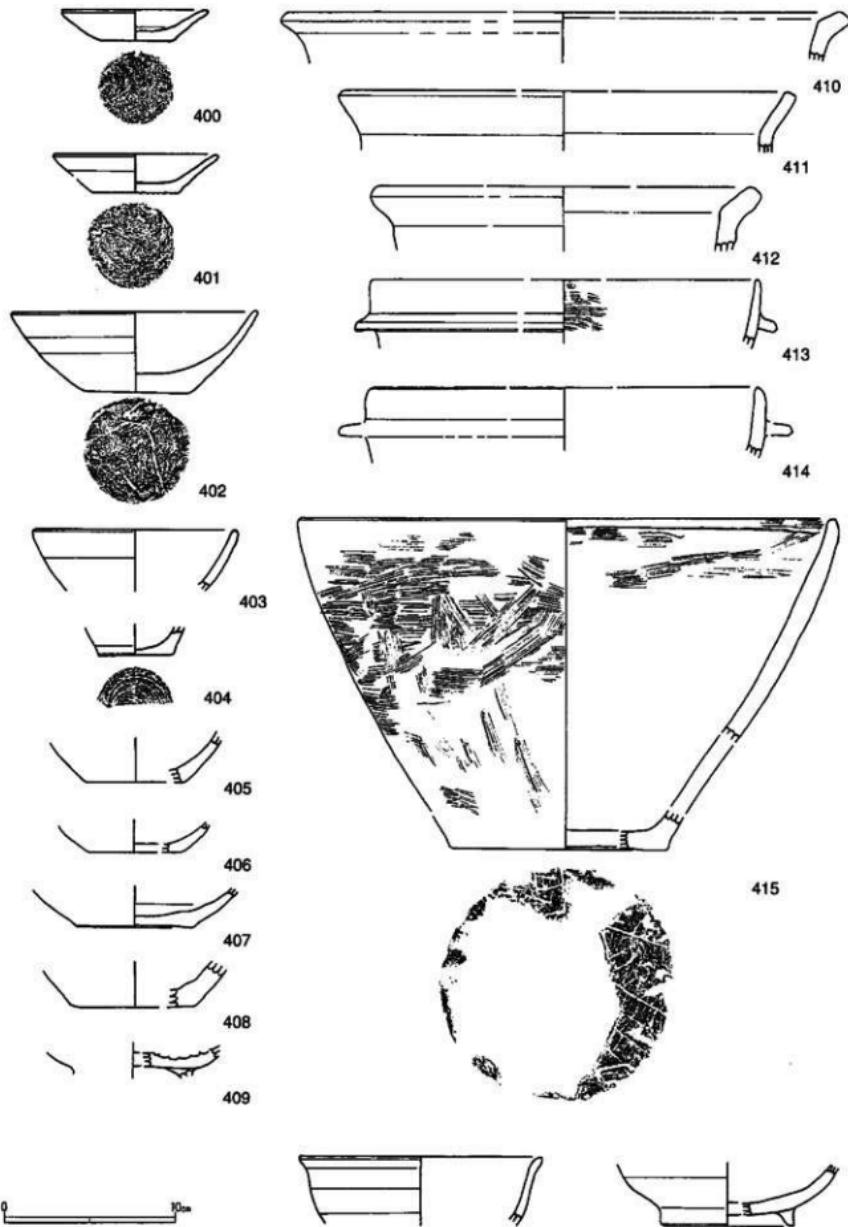
第54図 造物16



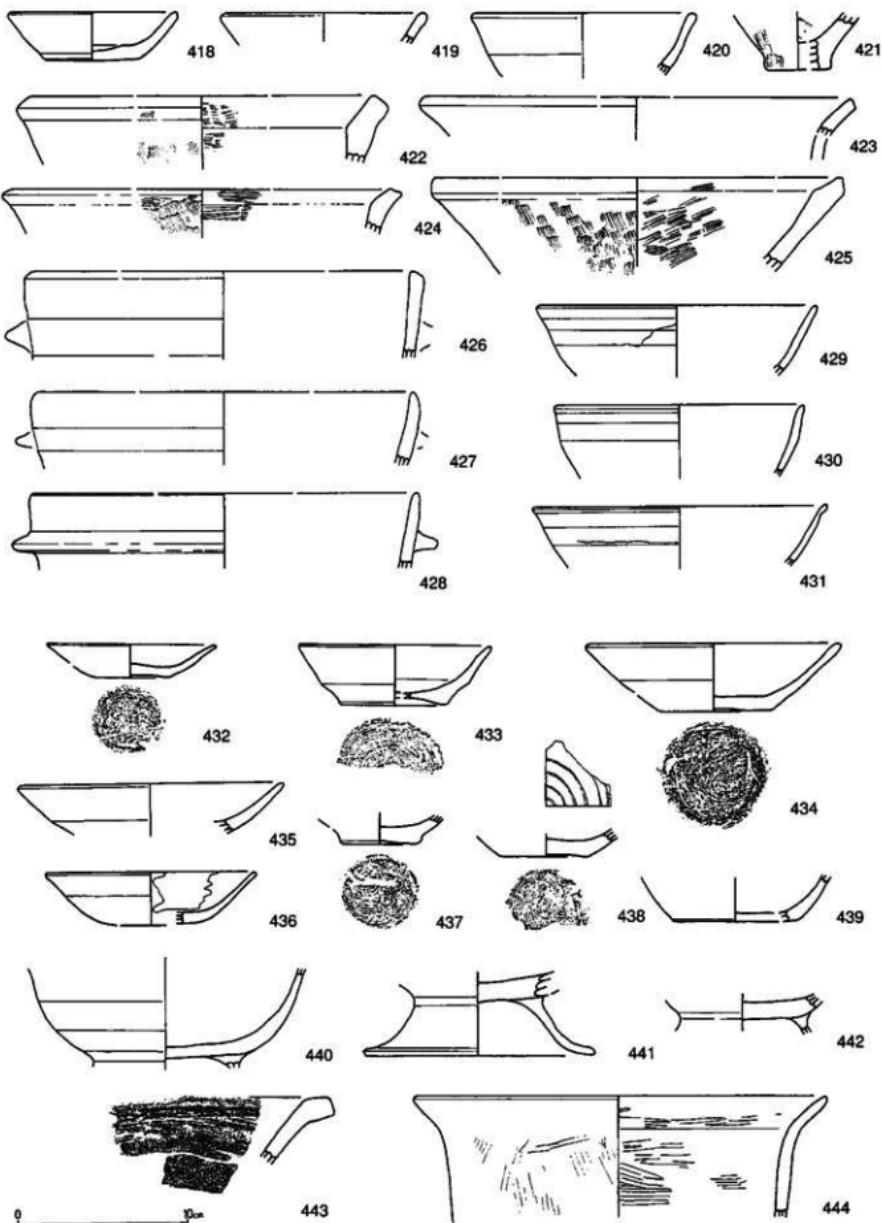
第55図 遺物17



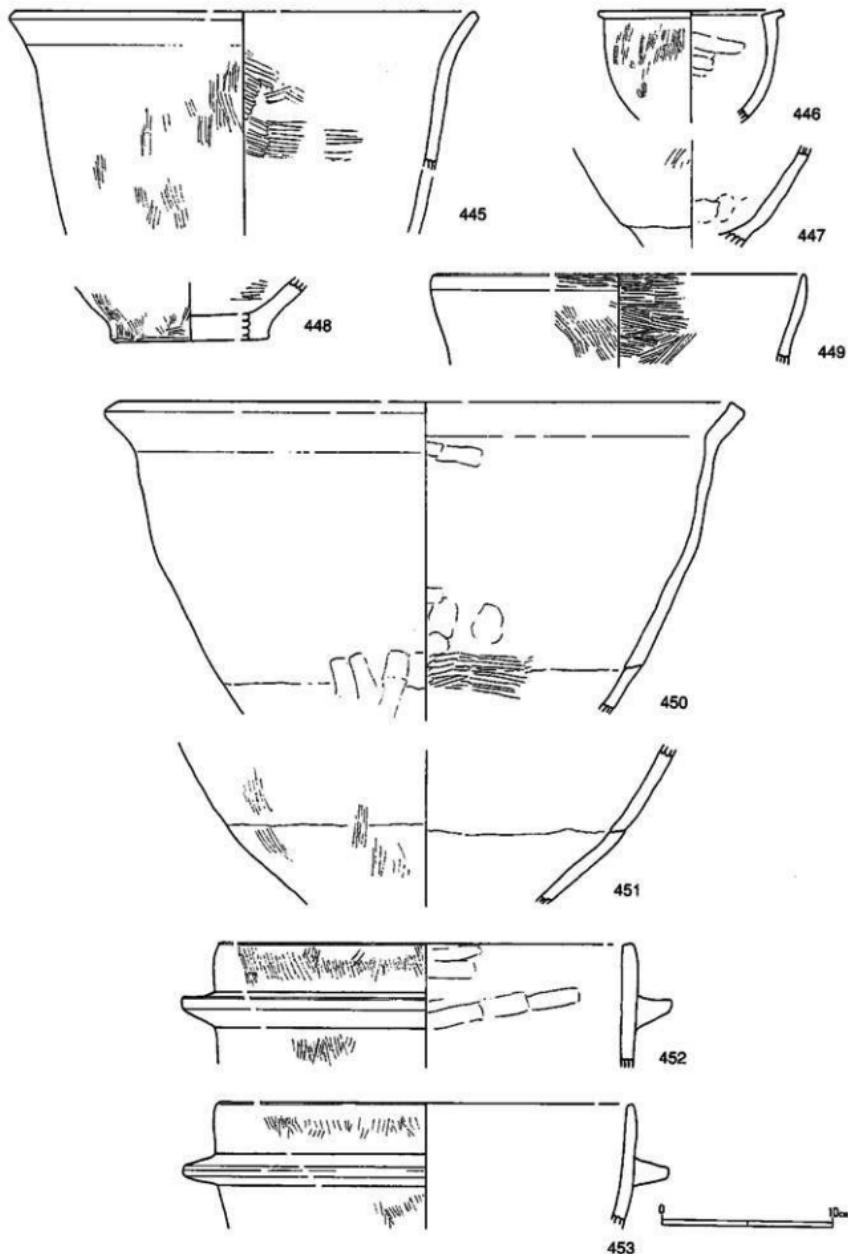
第56図 遺物18



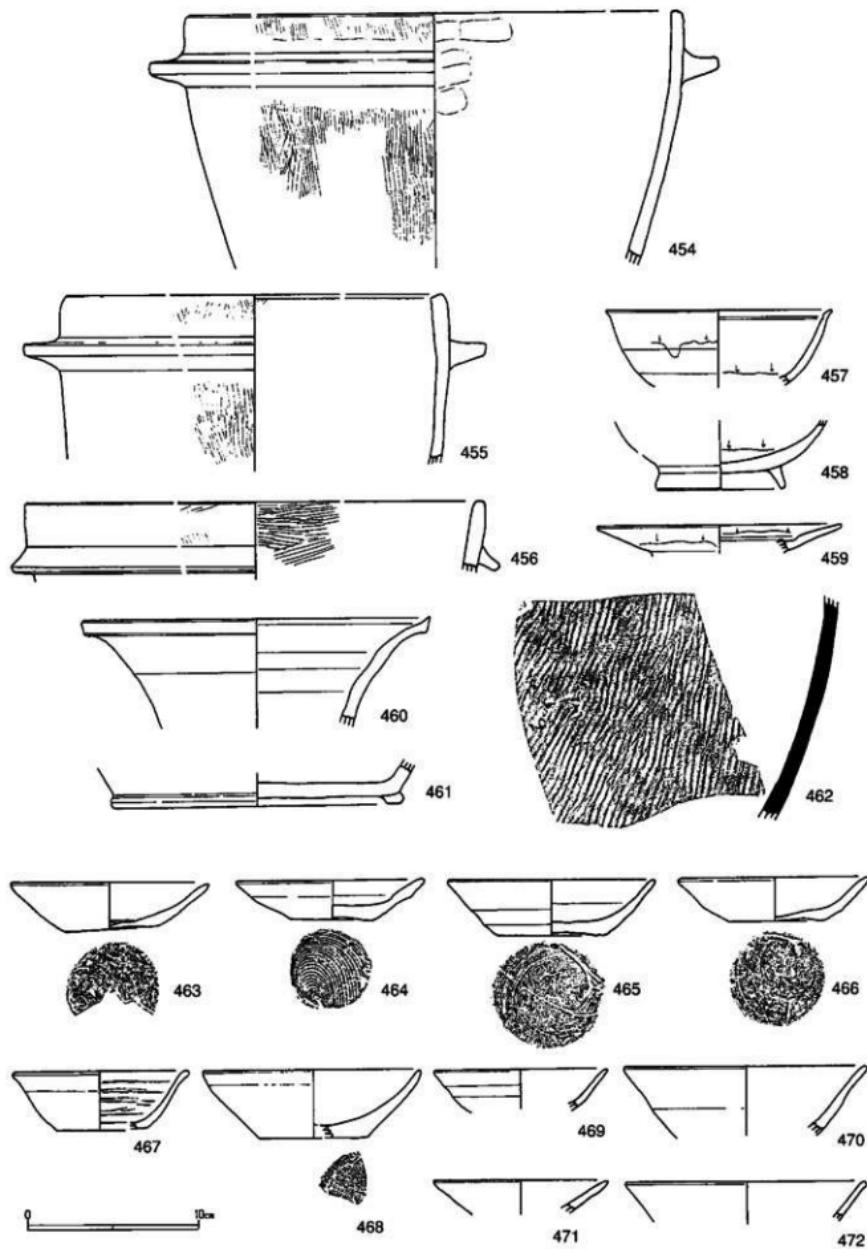
第57図 遺物19



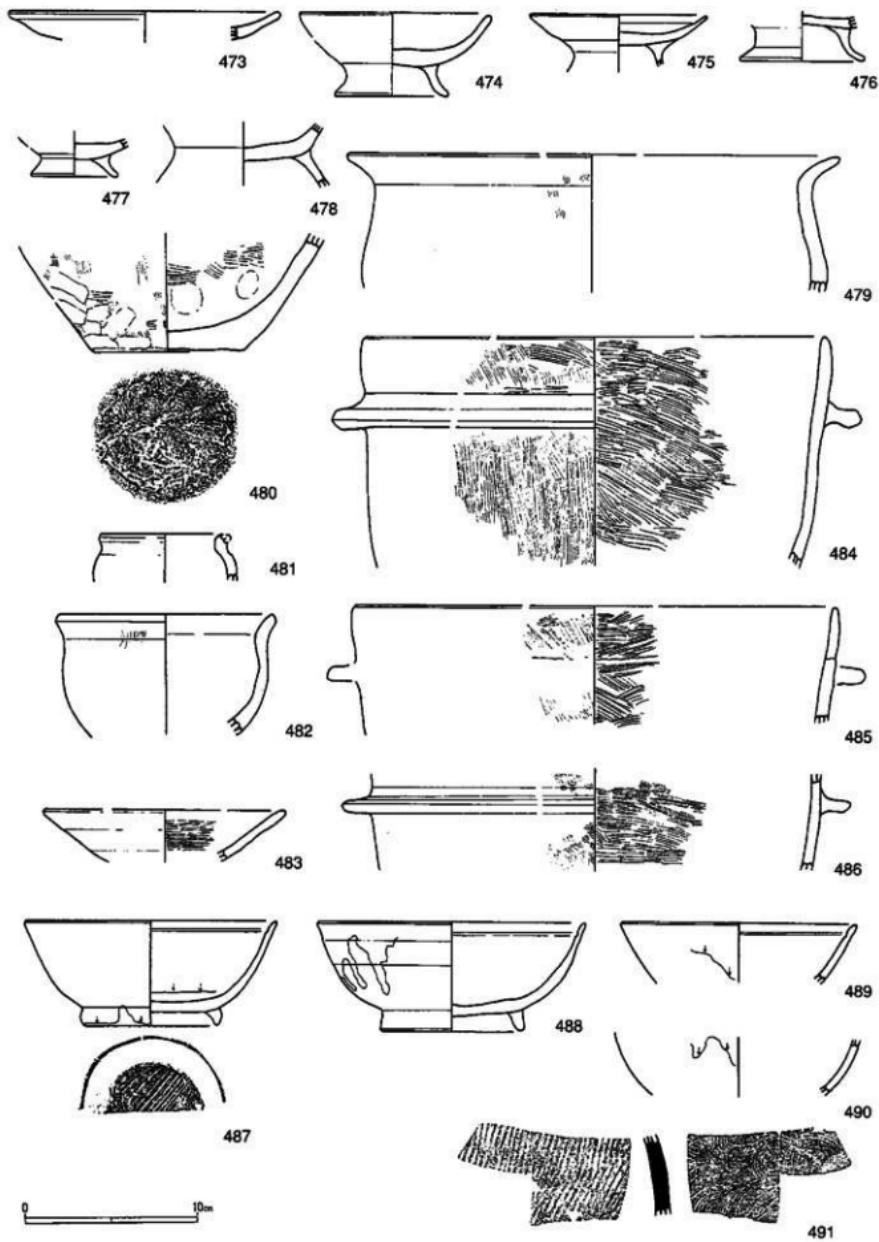
第58図 遺物20



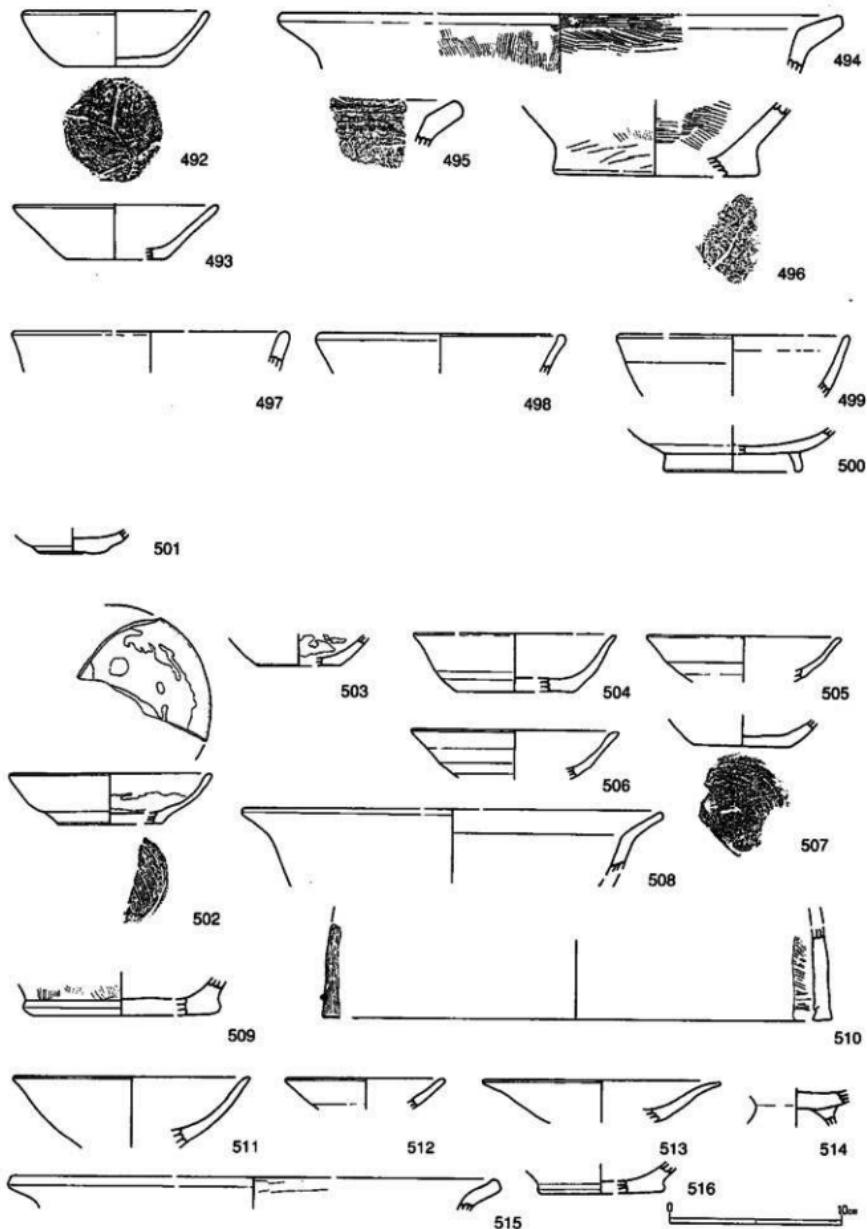
第59図 遺物21



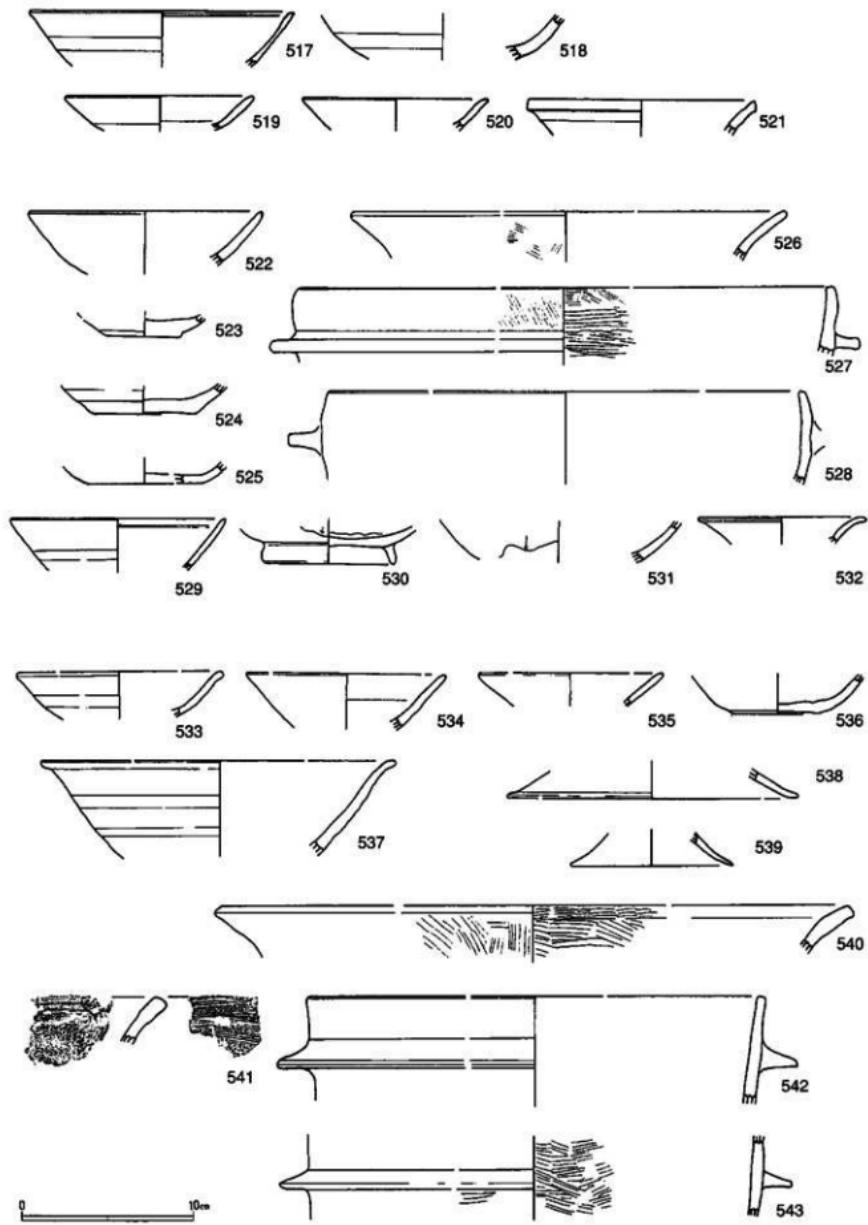
第60図 遺物22



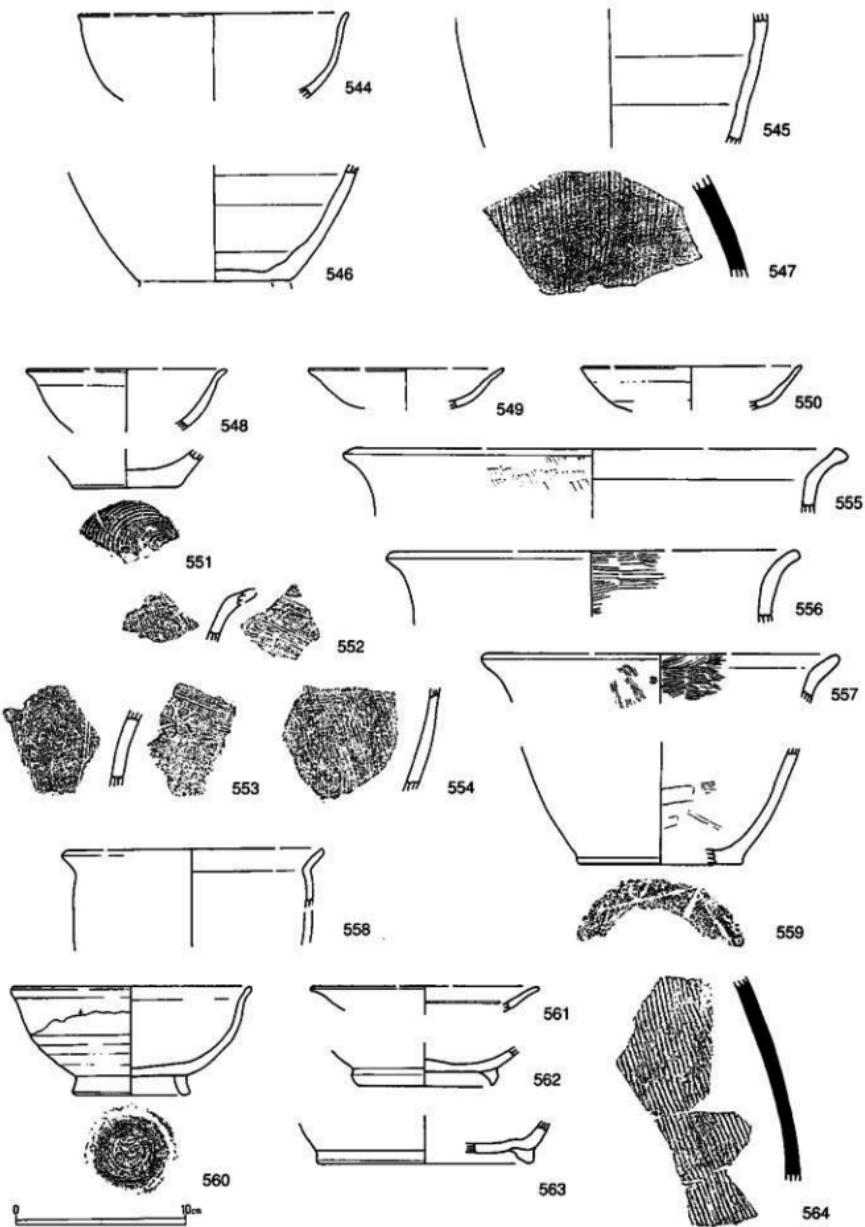
第61図 遺物23



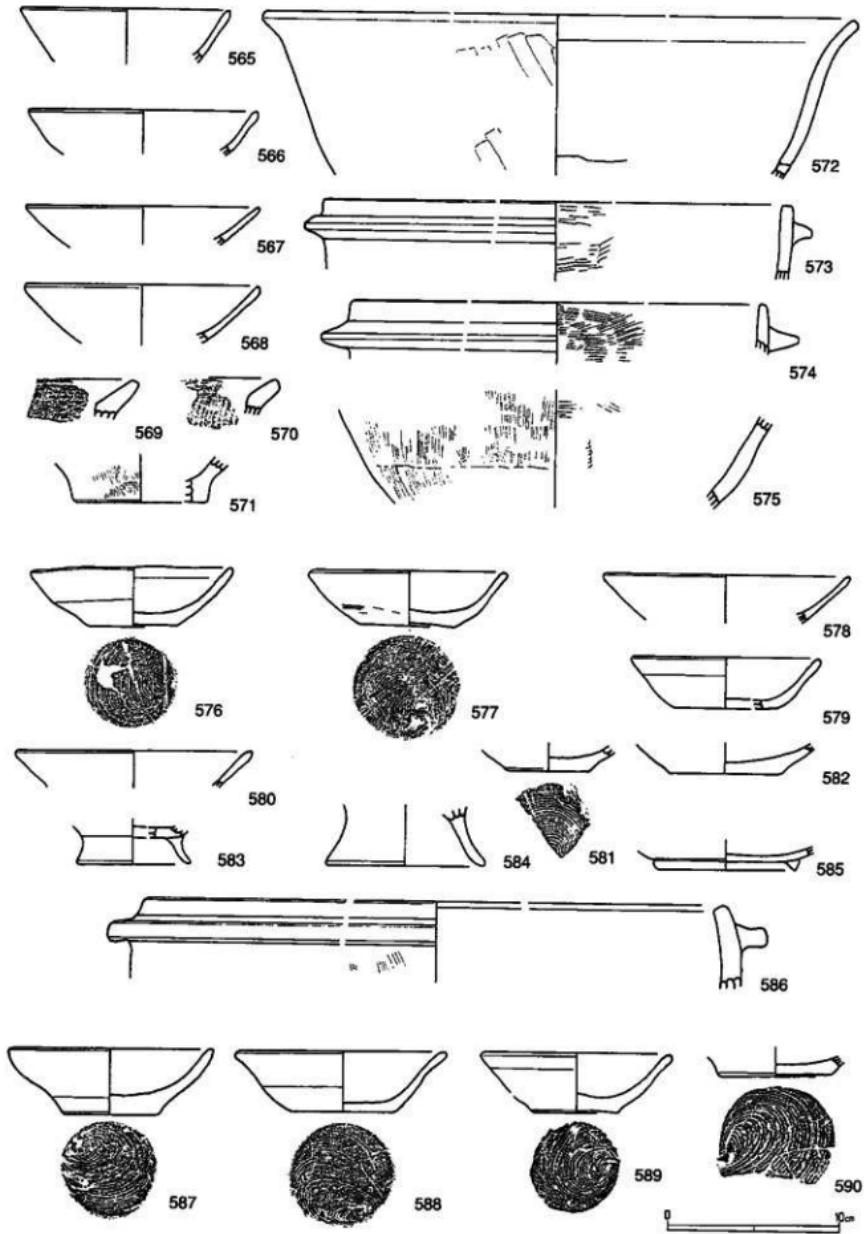
第62図 遺物24



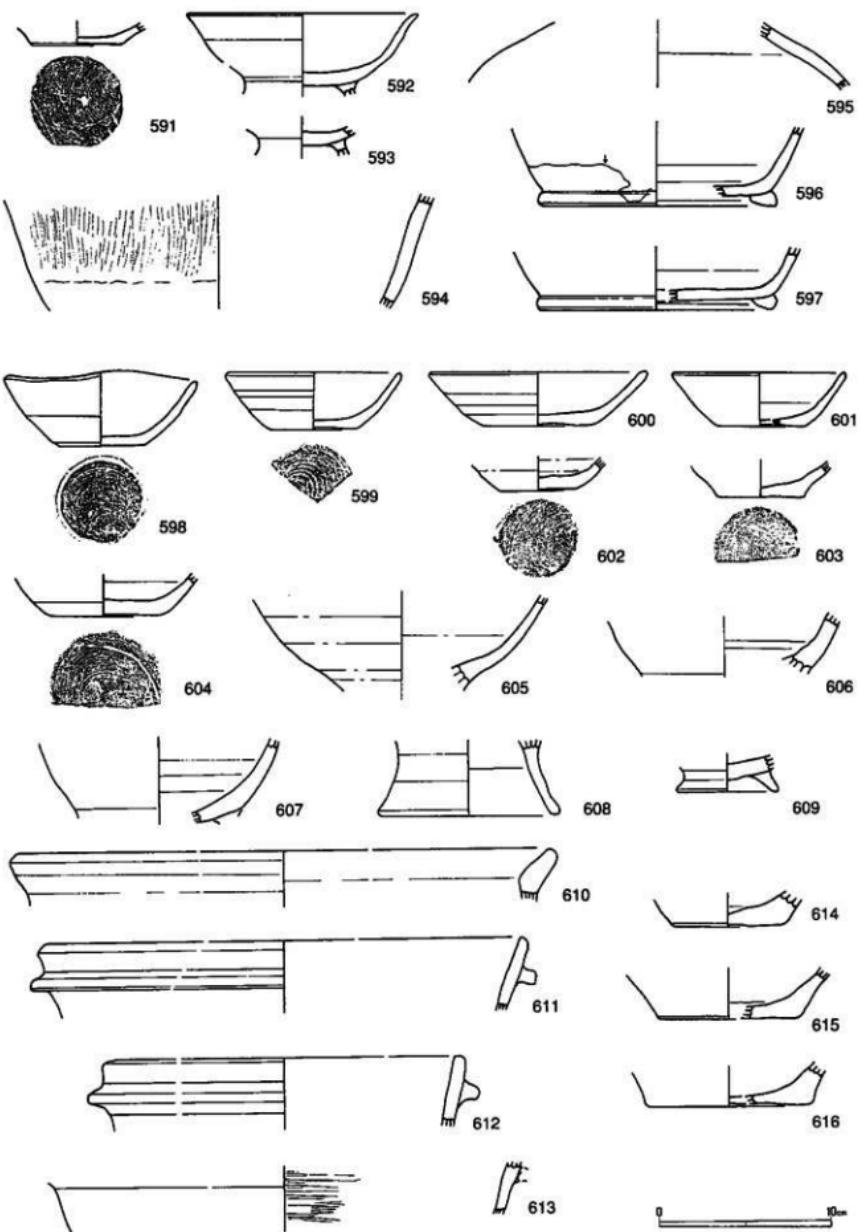
第63図 遺物25



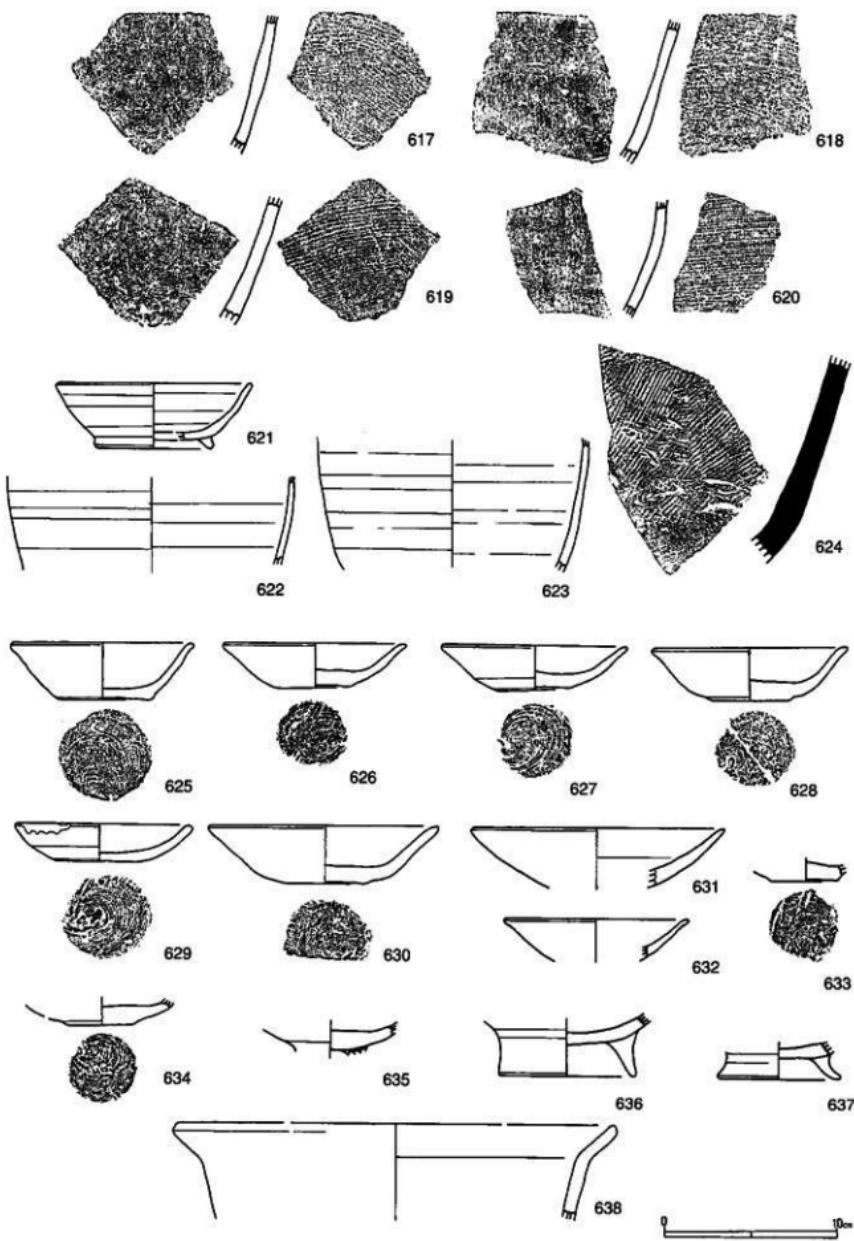
第64図 遺物26



第65図 遺物27

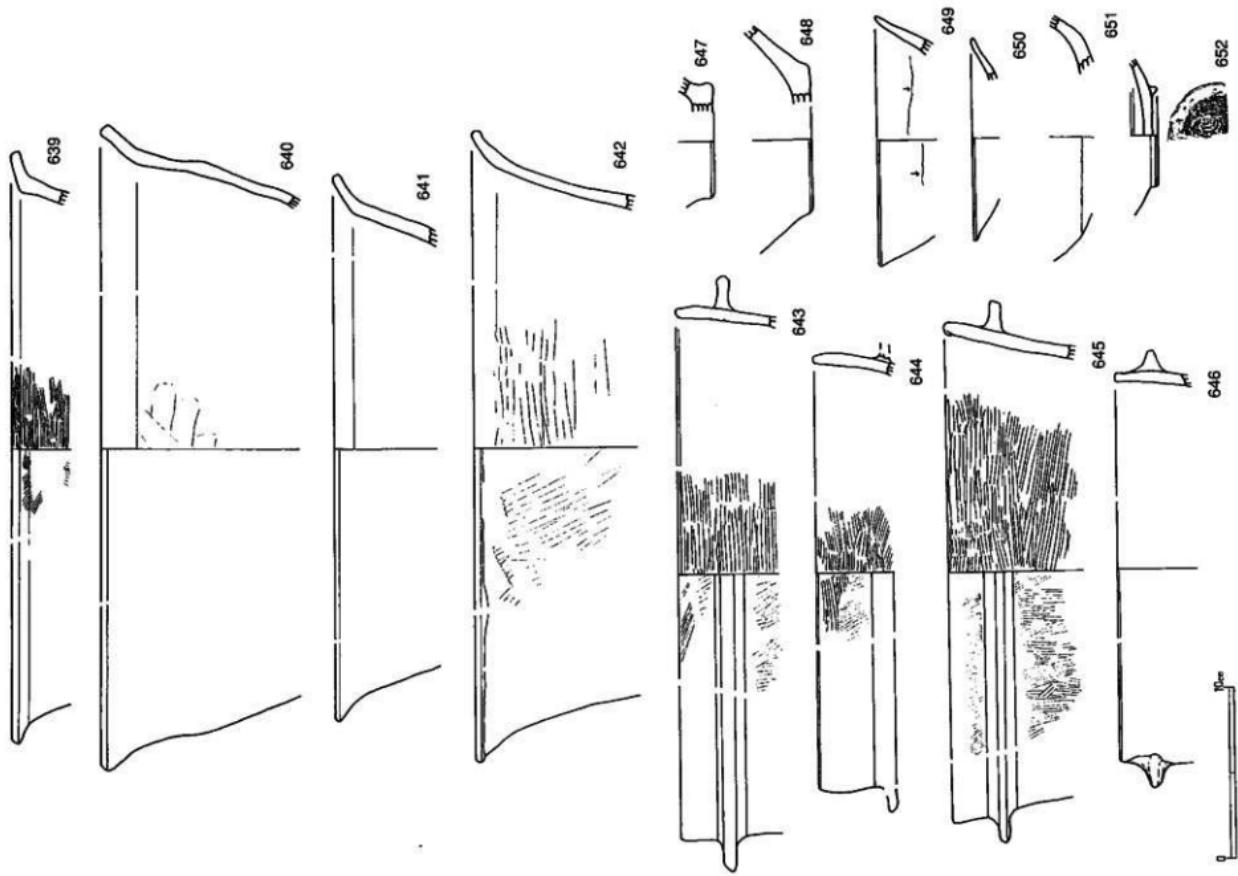


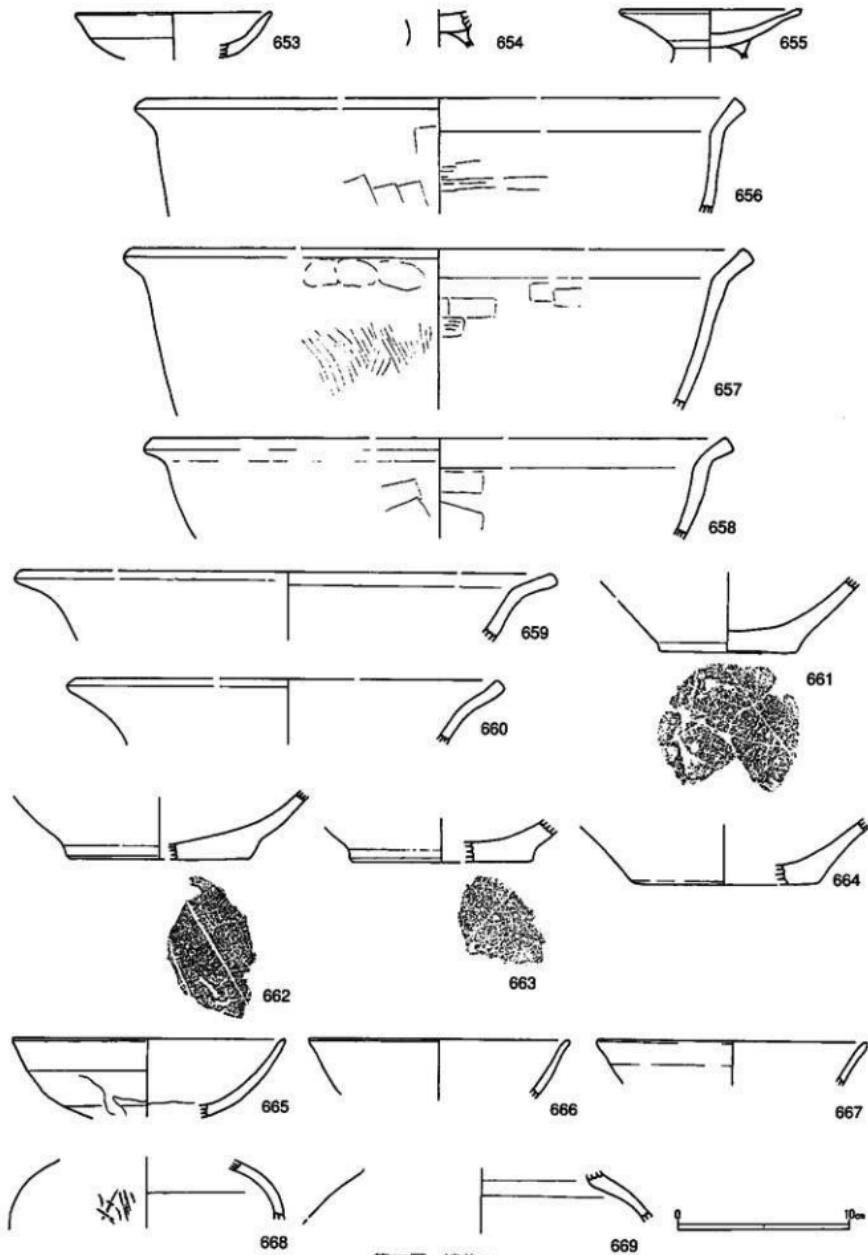
第66図 遺物28



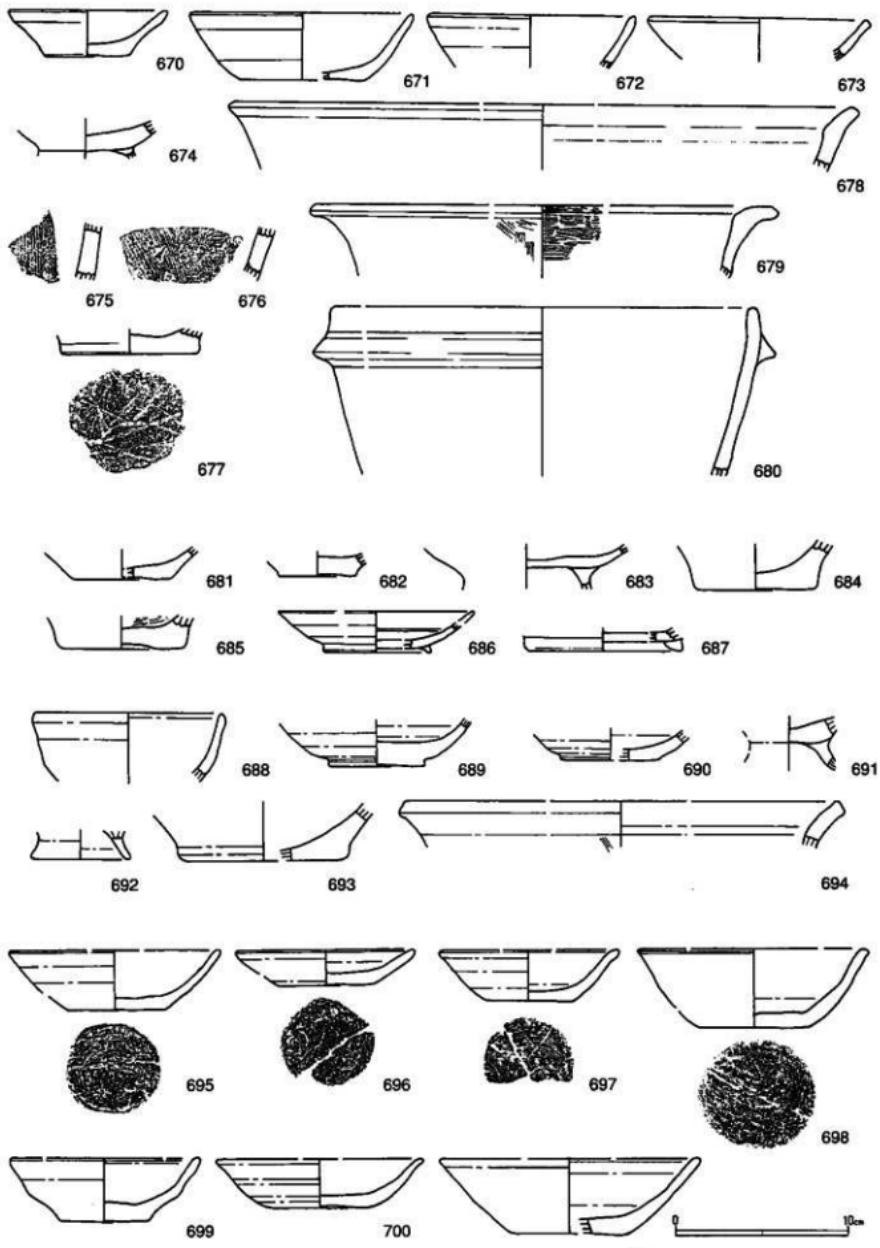
第67図 遺物29

第66圖 遺物30

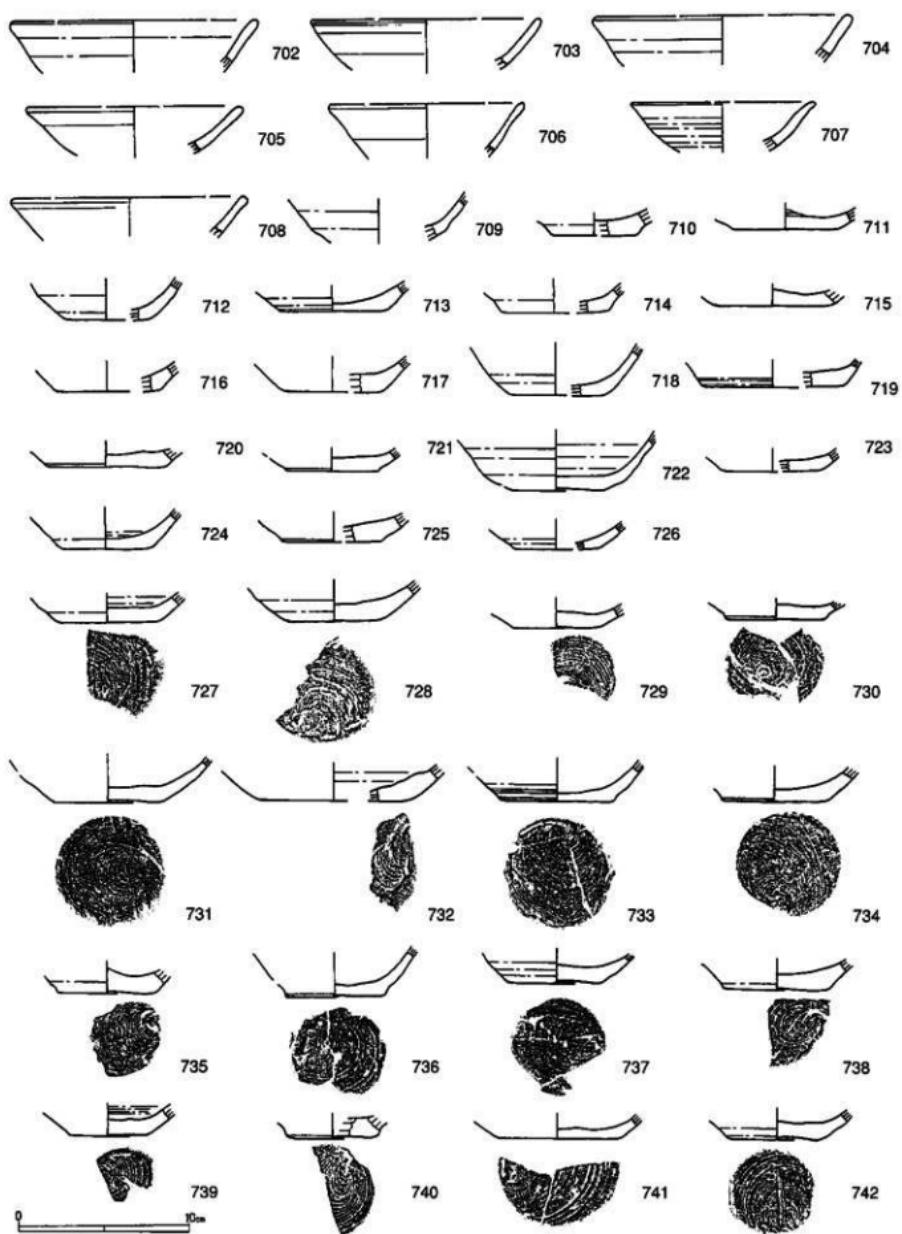




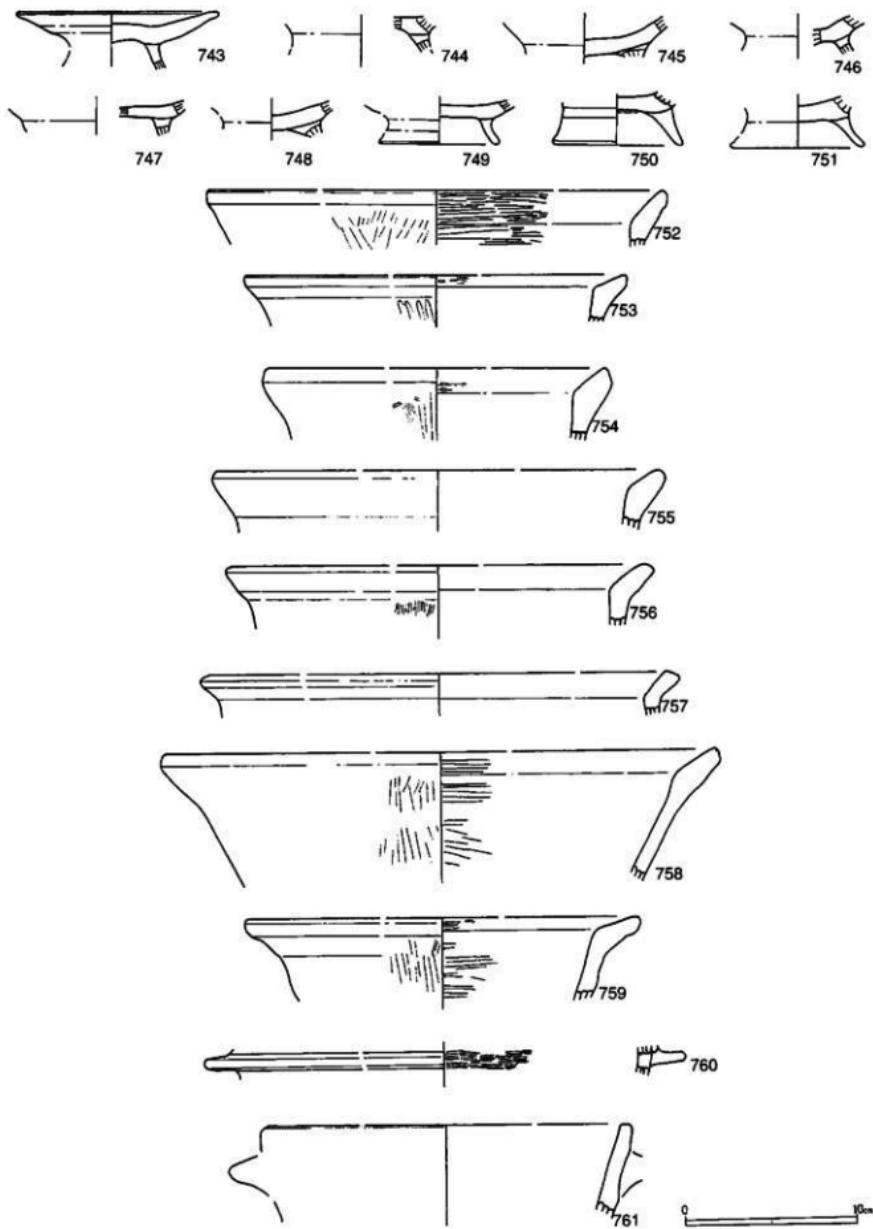
第69図 遺物31



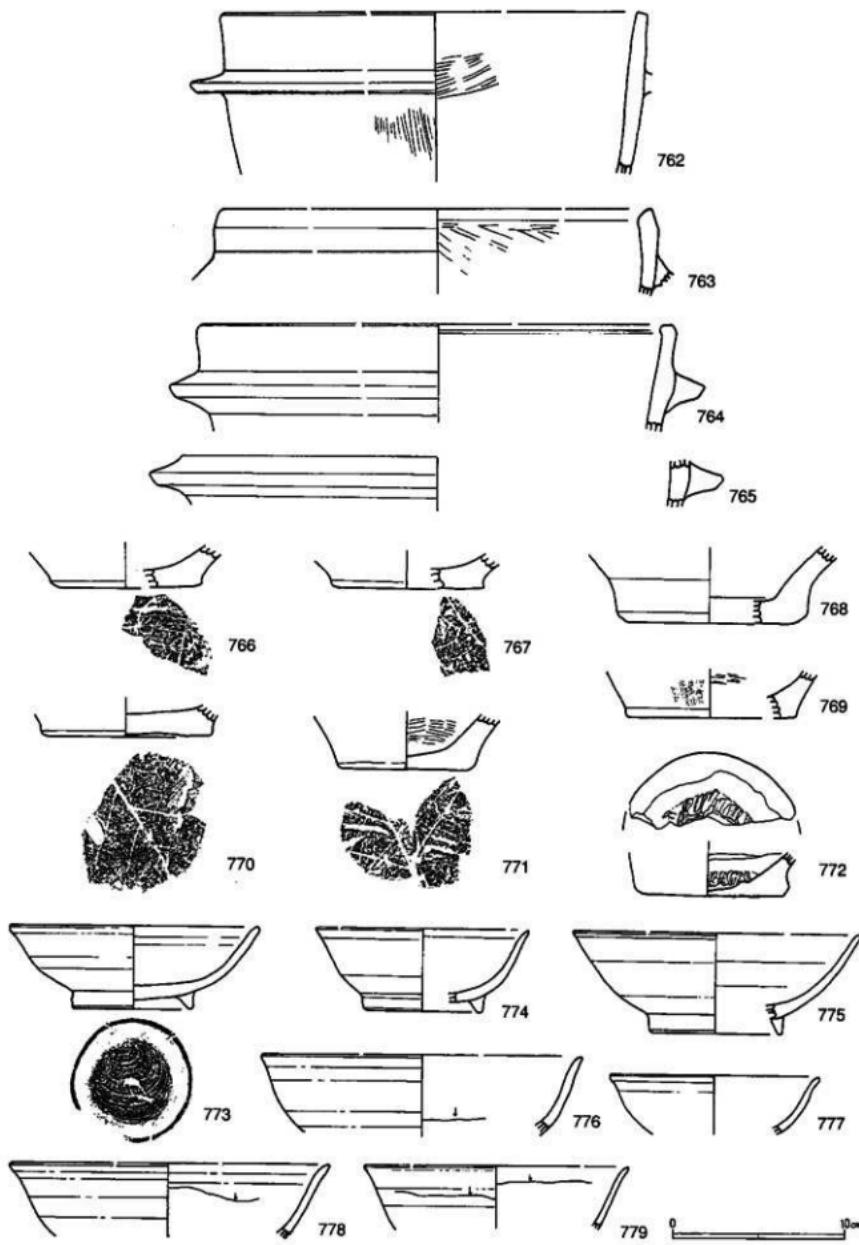
第70図 遺物32



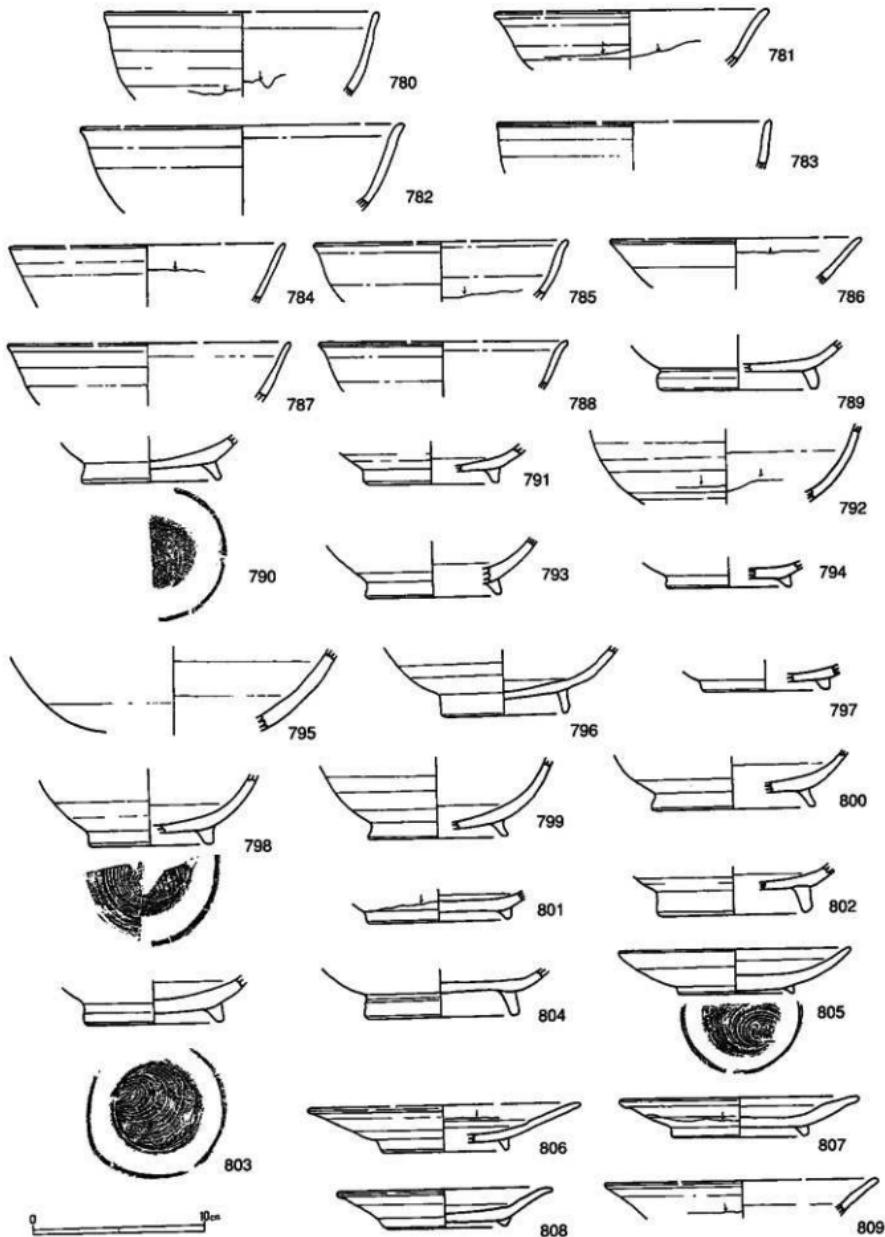
第71図 遺物33



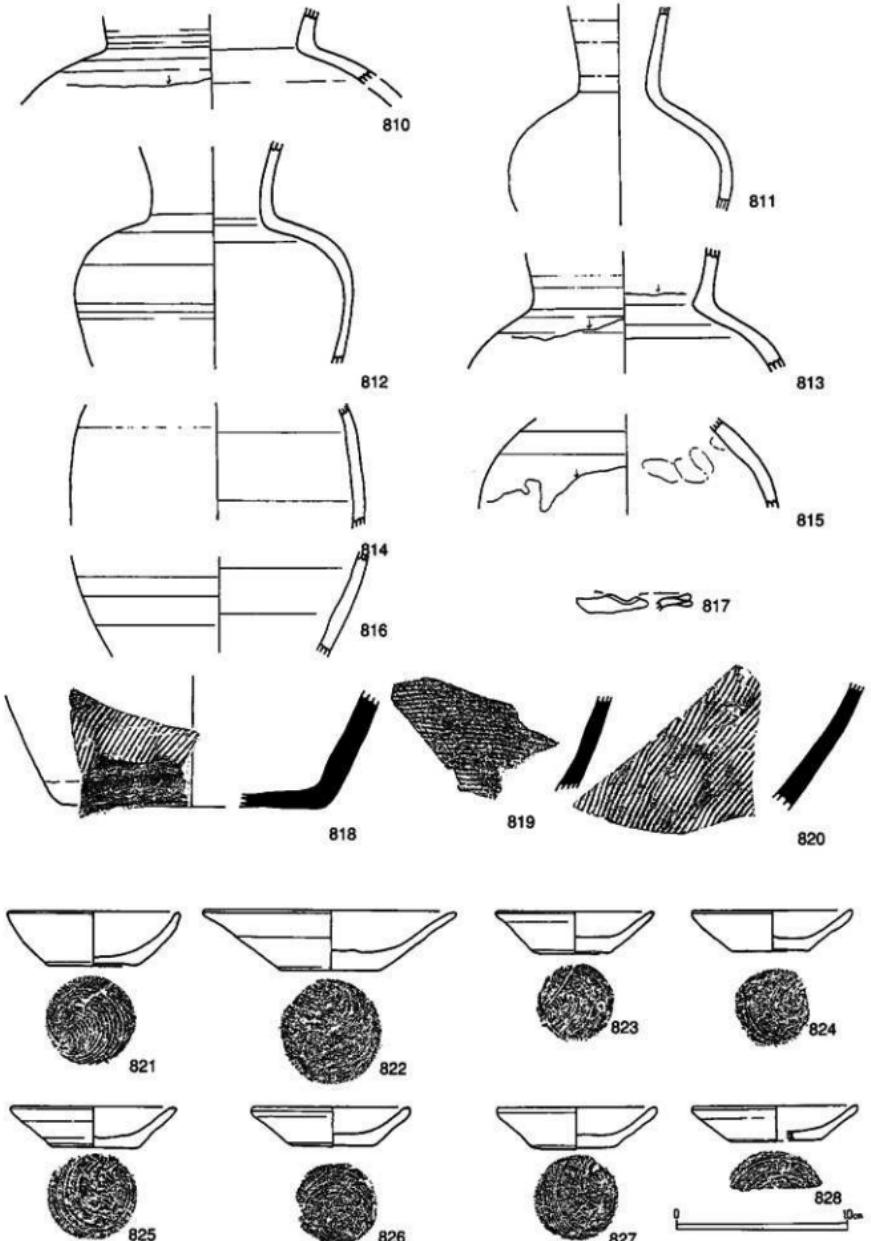
第72図 遺物34



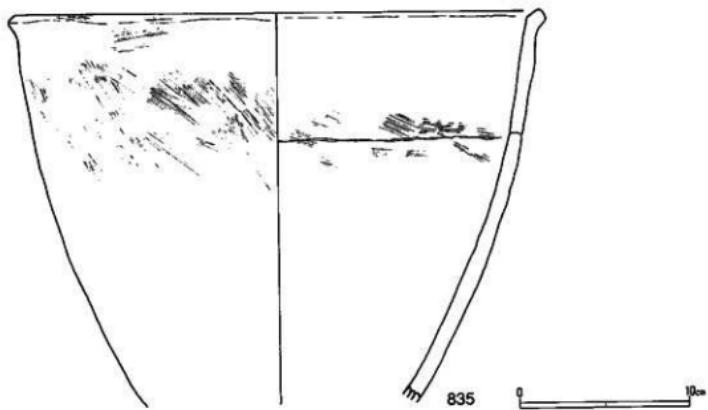
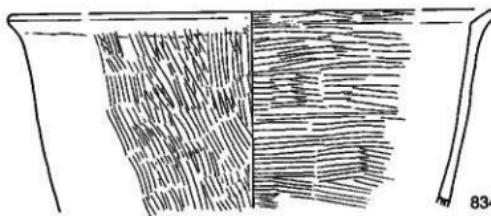
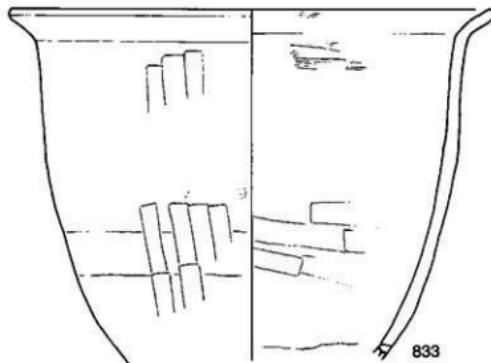
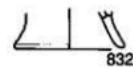
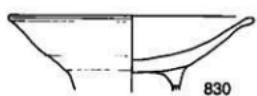
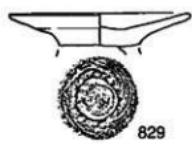
第73図 遺物35



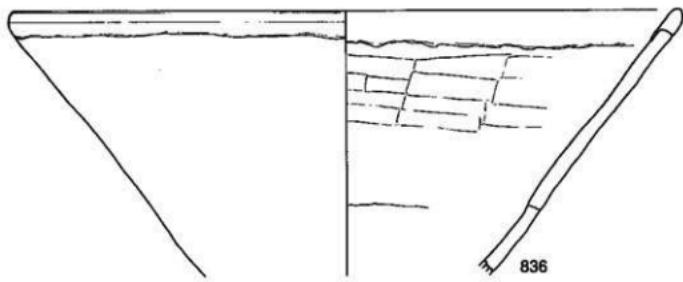
第74図 遺物36



第75図 遺物37



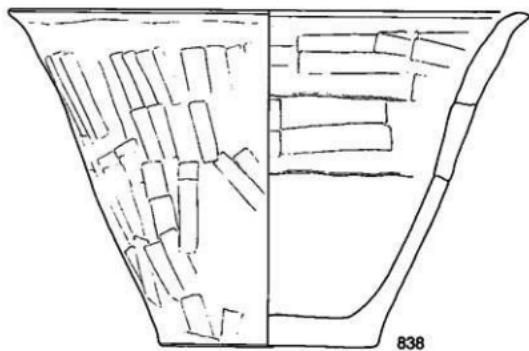
第76図 遺物38



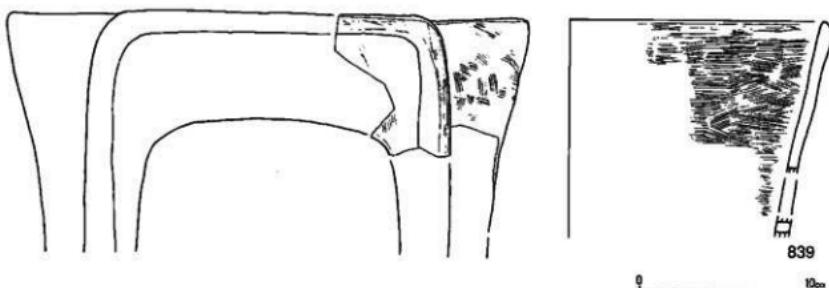
836



837

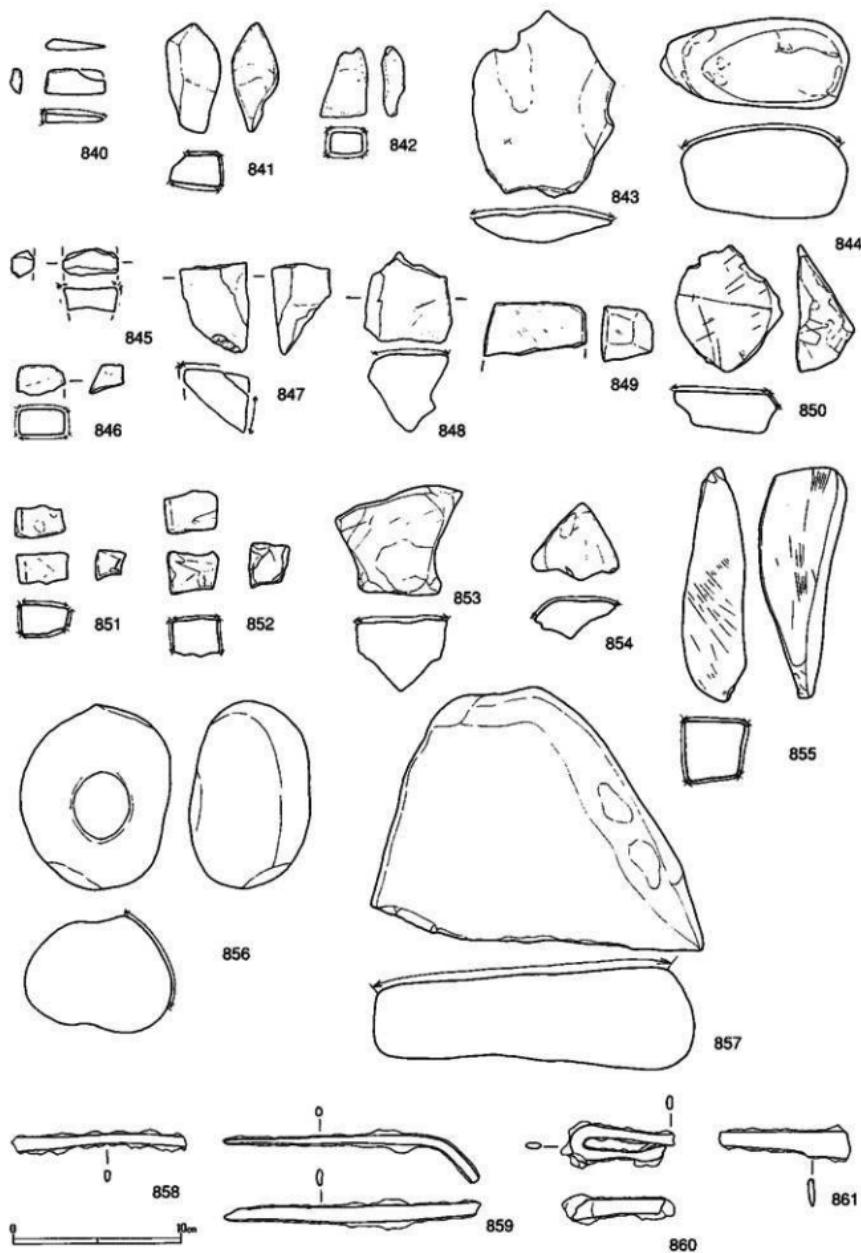


838



839

第77図 遺物39



第78図 遺物40

表1 横町遺跡出土遺物観察表

(法量の単位はcm、一は計測不確、< >は推定値)

測定番号	遺物番号	出土地点	注記番号	種別	器形	法量			色調	胎土	焼成	整理	備考
						口径	底面	直径					
39回	1	1住	13・15・1・10	弥生土器	甕	<13.4>	<11.2>	暗褐色	やや褐：白色粒子	良	内外面：ハケメ		
39回	2	1住	9	弥生土器	甕	—	—	—	暗褐色	やや褐：白色粒子	良	内外面：ハケメ	
39回	3	1住	3	弥生土器	甕	—	—	<7.2>	暗褐色	やや褐：白色粒子	良	内外面：ハケメ・底部：焼がらず?	
39回	4	1住	13	弥生土器	甕	—	—	—	褐色	石英・紫母	良	外面：ハケメ・ミガキ不明瞭内面：指擦痕	
39回	5	2住		弥生土器	甕	<17.8>	—	—	暗褐色	白色粒子	良	口縁部剥離文・内面：ミガキ・指擦痕・外縁：ハケメ・指擦痕	
39回	6	2住	14	弥生土器	甕	<21.2>	—	—	褐色	密	良	口縁部剥離文・内面：ミガキ	
39回	7	2住	7	弥生土器	高环肩甕	—	—	<10.4>	赤褐色	やや褐：石英・金粒子	良	内面：ナデ・ミガキ 外面：ややミガキが不明瞭	
39回	8	2住	13	弥生土器	甕	—	—	—	暗褐色	やや褐：白色粒子	良		
39回	9	3住	14	弥生土器	甕	<12.6>	<5.6>	<3.4>	暗褐色	白色粒子	良	内面：ハケメ・外縁：若干のハケメ・指擦痕	
39回	10	3住	16	弥生土器	甕	—	—	—	暗褐色	白色粒子	良	口縁部剥離文・内面：ハケメ	
39回	11	3住	12	弥生土器	甕	—	—	—	赤褐色	やや褐：白色粒子多粒	良	粗面陶・ハケメ・指擦痕	
39回	12	3住	9	弥生土器	甕	—	—	<7.8>	暗褐色	白色粒子	良	底面無落差・内面：ヘラナテ外縁：指擦による落差痕	
39回	13	3住	15	弥生土器	甕?	—	—	<5.1>	褐色・内面：明褐色	黑色粒子・紫母	良	底部：鉛筆状工具による調整痕・内面：ナデ・外縁：ハケメ・指擦痕による調整痕	
39回	14	13住	3	弥生土器	片口土器	—	—	—	褐色	白色粒子・砂粒	良		
39回	15	13住	1	弥生土器	甕	—	—	—	暗褐色	白色粒子	良		
39回	16	14住	4	弥生土器	甕	—	—	<7.8>	暗褐色	赤色白色粒子	良	内面：ハケメ・外縁：ミガキハケメ不明瞭	
39回	17	14住	10	弥生土器	甕	<23.4>	—	—	暗褐色	白色粒子	良	口縁部剥離文	
39回	18	14住	8	弥生土器	手縫ね	<5.5>	<2.8>	<2.5>	暗褐色	白色粒子・砂粒	良		
40回	19	15住	1	弥生土器	甕	17.0	—	—	暗褐色	砂粒	良	内面：ハケメ・ミガキ・外縁：ハケメ・如状點付丸コ所	
40回	20	15住	19	弥生土器	甕	<19.0>	—	—	暗褐色	砂粒	良	外縁：ミガキ・内面：ハケメ	
40回	21	15住	1	弥生土器	甕	16.0	14.5	9.3	褐色	赤色粒子・石英・砂粒多粒含	良	外縁：ナデ・指擦痕・輪郭線 併げ跡有	
40回	22	15住	15	弥生土器	甕	3.6	—	—	暗褐色	密	良		
40回	23	15住	1	弥生土器	台付甕	—	—	—	赤褐色	密	良		
40回	24	15住	25	弥生土器	甕?	—	—	<7.5>	暗褐色	やや褐：石英	良		
40回	25	15住	40	弥生土器	甕	—	—	<6.0>	暗褐色	金雲母	良		
40回	26	15住	2・11	弥生土器	甕?	—	—	7.8	褐色	赤色粒子やや含	良		
40回	27	15住	23	弥生土器	甕	—	—	<8.0>	暗褐色	密	良	底面：赤彩	
40回	28	15住	52・17住17	弥生土器	甕	—	—	<10.8>	赤褐色	粗：石英・金雲母	良	底面：赤彩	
40回	29	16住	23	弥生土器	甕	<20.0>	—	—	褐色	密	良	口縁部剥離文 内外面：摩耗により頭部剥離不可	
40回	30	16住	6・11・19	弥生土器	甕	18.0	—	—	褐色・赤褐色	密	良	口縁部：摩耗、隙歯のため調整痕が不明瞭	
40回	31	16住	13・17・30・25・32	弥生土器	甕	<12.8>	—	—	暗褐色	密	良	外縁：口縁部剥離・ハケメ・内面：ハケメ剥離後ミガキ	
40回	32	16住	11・29	弥生土器	甕	<22.0>	—	—	赤褐色	やや褐	良		
40回	33	16住	31	弥生土器	甕	<22.0>	—	—	暗褐色	やや褐	良	内外面：ハケメ不明瞭、折り返し口縁	
40回	34	16住	8	弥生土器	甕	—	—	<6.4>	褐色	白色粒子・石英・金雲母	良	底部：一部剥離	
41回	35	18住	46	弥生土器	甕	—	—	<6.8>	暗褐色	砂粒	良	内面：ミガキ	
41回	36	18住	39・50	弥生土器	甕	<13.5>	—	—	暗褐色	砂粒・小石	良	口縁部：さざみ文、内面：ミガキ	
41回	37	18住	25	弥生土器	甕	<11.8>	—	—	暗褐色	砂粒	良	口縁部：さざみ文	
41回	38	18住	51・52	弥生土器	甕	<13.6>	—	—	暗褐色	砂粒・小石	良	口縁部：さざみ文、内面：ミガキ	
41回	39	18住	3	弥生土器	甕	<15.2>	—	—	暗褐色	砂粒	良	口縁部：さざみ文、内面：ミガキ	
41回	40	18住	9	弥生土器	甕	<16.0>	—	—	暗褐色	砂粒	良	口縁部：さざみ文、内面：ミガキ	
41回	41	18住	43	弥生土器	甕	<14.0>	—	—	暗褐色	白色粒子	良		
41回	42	18住	23	弥生土器	甕	<15.0>	—	—	暗褐色	砂粒	良		
41回	43	18住	31	弥生土器	甕	<17.2>	—	—	暗褐色	金雲母・砂粒	良	内面：ハケメ、外縁：ハケメ不明瞭	
41回	44	18住	32	弥生土器	甕	<10.0>	—	—	赤褐色	密	良		
41回	45	18住	42	弥生土器	甕	<11.4>	—	—	暗褐色	白色粒子・小石	良		

測定 番号	遺物 番号	出土地点	注記番号	種別	形	油量			色調	地 土	組成	調査	備考
						口径	底径	底深					
41-2	46	19住	5	陶生土器	壺	<9.0>	-	-	暗褐色	白色粒子・砂粒	良	外画：ハケメ不明瞭	
41-2	47	19住	47	陶生土器	壺	-	-	<6.0>	暗褐色	白色粒子・砂粒	良	内画：ミガキ、外画：ハケメ	
41-2	48	19住	46・59・60	陶生土器	壺	<13.8>	-	-	暗褐色	白色粒子・小石	良	口器部：さざみ文、内外面：ミガキ	
41-2	49	18住	65	陶生土器	壺	-	-	-	明褐色	砂粒	良	内画：ミガキ、外画：ミガキ、ハケ目・細状付文	
41-2	50	18住	56	陶生土器	壺	3.8	-	-	明褐色	白色粒子	良		
41-2	51	19住	28	陶生土器	壺	-	-	-	褐色	白色粒子・金雲母	良	内画：ミガキ、外画：ハケメ	
41-2	52	18住	20	陶生土器	壺	-	-	-	褐色	白色粒子	良		
41-2	53	18住	-	陶生土器	壺	-	-	-	褐色	白色粒子	良		
41-2	54	18住	30	陶生土器	壺	-	-	-	暗褐色	白色粒子	良	櫛縞波状文・麻状文	
41-2	55	18住	14・15	陶生土器	壺	-	-	-	暗褐色	白色粒子	良	櫛縞波状文・麻状文	
41-2	56	18住	19	陶生土器	壺	-	-	-	褐色	白色粒子	良	櫛縞波状文	
41-2	57	18住	35	陶生土器	壺	-	-	-	暗褐色	白色粒子	良	櫛縞波状文	
41-2	58	18住	71	陶生土器	壺	-	-	-	暗褐色	白色粒子	良	櫛縞波状文	
41-2	59	18住	17	陶生土器	壺	-	-	-	明褐色	白色粒子	良	櫛縞波状文	
41-2	60	18住	16・70	陶生土器	壺	-	-	-	暗褐色	砂粒・金雲母	良	櫛縞波状文	
41-2	61	18住	45	陶生土器	壺	-	-	-	明褐色	白色粒子	良		
41-2	62	18住	48	陶生土器	壺	-	-	-	暗褐色	白色粒子	良	内外面：ハケメ	
41-2	63	18住	62・71	陶生土器	壺	-	-	-	赤褐色	やや粗：白色粒子・砂粒	良	内外面：ハケメ	
42-2	64	26住	10・11・16	陶生土器	壺	<24.0>	-	-	赤褐色	やや粗	良	勝毛調接ミガキ	
42-2	65	26住	21	陶生土器	壺	<18.8>	-	-	暗褐色	やや粗	良	内画：ミガキ、外画：勝毛調接 ミガキ	
42-2	66	28住	15・18・19・20	陶生土器	壺	<13.4>	<12.6>	-	暗褐色	やや粗	良	内画：ハケメ・ミガキ、外画： ハケメ	
42-2	67	26住	6	陶生土器	壺	<27.5>	-	-	褐色	白色粒子	良	ミガキ、内画：赤影	
42-2	68	26住	24	陶生土器	壺	-	-	<7.5>	暗褐色	やや粗：白色粒子	良	外画：ミガキ、底部木製痕	
42-2	69	26住	16	陶生土器	壺	-	-	<7.0>	暗褐色	やや粗	良	外画：ハケメ・ミガキ	
42-2	70	26住	4	陶生土器	壺	-	-	<5.0>	外画：黄褐色	砂粒	良	ミガキ	
42-2	71	26住	7	陶生土器	壺	-	-	<5.0>	暗褐色	密	良	外画：ミガキ	
									内外面：				
									赤影				
42-2	72	26住	22	陶生土器	壺	-	-	-	青褐色	やや粗：白色粒子	良	櫛縞波状文	
42-2	73	27住	3	陶生土器	壺	<14.4>	<14.8>	-	暗褐色	金雲母やや合	良	外画：櫛縞波状文・勝毛調接状 文・ミガキ、内画：ミガキ	
42-2	74	27住	1	陶生土器	壺	<15.4>	-	-	暗褐色	密	良	櫛縞波状文	
42-2	75	27住	-	陶生土器	壺	-	-	-	暗褐色	やや粗	良		
42-2	76	27住	-	陶生土器	壺	-	-	-	暗褐色	やや粗	良		
42-2	77	27住	-	陶生土器	壺	-	-	-	明褐色	やや粗	良		
42-2	78	27住	-	陶生土器	壺	-	-	-	暗褐色	やや粗	良		
42-2	79	32住	397・37・40・41	陶生土器	壺	<16.4>	-	-	明褐色	やや粗	良	外画：地描丁字文・ハケメ、内 画：ヘリ調接不規則	
42-2	80	32住	51・84	陶生土器	壺	<14.0>	-	-	赤褐色	赤色粒子	良	外画：ミガキ、全般的に摩滅 しているため、調査方法等不明 瞭	
42-2	81	32住	55	陶生土器	壺	<15.5>	-	-	暗褐色	白色粒子	良	外画：櫛縞波状文、内画：ヘリ 調接	
42-2	82	32住	6	陶生土器	壺	<19.8>	-	-	暗褐色	密	良	外画：櫛縞波状文・基状文、内 画：ハリ調接後ミガキ	
43-2	83	32住	72	陶生土器	壺	<19.8>	-	-	暗褐色	砂粒	良	外画：櫛縞波状文・基状文、内 画：ハリ調接後ミガキ	
43-2	84	32住	49	陶生土器	壺	<13.8>	-	-	外画：暗褐色、内 画：赤褐色	やや粗	良	外画：密粗文、内画：ハケメ	
43-2	85	32住	64	陶生土器	小型土 器片口	<9.6>	-	-	褐色	密	良	外画：密粗文、内画：ミガキ 赤影の痕跡あり	
43-2	86	32住	67	陶生土器	壺	-	-	-	暗褐色	やや粗	良	外画：ハリ調接後ミガキ、内画： 下部にハケメ	
43-2	87	32住	51	陶生土器	壺	-	-	-	暗褐色	密	良	外画：ミガキ不明瞭	
43-2	88	32住	69	陶生土器	壺	-	-	-	褐色	やや粗、石英	良	外画：ミガキ不明瞭	赤影
43-2	89	32住	76	陶生土器	壺	-	-	-	明褐色	石英	良	外画：ミガキ	
43-2	90	32住	43	陶生土器	高杯	-	-	-	明褐色	密	良	外画：ハケメ、内画：ミガキ	
43-2	91	32住	5	陶生土器	高杯	-	-	10.4	赤褐色	密	良	外画：ミガキ、内画：密々にミ ガキ	赤影
43-2	92	32住	23・25	陶生土器	壺	-	-	<19.8>	赤褐色	やや粗、石英	良	外画：ハリ調接後ミガキ、内画： ハケメ	
43-2	93	32住	44・57	陶生土器	壺	<11.8>	-	-	明褐色	やや粗	良		

番号 番号	造物 番号	出土地点	江記番号	種別	器形	造量			色調	胎土	施成	調査	備考
						口径	器高	底径					
4300	94	32往	52・53・58・60	弥生土器	壺	-	-	6.4	暗褐色	白色粒子	良	内面：ミガキ、底部：木葉痕？	
4301	95	32往	62	弥生土器	壺	-	-	<10.4	暗褐色	やや粗、石英	良	底部：木葉痕	
4302	96	32往	6	弥生土器	壺	-	-	<6.5	暗褐色	黒	良	底部含む外縁にミガキ	
4303	97	32往	7	弥生土器	壺	-	-	<6.4	褐色	黒	良	外縁：ミガキ	
4304	98	32往	62	弥生土器	壺	-	-	-	赤褐色	黒	良	櫛目波状文	
4305	99	32往	48	弥生土器	壺	-	-	-	暗褐色	やや粗	良	櫛目波状文	
4306	100	32往	2	弥生土器	壺	-	-	-	暗褐色	黒	良	櫛目波状文	
4307	101	32往	18	弥生土器	壺	-	-	-	褐色	やや粗	良	櫛目波状文	
4308	102	32往	4	弥生土器	壺	-	-	-	暗褐色	黒	良	櫛目波状文	
4309	103	32往	65	弥生土器	壺	-	-	-	暗褐色	黒	良	櫛目波状文	
4310	104	32往	74	弥生土器	壺	-	-	-	暗褐色	黒	良	櫛目波状文	
4311	105	32往	29	弥生土器	壺	-	-	-	暗褐色	黒	良	櫛目波状文	
4312	106	32往	11・22	弥生土器	壺	-	-	-	暗褐色	黒	良	櫛目波状文	
4313	107	32往	59	弥生土器	壺	-	-	-	暗褐色	やや粗、石英	良	平行風文・波状文	
4314	108	32往	32	弥生土器	壺	-	-	-	暗褐色	やや粗、石英	良	斜向子文	
4315	109	32往	67	弥生土器	壺	-	-	-	暗褐色	良			
4401	110	35往	1	弥生土器	壺	<18.0	-	-	暗褐色	白色粒子・小石	良	折り返し口縁	
4402	111	35往	2	弥生土器	壺	<20.0	-	-	褐色	白色粒子・砂粒	良	外縁：ハケ不明瞭、口部：きざみ文	
4403	112	35往	13	弥生土器	壺	-	-	-	褐色	黒	良		
4404	113	35往	45	弥生土器	壺	-	-	<8.5	暗褐色	砂粒・金雲母	良		
4405	114	35往	46	弥生土器	壺	-	-	<2.2	暗褐色	砂粒	良	内面：ミガキ、外縁：ハケメ	
4406	115	35往	7	弥生土器	壺	-	-	<9.5	褐色	砂粒	良	内外縁：ハケメ	
4407	116	35往	16	弥生土器	壺	-	-	-	褐色	白色粒子・砂粒	良	外縁：ミガキ、内面：ハケメ	
4408	117	35往	32	弥生土器	高台坪 壺	-	-	<21.8	暗褐色	砂粒	良	内外縁：ミガキ	赤彩
4409	118	35往	26・27・29・44・47・52	弥生土器	片口土 器	11.8	5.9	5.4	褐色	黒	良	内面：ミガキ、底部：木葉痕	赤彩
4410	119	35往	5	弥生土器	壺	-	-	-	暗褐色	白色粒子	良	櫛目波状文	
4411	120	35往	41	弥生土器	壺	-	-	-	暗褐色	白色粒子	良	櫛目波状文・筆試文、内面：ミ ガキ	
4412	121	35往	4	弥生土器	壺	-	-	-	暗褐色	白色粒子・金雲母	良	櫛目波状文	
4413	122	35往	1	弥生土器	壺	-	-	-	褐色	赤色・白色粒子・金雲母	良	櫛目波状文	
4414	123	35往	51	弥生土器	壺	-	-	-	褐色	赤色・白色粒子・金雲母	良	櫛目波状文	
4501	124	弥生墓中	57+59+60	弥生土器	壺	<32.6	-	-	明褐色	石英・金雲母	良	内面にミガキ不可視	
4502	125	弥生墓中	251	弥生土器	壺	<18.0	-	-	暗褐色	黒	良		
4503	126	弥生墓中	106+110+141	弥生土器	壺	21.4	-	-	明褐色	赤色粒子	良		
4504	127	弥生墓中	192	弥生土器	壺	16.6	-	-	明褐色	赤色粒子	良	折り返し口縁	
4505	128	弥生墓中	103	弥生土器	壺	<17.6	-	-	赤褐色	黒	良	折り返し口縁	
4506	129	弥生墓中	58	弥生土器	小型壺 ?	<12.8	-	-	明褐色	赤色粒子やや含	良		
4507	130	弥生墓中	247	弥生土器	壺	<14.0	-	-	褐色	黒	良	内面：ミガキ、外縁ハケ調整後 ミガキ	
4508	131	弥生墓中	125	弥生土器	壺	-	-	-	明褐色	やや粗	良	外縁：丁字文、内面：ミガキ	
4509	132	弥生墓中	109	弥生土器	壺	-	-	-	明褐色	黒	良	丁字文	
4510	133	弥生墓中	136	弥生土器	壺	-	-	-	褐色	黒	良	鉢状跡付	
4511	134	弥生墓中	35+36+38+42+43+67	弥生土器	壺	-	-	-	暗褐色	やや粗	良		
4512	135	弥生墓中	1-28.1・2・3・5・6・7 +10	弥生土器	壺	-	-	-	褐色	やや粗	良	外縁：ハケメ	
4513	136	弥生墓中	107	弥生土器	壺	-	-	-	明褐色	非赤粒子	良	底邊が激しく不確な外縁に ミガキ、底縁：鉢底痕又か？	赤彩か？
4514	137	弥生墓中	22	弥生土器	壺	-	-	-	明褐色	赤色粒子	良	外縁：ミガキ、内面：ハケ調整	
4515	138	弥生墓中	196+199+211	弥生土器	壺	-	-	-	暗褐色	白色粒子	良	外縁：ミガキ、内面：ハケ調整	
4516	139	弥生墓中	88+91	弥生土器	壺	<16.4	-	-	暗褐色	黒	良	外縁：ミガキ不確	
4517	140	弥生墓中	85+94+95+97+92+98+99 +667	弥生土器	壺	18.7	22.5	8.0	褐色	やや粗、金雲母やや含	良		
4518	141	弥生墓中	162+163+164+328	弥生土器	壺	<15.8	-	-	赤褐色	やや粗、石英・金雲母	良	口唇部：刻み文・櫛目波状文・ 底状文、内面：ハケメ	
4519	142	弥生墓中	131	弥生土器	壺	<16.5	-	-	暗褐色	黒	良	外縁：櫛目波状文、口唇部：ハ ケツ工具による刻み、内面：ミ ガキ	
4520	143	弥生墓中	197	弥生土器	壺	<21.5	-	-	明褐色	やや粗、赤色粒子	良		
4521	144	弥生墓中	154	弥生土器	壺	<16.4	-	-	褐色	黒	良	外縁：櫛目波状文、内面：ミガ キ	
4522	145	弥生墓中	16	弥生土器	壺	<17.4	-	-	褐色	黒	良		
4523	146	弥生墓中	227	弥生土器	壺	<16.5	-	-	暗褐色	黒	良	ハケ調整後、櫛目波状文	
4524	147	弥生墓中	293	弥生土器	壺	15.0	-	-	暗褐色	黒	良		
4525	148	弥生墓中	1-26+14+15	弥生土器	壺	14.0	-	-	赤褐色	やや粗、白色粒子	良	内面：ハケメ	
4526	149	弥生墓中	127	弥生土器	壺	<16.0	-	-	褐色	石英	良	内面：ミガキ	

特徴 番号	植物 番号	出土地点	注記番号	種 別	基 形	法 量			色 調	地 土	性 成	調 整	備 考					
						口径	腹幅	底径										
4601	150	衛生集中	I-26-9	衛生土器	壺	14.0	-	-	赤褐色	やや粗、白色粒子・金星斑 やや含	良	内外面：ハケメ、口部部：ハケ 状工具による跡み文						
4602	151	衛生集中	152+214	衛生土器	壺	<17.0	-	-	褐色	密	良	外側：赤彩						
4603	152	衛生集中	151+153	衛生土器	小型壺	<11.0	-	-	褐色	やや粗	良							
4604	153	衛生集中	145+148+147+178	衛生土器	壺	-	-	-	褐色	やや粗	良	擦挫波状文・縫状文						
4605	154	衛生集中	23+25+32+33+46+51+17 0+223+266	衛生土器	壺	<30.4	-	-	明褐色	密	良	内外面：ミガキ調整	内面：赤彩					
4701	155	衛生集中	112	衛生土器	壺	23.6	-	-	明褐色	密	良	内外面：ミガキ・ハケメ	内外面：赤彩					
4702	156	衛生集中	205+I-23G	衛生土器	壺	<19.0	-	-	褐色	石英	良	内外面：ミガキ	外側：赤彩					
4703	157	衛生集中	149	衛生土器	高杯	-	-	-	赤褐色	密	良	外側：ミガキ、内面：ハケメ	外側：赤彩					
4704	158	衛生集中	I-26-9	衛生土器	台付壺	-	-	10.0	明褐色	やや粗	良							
4705	159	衛生集中	226	衛生土器	壺?	16.0	-	-	明褐色	密	良	内外面：赤彩						
4706	160	衛生集中	213	衛生土器	高杯	<13.0	-	-	明褐色	白色粒子	良	内外面：赤彩						
4707	161	衛生集中	148	衛生土器	高杯	<16.0	-	-	明褐色	密	良	内外面：赤彩						
4708	162	衛生集中	68	衛生土器	壺	-	-	-	褐色	密	良	内外面：ミガキ						
4709	163	衛生集中	120	衛生土器	壺	-	-	6.4	明褐色	密	良	底部含む全体にミガキ						
4710	164	衛生集中	169	衛生土器	壺	-	-	<17.0	明褐色	石英・白色粒子	良	外側：摩耗しているが全体にミ ガキ、内面：ハケ調整						
4706	165	衛生集中	280	衛生土器	壺	-	-	7.0	褐色	白色粒子	良	内外面：ミガキ						
4707	166	衛生集中	12+19+80	衛生土器	壺	-	-	<5.2	褐色	密	良	内外面：ハケメ・ミガキ						
4708	167	衛生集中	99+90	衛生土器	壺	-	-	<12.4	明褐色	石英	良	外側：ハケ調整後ミガキ、内面 ：ハケメ						
4709	168	衛生集中	I-26-2	衛生土器	壺	-	-	<12.6	褐色	やや粗：白色粒子	良							
4710	169	衛生集中	4+21	衛生土器	壺	-	-	<5.0	明褐色	密	良	内外面：ミガキ						
4709	170	衛生集中	303	衛生土器	壺	-	-	<12.6	明褐色	外側：ミガキ・ハケメ	良							
4710	171	衛生集中	7	衛生土器	壺	-	-	<5.2	明褐色	赤色粒子	良							
4711	172	衛生集中	186	衛生土器	壺	-	-	7.6	褐色	密	良							
4712	173	衛生集中	166+168	衛生土器	壺	-	-	<7.2	褐色	白色粒子	良	外側：ヘラミガキ?、内面：や ミガキの跡						
4713	174	衛生集中	156	衛生土器	壺	-	-	<7.0	褐色	赤色粒子	良							
4714	175	衛生集中	293+304	衛生土器	壺	-	-	<5.8	明褐色	密	良	底部木質痕						
4715	176	衛生集中	37	衛生土器	壺	-	-	8.0	明褐色	やや粗、白色粒子	良							
4716	177	衛生集中	296	衛生土器	壺	-	-	8.0	赤褐色	白色粒子	良	底部：木質痕						
4717	178	衛生集中	295	衛生土器	壺	-	-	<7.8	明褐色	やや粗、石英・金星斑	良	底部：木質痕						
4718	179	衛生集中	122	衛生土器	壺	-	-	<5.4	褐色	石英	良	内外面：赤彩						
4719	180	衛生集中	313	衛生土器	壺	-	-	<6.0	明褐色	白色粒子	良							
4720	181	衛生集中	128	衛生土器	壺?	-	-	7.0	明褐色	密	良							
4721	182	衛生集中	135	衛生土器	壺	-	-	-	明褐色	密	良	内面：ミガキ						
4722	183	衛生集中	263	衛生土器	壺	-	-	-	明褐色	密	良							
4723	184	衛生集中	I-26-8	衛生土器	壺	-	-	-	褐色	白色粒子	良	外側：波状文、内面：ハケメ						
4724	185	衛生集中	215	衛生土器	壺?	-	-	-	明褐色	やや粗	良	擦挫波状文						
4725	186	衛生集中	150	衛生土器	壺	-	-	-	褐色	密	良	外側：擦挫波状文						
4726	187	衛生集中	62	衛生土器	壺	-	-	-	褐色	やや粗	良	外側：擦挫波状文、内面：ハ ケメ						
4727	188	衛生集中	56	衛生土器	壺	-	-	-	褐色	金星斑	良							
4801	189	衛生集中	21	衛生土器	壺	-	-	-	褐色	密	良	擦挫波状文						
4802	190	衛生集中	L25G	衛生土器	壺	-	-	-	明褐色	密	良							
4803	191	衛生集中	L27G	衛生土器	壺	-	-	-	明褐色	密	良							
4804	192	衛生集中	I-26-4	衛生土器	壺	-	-	-	明褐色	密	良							
4805	193	衛生集中	216	衛生土器	壺?	-	-	-	明褐色	やや粗	良	口部部：刻み文						
4806	194	衛生集中	245	衛生土器	壺?	-	-	-	赤褐色	密	良	口部部：刻み文						
4807	195	衛生集中	174	衛生土器	壺	-	-	-	褐色	やや粗、石英	良							
4808	196	衛生集中	M27-1	衛生土器	壺	-	-	-	明褐色	密	良	外側：丁字文、内面：ミガキ						
4809	197	衛生集中	L28G	衛生土器	壺	-	-	-	明褐色	密	良							
4810	198	衛生集中	K28G	衛生土器	壺	-	-	-	赤褐色	密	良							
4809	199	衛生集中	13+48	衛生土器	壺	-	-	-	褐色	密	良	丁字文?						
4810	200	衛生集中	256	衛生土器	-	-	-	褐色	密	良	外側：波状文、縫状文、内面：ミガ キ							
4811	201	衛生集中	I-25-11	衛生土器	-	-	-	明褐色	やや粗	良								
4802	202	衛生集中	54+329	衛生土器	壺	-	-	-	明褐色	金星斑	良							
4803	203	衛生集中	318	衛生土器	-	-	-	明褐色	密	良								
4804	204	衛生集中	232	衛生土器	壺	-	-	-	褐色	粗、石英	良	外側：波状文、縫状文、内面： ハケメ						
4805	205	衛生集中	155	衛生土器	壺	-	-	-	明褐色	密	良							
4806	206	衛生集中	75	衛生土器	壺	-	-	-	褐色	密	良							
4807	207	衛生集中	L27G	衛生土器	壺	-	-	-	褐色	密	良							
4808	208	衛生集中	271	衛生土器	壺	-	-	-	褐色	密	良							
4809	209	衛生集中	-	衛生土器	壺	-	-	-	褐色	密	良							

番号 番号	遺物 番号	出土地点	注記番号	種別	器形	逐段			色調	耕土	堆成	測量	備考	
						口径	器高	底径						
485	210	弥生集中	L26G	弥生土器	罐	-	-	-	暗褐色	帶	良			
485	211	弥生集中	8	弥生土器	罐	-	-	-	暗褐色	密	良	内面：ハケ調整後ミガキ		
485	212	弥生集中	248	弥生土器	罐	-	-	-	暗褐色	密	良	都構造状況		
485	213	弥生集中	55	弥生土器	罐	-	-	-	暗褐色	密	良			
485	214	弥生集中	144	弥生土器	罐	-	-	-	外縁：尾 褐色、内 裏：明褐色	密	良			
485	215	弥生集中	154	弥生土器	罐	-	-	-	暗褐色	密	良			
485	216	弥生集中	K26G	弥生土器	罐	-	-	-	暗褐色	密	良			
485	217	弥生集中	250	弥生土器	罐	-	-	-	暗褐色	密	良			
485	218	弥生集中	K27G	弥生土器	罐	-	-	-	褐色	密	良			
485	219	弥生集中	129	弥生土器	罐	-	-	-	褐色	密	良			
485	220	弥生集中	L26G	弥生土器	罐	-	-	-	暗褐色	密	良			
485	221	弥生集中	K27G	弥生土器	罐	-	-	-	暗褐色	密	良			
485	222	弥生集中	K27G	弥生土器	罐	-	-	-	暗褐色	密	良			
485	223	弥生集中	L26G	弥生土器	罐	-	-	-	暗褐色	密	良			
485	224	弥生集中	124	弥生土器	罐	-	-	-	褐色	密	良	内面：暗褐色？		
485	225	弥生集中	139	弥生土器	罐	-	-	-	暗褐色	密	良			
485	226	弥生集中	181+182+195	弥生土器	罐	-	-	-	暗褐色	赤色粒子	良			
485	227	弥生集中	L26G	弥生土器	罐	-	-	-	暗褐色	密	良			
485	228	弥生集中	K26G	弥生土器	罐	-	-	-	暗褐色	密	良			
485	229	弥生集中	286	弥生土器	罐	-	-	-	暗褐色	密	良			
485	230	弥生集中	71	弥生土器	罐	-	-	-	褐色	やや粗	良			
495	231	弥生集中	167	弥生土器	壺？	-	-	-	暗褐色	密	良	外縁：ハケ付、内面：ミガキ	赤彩	
495	232	弥生集中	41	弥生土器	壺？	-	-	-	暗褐色	密	良			
495	233	弥生集中	156	弥生土器	壺？	-	-	-	暗褐色	密	良			
495	234	弥生集中	168	弥生土器	壺	-	-	-	暗褐色	密	良			
495	235	弥生集中	K26G	弥生土器	壺	-	-	-	暗褐色	密	良			
495	236	弥生集中	56	弥生土器	壺	-	-	-	暗褐色	やや粗、石英	良			
495	237	弥生集中	202	弥生土器	壺？	-	-	-	暗褐色	密	良			
495	238	弥生集中	S-10	弥生土器	壺	-	-	-	暗褐色	密	良			
495	239	弥生集中	L27G	弥生土器	壺	-	-	-	暗褐色	密	良			
495	240	弥生集中	235	弥生土器	壺	-	-	-	暗褐色	密	良	ハケ調整後ミガキ		
495	241	弥生集中	65	弥生土器	壺	-	-	-	赤褐色	密	良	外縁：ハケ付、内面：ミガキ		
495	242	弥生集中	224+279	弥生土器	壺	-	-	-	褐色	密	良			
495	243	弥生集中	217	弥生土器	壺	-	-	-	暗褐色	金雲母やや含	良			
495	244	弥生集中	290+302	弥生土器	壺	-	-	-	褐色	密	良	内外縁：ハケ付		
495	245	弥生集中	15	弥生土器	壺	-	-	-	褐色	密	良			
495	246	弥生集中	171	弥生土器	壺	-	-	-	暗褐色	密	良	外縁：ミガキ、内面：ハケ付		
495	247	弥生集中	53-73	弥生土器	壺	-	-	-	暗褐色	密	良			
495	248	弥生集中	305	弥生土器	壺	-	-	-	暗褐色	密	良			
505	249	弥生集中		土製品	土笛？	-	-	-	褐色	密	良	白色粒子・砂粒		
505	250	18往	66	土製品	筋錠車	<3.8	<3.85	<1.9	褐色・ 帆屋錠車形？	白色粒子・ 帆屋錠車形？	良			
505	251	18往	66	土製品	筋錠車	<4.3	<4.2	<1.6	浅い褐色	白色粒子・ 帆屋錠車形？	良			
505	252	18往	66	土製品	筋錠車	<4.3	<4.2	<1.6	浅い褐色	白色粒子・ 帆屋錠車形？	良			
505	253	18往	66	土製品	筋錠車	<4.3	<4.2	<1.6	浅い褐色	白色粒子・ 帆屋錠車形？	良			
505	254	18往	66	土製品	筋錠車	<4.3	<4.2	<1.6	浅い褐色	白色粒子・ 帆屋錠車形？	良	口縁内面に削痕		
505	255	18往	66	土製品	筋錠車	<4.3	<4.2	<1.6	浅い褐色	白色粒子・ 帆屋錠車形？	良	底面内面に削痕文字		
515	256	4往	77	土器類	圓筒高台	-	-	-	暗褐色	赤色白粒子・金銀島	良			
515	257	4往	69	土器類	坪（打）	<10.4	<3.05	<5.3	茶褐色	赤色白粒子・砂粒	良	底部：赤切り底	内面：焼付箇	
515	258	4往	93	土器類	坪	<10.6	<3.4	<5.6	暗褐色	金銀島・赤色白粒子	良	底部：赤切り底		
515	259	4往	53	土器類	坪	<14.4	<4.1	<5.6	暗褐色	赤色白粒子・石英・ 金銀島・黒雲母	良			
515	260	4往	4	土器類	坪	<9.6	<2.9	<4.0	暗褐色	砂粒・小石	良	底部赤切り底	口縁裏み	
515	261	4往	14	土器類	坪	<11.6	<2.9	<5.6	暗褐色	赤色粒子・砂粒	良			
515	262	4往	87-88-89	土器類	坪	<13.0	<3.8	<5.0	褐色	白色粒子・砂粒	良	底部赤切り底		
515	263	4往	4	土器類	坪	<13.4	-	-	暗褐色	赤色粒子・砂粒	良			
515	264	4往	34	土器類	坪	<15.0	-	-	暗褐色	赤色白粒子	良			
515	265	4往	1	土器類	坪	<21.4	-	-	暗褐色	金銀島・小石	良			
515	266	4往	73	土器類	圓筒高 台	-	-	-	赤褐色	赤色粒子・砂粒	良			
515	267	4往	59	土器類	圓筒高 台	-	-	-	赤褐色	赤色・白色粒子・砂粒	良	底部：赤切り底	内面：焼付箇	
515	268	4往	7	土器類	坪	<29.0	-	-	暗褐色	白色粒子・小石	良	外縁：ハケ付不明箇		

種別 番号	遺物 番号	出土場所	注記番号	種 別	基 附	法 量			色 調	地 土	性 質	調 査	備 考
						凸桂	基高	底径					
51④	269	4住	58	土器部 盤	盤	<29.4>	-	-	褐色	金雲母・小石	良	内面：ナデ	
51⑤	270	4住	45	土器部 盤	盤	<27.4>	-	-	褐色	白色粒子・金雲母	良	外側：ハケメ	
51⑥	271	4住	42	土器部 盤	盤	<23.4>	-	-	褐色	金雲母・小石	良		
51⑦	272	4住	91	土器部 盤	盤	-	-	<7.0>	褐色	白色黑色粒子・小石	良	底部：木葉痕	
51⑧	273	4住	54・57・カマド1	土器部 盤	盤	<37.2>	-	-	褐色	金雲母・小石	良	内面：ハケメ不明瞭・指痕痕	
52①	274	4住	48・11住	灰陶器部 盤	高台付 盤	<12.4>	<2.5>	<6.0>	白灰色	繊密	良		
52②	275	4住	29	灰陶器部 盤	盤	<14.6>	-	-	白灰色	密	良		
52③	276	4住	71	灰陶器部 盤	盤	<14.6>	-	-	白灰色	密	良		
52④	277	4住	F13G	灰陶器部 盤	盤	<11.8>	-	-	白灰色	密	良		
52⑤	278	4住	16・2ミソ	灰陶器部 盤	高台付 盤	<9.2>	-	<6.4>	白灰色	密	良	底部未切り痕	丸石2号
52⑥	279	4住	86・2ミソ	灰陶器部 盤	盤	-	-	<6.5>	白灰色	繊密	良		
52⑦	280	4住	45	灰陶器部 盤	盤	<11.6>	-	-	灰褐色	密	良		
52⑧	281	4住	95	灰陶器部 盤	盤	-	-	-	灰色	密	良		
52⑨	282	4住	103	灰陶器部 盤	盤	-	-	-	灰色	密	良		
52⑩	283	4住	52	灰陶器部 盤	盤	-	-	-	绿色	密	良		
52⑪	284	4住	44	灰陶器部 盤	盤	-	-	-	绿色	密	良		
52⑫	285	4住	50	陶器部 盤	盤	-	-	-	灰褐色	密	良		
52⑬	286	4住	74	陶器部 盤	盤	-	-	-	灰褐色	密	良		
52⑭	287	9住	カマド17	土器部 盤	盤	11.2	3.4	5.5	赤褐色	赤色・白色粒子・砂粒・小石	良	底部：未切り痕・口縁部：歪み	
52⑮	288	5住	カマド57・54	土器部 盤	盤	<11.6>	2.4	4.5	赤褐色	赤色粒子	良	底盤：未切り痕・内面：地文？	
52⑯	289	5住	カマド32・40	土器部 盤	盤	-	-	5.2	赤褐色	赤色粒子	良	底盤：未切り痕	
52⑰	290	5住	21	土器部 盤	盤	<10.0>	-	-	赤褐色	赤色粒子	良		復付意
52⑱	291	6住	カマド18	土器部 盤	盤	1.1	2.5	5.5	赤褐色	赤色粒子・砂粒	良	底部：条切り痕	
52⑲	292	5住	4	土器部 盤	盤	<12.2>	-	-	赤褐色	赤色粒子・砂粒	良		
52⑳	293	5住	カマド5・12・15	土器部 盤	高台基 台付盤	<12.6>	<4.9>	<6.6>	明褐色	赤色粒子・砂粒	良		
52㉑	294	5住	カマド35	土器部 盤	高台付 盤	<14.6>	-	-	赤褐色	赤色粒子・砂粒	良		
52㉒	295	5住	33・55・61	土器部 盤	盤	13.0	4.7	6.2	褐色	赤色粒子	良	底部：未切り痕	
52㉓	296	5住	75	土器部 盤	盤	<13.6>	4.5	6.6	赤褐色	赤色・白色粒子	良	底部：未切り痕	
52㉔	297	5住	61・89	土器部 盤	盤	<11.6>	2.3	<5.8>	赤褐色	赤色粒子	良	底部未切り痕	
52㉕	298	5住	12・39	土器部 盤	高台基 台付盤 ？	<15.0>	-	-	赤褐色	赤色粒子	良		
52㉖	299	5住	68	土器部 盤	盤	<12.6>	-	-	明褐色	赤色粒子	良		
52㉗	300	5住	11	土器部 盤	盤	<12.6>	-	-	明褐色	赤色粒子・砂粒	良		
52㉘	301	5住	79	土器部 盤	盤	<11.6>	-	-	赤褐色	赤色粒子	良		
52㉙	302	5住	59・72	土器部 盤	盤	<8.6>	-	-	明褐色	黑色試料・砂粒	良		
52㉚	303	5住	90	土器部 盤	盤	-	-	<5.4>	明褐色	赤色粒子	良	底部：未切り痕	
52㉛	304	5住	34	土器部 盤	盤	-	-	5.8	赤褐色	砂粒	良	底部：未切り痕	
52㉜	305	5住	25	土器部 盤	盤	-	-	<5.8>	褐色	密	良	底部：未切り痕	
52㉝	306	5住	88	土器部 盤	盤	-	-	5.5	赤褐色	赤色粒子・砂粒	良	底部：未切り痕	
52㉞	307	5住	63・64・72・92	土器部 盤	高台基 合付盤	<14.6>	-	-	赤褐色	赤色粒子	良		
52㉟	308	5住	カマド18・27	土器部 盤	盤	-	-	-	明褐色	赤色粒子	良	ハケメ	
52㉟	309	5住	78・カマド42・56	土器部 盤	盤	<26.4>	-	-	明褐色	やや粗・白色粒子	良		
52㉟	310	5住	28・29・カマド37・50	土器部 盤	盤	<30.2>	-	-	褐色	やや粗・全雲母・砂粒	良		
52㉟	311	5住	カマド38・39	土器部 盤	盤	-	-	-	明褐色	やや粗・全雲母・石英	良		
52㉟	312	6住	36・47・48・49	土器部 盤	盤	<25.6>	-	-	褐色	やや粗・石英・黒褐色多鉱含	良	内外面：ハケメ	
52㉟	313	5住	26・32	土器部 盤	盤	<26.6>	-	-	褐色	やや粗・全雲母多鉱含	良	ハケメ真共によるナデ不明瞭	
52㉟	314	5住	53	土器部 盤	盤	10.0	-	-	明褐色	赤色粒子	良		
52㉟	315	5住	73・B12G	土器部 盤	盤	<13.4>	-	-	明褐色	やや粗・石英	良	外面：ヘラ削り・内面：ナデ	
52㉟	316	5住	84	土器部 盤	盤	-	-	<6.6>	明褐色	やや粗・赤色粒子	良		
52㉟	317	5住	16	土器部 盤	盤	-	-	-	明褐色	やや粗・雲母・白色粒子	良	内外面：ハケメ	
52㉟	318	5住	30	土器部 盤	盤	-	-	-	明褐色	やや粗・雲母	良	ハケメ	
52㉟	319	5住	60	灰陶器部 盤	盤	<13.0>	-	-	灰白色	繊密	良		
52㉟	320	5住	38	灰陶器部 盤	盤	<13.8>	-	-	灰白色	繊密	良		
52㉟	321	6住	43	土器部 盤	盤	<14.1>	2.9	<6.0>	赤褐色	白色・赤色粒子・砂粒	良	底部：未切り痕	
52㉟	322	6住	62	土器部 盤	盤	<10.7>	-	-	赤褐色	赤色・白色粒子・砂粒	良		
52㉟	323	6住	44	土器部 盤	盤	<13.6>	-	-	褐色	赤色・白色粒子・砂粒	良		
52㉟	324	6住	60	土器部 盤	盤	<10.2>	2.6	<4.7>	赤褐色	白色・赤色粒子	良	底部：未切り痕	
52㉟	325	6住	56	土器部 盤	盤	-	-	<6.2>	茶褐色	白色粒子・砂粒	良	底部：未切り痕	
52㉟	326	6住	58	土器部 盤	盤	-	-	7.2	明褐色	赤色・白色粒子・全雲母	良	底部：未切り後調整	外張：抜け痕
52㉟	327	6住	55	土器部 盤	盤	-	-	<5.7>	明褐色	赤色・白色粒子・石英	良		
52㉟	328	6住	29	土器部 盤	盤	-	-	<5.9>	褐色	赤色・白色粒子・全雲母	良	底部：未切り痕	
52㉟	329	6住	3・5	土器部 盤	盤	-	-	6.1	褐色	赤色・白色粒子・全雲母	良	底部：未切り痕	
52㉟	330	6住	10・25	土器部 盤	盤	-	-	<7.8>	明褐色	赤色粒子	良	底部：未切り痕	

測定番号	造形番号	出土地点	注記番号	種別	器形	造形			色調	胎土	焼成	調査	備考	
						口径	底高	底径						
5404	331	6住	16	土器器	高坪脚部	<9.5>	—	—	暗褐色	白色粒子・雲母	良			
5405	332	6住	38・53	土器器	深茎	<27.2>	—	—	暗褐色	石英・雲母	良			
5406	333	6住	7・C14	土器器	小茎	<10.5>	—	—	茶褐色	赤色・白色粒子・砂粒・金	良			
									雲母					
5407	334	6住	22	土器器	深カマド	—	—	<30.0>	暗褐色	石英・雲母	良	内外面:ハケメ		
5408	335	6住	45	灰陶器	底	<13.0>	—	—	灰色	鐵密	良			
5409	336	6住	63	灰陶器	高台村 环	—	—	<8.4>	灰色	鐵密:白色粒子	良			
5410	337	6住	6	灰陶器	高台村 环	—	—	<7.6>	暗褐色	鐵密	良		虎渓山1号	
5411	338	6住	8	灰陶器	高台村 环	—	—	<7.6>	暗褐色	鐵密:白色粒子	良	底部:あけり底	虎渓山1号	
5412	339	6住	13	土器器	浅鉢	<14.0>	<2.1>	<7.8>	灰白色	鐵密	良			
5413	340	6住	57	土器器	浅鉢	<14.0>	—	—	灰白色	鐵密	良			
5414	341	7住	6・14	土器器	环	<11.0>	<3.4>	<6.0>	暗褐色	砂粒	良	底部あけり底		
5415	342	7住	94・104・105・112・117	土器器	环	<19.5>	<2.8>	<6.0>	暗褐色	砂粒	良	底付蓋		
5416	343	7住	27	土器器	环	<17.6>	—	—	暗褐色	砂粒	良			
5417	344	7住	10	土器器	四	<16.0>	—	—	暗褐色	砂粒	良			
5418	345	7住	—	土器器	环	<13.6>	—	—	暗褐色	赤色粒子・砂粒	良			
5419	346	7住	76	土器器	环	<12.4>	—	—	暗褐色	赤色粒子・砂粒	良			
5420	347	7住	86	土器器	环	—	<5.6>	—	暗褐色	金雲母・砂粒	良	底部あけり底		
5421	348	7住	72	土器器	四	—	<4.5>	—	暗褐色	赤色粒子・砂粒	良	底部あけり底		
5422	349	7住	52	土器器	环	—	<5.8>	—	暗褐色	金雲母・砂粒	良	底部あけり底		
5423	350	7住	58	土器器	环	—	<5.8>	—	暗褐色	砂粒	良	底部あけり底		
5424	351	7住	111	土器器	环	—	<4.4>	—	暗褐色	赤色粒子・砂粒	良	底部あけり底		
5425	352	7住	90・103	土器器	环	—	<5.6>	—	暗褐色	赤色粒子・砂粒・金雲母	良	底部あけり底		
5500	353	7住	119	土器器	鉢	<30.0>	—	—	明褐色	金雲母	良	内外面:ハケメ		
5501	354	7住	7	土器器	鉢	<29.2>	—	—	暗褐色	砂粒・金雲母	良	内外面:ハケメ		
5502	355	7住	80	土器器	鉢	<30.4>	—	—	暗褐色	金雲母・小石	良	内外面:ハケメ		
5503	356	7住	5	土器器	鉢	<24.8>	—	—	暗褐色	砂粒・小石	良			
5504	357	7住	48・49・85・95	土器器	鉢	<31.0>	—	—	暗褐色	白色粒子・金雲母	良			
5505	358	7住	92	土器器	鉢	<27.0>	—	—	暗褐色	金雲母・小石	良			
5506	359	7住	55・63	土器器	鉢	<32.2>	—	—	暗褐色	白色粒子・砂粒	良			
5507	360	7住	4	土器器	鉢	<26.2>	—	—	暗褐色	金雲母・小石	良			
5508	361	7住	97	土器器	高坪	—	<10.0>	—	暗褐色	赤色粒子・砂粒	良			
5509	362	7住	122	土器器	高坪	—	<9.0>	—	暗褐色	赤色粒子・砂粒	良			
5510	363	7住	41	土器器	墓	—	<8.0>	—	暗褐色	赤色粒子	良			
5511	364	7住	41	土器器	高坪	—	<8.0>	—	暗褐色	赤色粒子	良			
5512	365	7住	81	灰陶器	环	<10.6>	<2.5>	<5.7>	白灰色	密	良	底部あけり底	丸石2号	
5513	366	7住	51	灰陶器	环	<14.6>	—	—	白灰色	密	良			
5514	367	7住	67	灰陶器	环	—	—	—	灰色	密	良			
5515	368	7住	16・4住	灰陶器	环	—	—	—	灰色	密	良		虎渓山1号	
5516	369	7住	121・8住53	灰陶器	鉢	—	—	—	灰色	密	良			
5517	370	8住	162・163・164・168	土器器	环	<13.7>	<3.5>	<6.0>	暗褐色	白色粒子・砂粒・小石	良	底部あけり底		
5518	371	8住	71	土器器	环	<10.4>	<2.9>	<5.5>	赤褐色	赤色粒子	良	底部あけり底・無付蓋・締付き うきり		
5519	372	8住	38	土器器	环	<17.6>	—	—	暗褐色	密	良			
5520	373	8住	161	土器器	环	—	—	—	暗褐色	白色粒子	良	側付蓋		
5521	374	8住	93	土器器	环	<11.0>	—	<5.0>	暗褐色	赤色白色粒子・砂粒	良	底部あけり底		
5522	375	8住	16	土器器	环	<11.0>	<2.2>	—	暗褐色	密	良			
5523	376	8住	173	土器器	环	<10.8>	<2.2>	<4.8>	明褐色	白色粒子・砂粒	良			
5524	377	8住	127	土器器	环	<13.8>	—	—	暗褐色	赤色粒子・砂粒	良			
5525	378	8住	1	土器器	环	<11.0>	—	—	暗褐色	密	良			
5526	379	8住	4	土器器	环	<12.8>	—	—	暗褐色	砂粒	良			
5527	380	8住	7	土器器	周	<9.0>	—	—	暗褐色	赤色白色粒子	良			
5528	381	8住	132	土器器	环	<15.6>	—	—	暗褐色	密	良			
5529	382	8住	—	土器器	环	<13.6>	—	—	暗褐色	金雲母	良			
5530	383	8住	20	土器器	高坪 台村	—	—	<5.6>	暗褐色	赤色粒子・砂粒・小石	良			
5531	384	8住	82	土器器	高坪台村	—	—	—	暗褐色	赤色粒子・小石	良			
5532	385	8住	86・92・97・98・99・ 100・110・121・128	土器器	周	<32.6>	—	—	暗褐色	白色黑色粒子・金雲母	良	内面:ナメ不規則・剥離痕		
5533	386	8住	137	—	—	<24.0>	—	—	暗褐色	白色粒子・金雲母	良			
5534	387	8住	167	土器器	鉢	<25.0>	—	—	暗褐色	白色粒子・金雲母	良			
5535	388	8住	100・103・138・142・146・ 151・8住F2-3-9-10 +11・14・15・17・18・19	土器器	鉢	<33.0>	—	—	暗褐色	砂粒	良			

番号	植物 番号	出土地点	注記番号	種別	基形	法面			色調	植土	供 用	調査	備考
						口径	器高	底径					
5802	389	8往	8往カラド5・7・8・12・14・16・20・21・144	土器類	盤	<25.0	—	—	暗褐色	金雲母	良	内面：ハケメ不明	
5802	390	8往	52			<27.2	—	—	暗褐色	金雲母	良	内外面：ハケメ	
5802	391	8往	141	灰陶輪轍	环	<15.0	<6.1	<7.1	灰褐色	密	良	焼付器	丸石2号
5802	392	8往	13	灰陶輪轍	盘	<13.2	<2.4	<7.8	灰褐色	密	良	焼付器	虎造山1号
5802	393	8往	73	土器類	盤	<10.0	—	—	灰白色	密	良	焼付器	
5802	394	8往	45	灰陶輪轍	环	<15.4	—	—	灰色	密	良	焼付器	
5802	395	8往	9・141	土器類	环	<16.4	—	—	灰褐色	密	良	焼付器	
5802	396	8往	145	土器類	环	<15.8	—	—	灰褐色	密	良	焼付器	
5802	397	8往	45	土器類	盤	—	—	<7.4	灰褐色	密	良	焼付器	
5802	398	8往	43	土器類	盤	—	—	—	灰色	密	良	灰物	
5802	399	8往	60	土器類	盤	—	—	—	灰褐色	密	良	燒付器・輪轍	
5782	400	9往	22	土器類	环	<8.5	<1.5	<4.8	明褐色	砂粒	良	底部水切り痕	
5782	401	9往	32	土器類	环	<9.7	<2.3	<5.2	明褐色	砂粒	良	底部水切り痕	
5782	402	9往	6・15・17・18	土器類	环	<14.4	<4.5	<6.2	明褐色	砂粒・小石	良	底部水切り痕	
5782	403	9往	52	土器類	环	<12.0	—	—	明褐色	赤色粒子・砂粒	良		
5782	404	9往	11			—	—	<4.4	明褐色	砂粒	良	底部水切り痕	
5782	405	9往	20	土器類	环	—	—	<5.8	明褐色	赤色粒子	良		
5782	406	9往	23	土器類	环	—	—	<5.4	明褐色	砂粒	良	焼付器	
5782	407	9往	25	土器類	环	—	—	<5.8	明褐色	赤色粒子・小石	良		
5782	408	9往	9	土器類	盤	—	—	<7.8	褐色	金雲母・小石	良		
5782	409	9往	38・43	土器類	脚高高 台付环	—	—	—	明褐色	赤色粒子	良		
5782	410	9往	34	土器類	盤	<32.0	—	—	明褐色	白色粒子・小石	良		
5782	411	9往	12	土器類	盤	<28.0	—	—	褐色	金雲母・砂粒	良		
5782	412	9往	49	土器類	盤	<22.0	—	—	明褐色	金雲母・小石	良		
5782	413	9往	59	土器類	羽茎	<22.0	—	—	明褐色	砂粒	良	内面：ハケメ	
5782	414	9往	10	土器類	羽茎	<23.0	—	—	明褐色	砂粒・小石	良		
5782	415	9往	13・33・35・36・37・40・41・44	土器類	盤	<32.0	<10.5	—	褐色	やや粗	良	木炭痕	
5782	416	9往	42	灰陶輪轍	环	<14.4	—	—	灰白色	密	良		
5782	417	9往	46	灰陶輪轍	环	—	—	<7.8	灰白色	密	良	虎造山1号	
5802	418	10往	4	土器類	环	<10.2	<2.0	<5.0	明褐色	赤色粒子・砂粒	良	底部：条切り痕	導付器
5802	419	10往	54	土器類	環	<11.8	—	—	明褐色	赤色粒子・砂粒	良		
5802	420	10往	24	土器類	环	<13.0	—	—	明褐色	赤色粒子・砂粒	良		
5802	421	10往	16	土器類	盤	—	—	<4.0	明褐色	砂粒	良	外側：ハケメ	
5802	422	10往	6	土器類	盤	<20.0	—	—	褐色	金雲母・小石	良	内側面：ハケメ	
5802	423	10往	38	土器類	盤	<25.0	—	—	褐色	金雲母・石英	良		
5802	424	10往	42	土器類	盤	<22.0	—	—	褐色	金雲母・石英・砂粒	良		
5802	425	10往	20	土器類	盤	<24.0	—	—	褐色	金雲母・小石	良	内外面：ハケメ	
5802	426	10往	21	土器類	羽茎	<22.0	—	—	褐色	金雲母	良		
5802	427	10往	23	土器類	羽茎	<22.0	—	—	褐色	白色粒子	良		
5802	428	10往	2	土器類	羽茎	<22.0	—	—	褐色	金雲母・小石	良		
5802	429	10往	26	灰陶輪轍	环	<16.2	—	—	灰白色	密	良		
5802	430	10往	10	灰陶輪轍	环	<14.4	—	—	灰白色	密	良		
5802	431	10往	31	灰陶輪轍	环	<17.2	—	—	灰白色	密	良		
5802	432	11往	85・86	土器類	盤	<10.0	<2.0	<4.0	明褐色	赤色粒子	良	底部：尖切り痕	
5802	433	11往	14	土器類	環	<11.2	<2.0	<5.2	明褐色	赤色・白色粒子	良	底部：尖切り痕	
5802	434	11往	12	土器類	環	<15.0	<4.1	<6.4	赤褐色	赤色粒子・雲母	良	底部：尖切り痕	
5802	435	11往	132	土器類	盤	<15.0	—	—	暗褐色	赤色粒子	良		
5802	436	11往	16	土器類	環	<12.4	—	—	暗褐色	赤褐色	良	導付器	
5802	437	11往	102	土器類	環	—	<4.8	—	赤褐色	赤色粒子・金雲母	良	底部：尖切り痕	
5802	438	11往	79	土器類	環	—	<4.4	—	赤褐色	赤色粒子	良	底部：尖切り痕	
5802	439	11往	123	土器類	環	—	<7.2	—	赤褐色	赤色粒子	良	底部：尖切り痕	
5802	440	11往	7	土器類	脚高高 台付环	—	—	—	赤褐色	赤色粒子・砂粒	良		
5802	441	11往	81	土器類	新高高 台付环 ?	—	—	<13.4	西台器：	赤色粒子	良		
5802	442	11往	11	土器類	脚高高 台付环	—	—	—	赤褐色	やや粗	良		
5802	443	11往	26・99	土器類	盤	—	—	—	暗褐色	砂粒・白色粒子	良		
5802	444	11往	108・122	土器類	盤	<24.0	—	—	暗褐色	やや粗・砂粒	良		
5802	445	11往	108・109・111・119	土器類	盤	<27.4	—	—	褐色	やや粗・金雲母・白色粒子	良		
5802	446	11往	89	土器類	小型盤	<10.8	—	—	暗褐色	やや粗・石英・砂粒	良	地面：黒く質色	
5802	447	11往	57・58・67	土器類	盤	—	—	—	褐色	粗い：石英	良		
5802	448	11往	131	土器類	盤	—	—	<2.2	褐色	やや粗・金雲母	良	内外面：ハケメ・底部：木炭痕	
5802	449	11往	93	土器類	盤	<21.0	—	—	褐色・内 底暗褐色	金雲母・白色粒子	良	内外面：ハケメ	

標 番 号	遺 跡 番 号	出土地點	注記番号	種 別	器 形	造 型			色 調	胎 土	性 能	調 整	備 考
						口沿	腹	底					
501	450	11住	31・44・46	土師器	鉢	<36.4>	—	—	暗褐色	粗い：金雲母・白色粒子	良		
502	451	11住	44・45・63・65	土師器	鉢	—	—	—	褐色	やや粗：全雲母・白色粒子	良		
503	452	11住	103	土師器	羽釜	<24.4>	—	—	暗褐色	やや粗：全雲母・砂粒	良	外面：ハケメ・内面：ナデ	
504	453	11住	53・112・129・130	土師器	羽釜	<24.4>	—	—	褐色	やや粗：石英・砂粒	良	外面：ハケメ	
505	454	11住	104・112・113	土師器	羽釜	<28.6>	—	—	褐色	やや粗：鐵・石英	良	外面：ナデ・内面：ナデ	
506	455	11住	107・108	土師器	羽釜	<22.0>	—	—	暗褐色	やや粗：白色粒子・砂粒	良	外面：ハケメ	
507	456	11住	110	土師器	羽釜	—	—	—	—	—	良		
508	457	11住	60	灰陶器	碗	<13.2>	—	—	白灰色	織密	良		
509	458	11住	128	灰陶器	碗	—	—	<7.4>	黄灰色	織密	良		丸石2号
510	459	11住	124	土師器	鉢	<14.4>	—	—	黄褐色	織密	良		
511	460	11住	52	灰陶器	釜	<20.2>	—	—	黄褐色	織密	良		
512	461	11住	56	灰陶器	碗	—	—	<17.0>	黄灰色	織密	良		丸石2号
513	462	11住	38	土師器	甕	—	—	—	灰色	織密	良	外面：タクキ	
514	463	12住	36・73	土師器	甕	11.8	2.9	5.7	褐色・赤	赤色粒子	良	底部：朱切り痕	
515	464	12住	1	灰陶器	皿	11.0	—	5.0	黄褐色	織密	良	底面：朱切り痕	丸石2号
516	465	12住	38・39	土師器	甕	<12.8>	3.3	6.4	赤褐色	赤色粒子	良	底部：朱切り痕	
517	466	12住	35	土師器	甕	11.0	2.8	5.6	赤褐色	白色粒子	良	底面：朱切り痕	
518	467	12住	26・E12G	土師器	甕	<16.2>	3.5	<5.6>	暗褐色	赤色粒子	良	内面：地文	
519	468	12住	77	土師器	甕	<12.8>	4.1	<5.4>	黄褐色	赤色粒子	良	底部：朱切り痕	
520	469	12住	30	土師器	甕	<10.2>	—	—	赤褐色	赤色粒子	良		
521	470	12住	34	土師器	甕	<14.2>	—	—	暗褐色	赤色粒子	良		
522	471	12住	41	土師器	甕	<10.4>	—	—	明褐色	白色粒子	良		
523	472	12住	44	土師器	甕	<14.0>	—	—	赤褐色	砂粒・赤色粒子	良		
524	473	12住	71	土師器	皿	<16.0>	—	—	明褐色	赤色粒子	良		
525	474	12住	32	土師器	脚高足 台付甕	11.2	4.9	6.7	黄褐色	やや粗：赤色粒子・露骨	良		
526	475	12住	72	土師器	脚高足 台付甕	10.4	—	—	明褐色	白色粒子・赤色粒子やや含	良		
527	476	12住	61	土師器	脚高足 台付甕	—	—	7.2	非褐色	赤色粒子	良		
528	477	12住	23	土師器	脚高足 台付甕	—	—	5.2	明褐色	赤色粒子・砂粒	良	底部：朱切り痕	
529	478	12住	69	土師器	脚高足 台付甕	—	—	—	明褐色	赤色粒子・砂粒	良		
530	479	12住	62・カマド2-4	土師器	甕	<28.8>	—	—	暗褐色	金雲母	良		
531	480	12住	89	土師器	豆	—	—	8.8	非褐色	やや粗：全雲母・白色粒子	良	外面：ハケメ装接法下前川・内面： ハケメ・伝統法・底部：木葉痕	
532	481	12住	89	土師器	甕	—	—	—	赤褐色	赤色粒子	良		
533	482	12住	74	土師器	小型盤	<12.8>	—	—	非褐色	赤色粒子	良	外面：摩擦のため調整痕不明確	
534	483	12住	5	土師器	甕	14.0	—	—	赤褐色	やや粗：白色粒子	良	内面：ハケメ	
535	484	12住	33・カマド2-7	土師器	羽釜	27.4	—	—	褐色	やや粗：石英・砂粒	良	内外面：ハケメ	
536	485	12住	59	土師器	羽釜	<28.4>	—	—	褐色	やや粗：砂粒・雲母含	良	内外面：ハケメ	
537	486	12住	56・57	土師器	羽釜	—	—	—	暗褐色	赤色粒子	良		
538	487	12住	31・H11-11	灰陶器	碗	<14.8>	6.2	<7.8>	黄褐色	織密	良		丸石2号
539	488	12住	6・48・2溝8・28	灰陶器	碗	15.9	6.5	9.2	黄褐色	織密	良		虎渓山1号
540	489	12住	51	灰陶器	甕	14.0	—	—	灰白色	織密	良		
541	490	12住	カマド86	灰陶器	甕	—	—	—	灰白色	織密	良		
542	491	12住	53・24住-37・2溝121	灰陶器	甕	—	—	—	暗褐色	織密	良	外面：平行凹き目、内面：同心 円状當て具痕	
543	492	17住	10	土師器	甕	10.8	3.3	6.0	非褐色	赤色粒子	良	底部：朱切り痕	
544	493	17住	8	土師器	甕	<12.0>	3.2	<6.0>	明褐色	赤色粒子	良		
545	494	17住	12	土師器	甕	<33.0>	—	—	黒褐色	やや粗：石英・全雲母	良		
546	495	17住	6	土師器	甕	—	—	—	褐色	やや粗：金雲母	良		
547	496	17住	15	土師器	甕	—	—	<11.8>	暗褐色	やや粗：石英・全雲母	良		
548	497	19住	2	土師器	甕	<16.0>	—	—	明褐色	赤色粒子	良		
549	498	19住	—	土師器	甕	<14.2>	—	—	明褐色	赤色粒子・砂粒	良		
550	499	19住	20住2	灰陶器	甕	<13.8>	—	—	灰褐色	密	良		
551	500	19住	1	灰陶器	甕	—	—	<6.0>	灰白色	密	良		
552	501	20住	4	土師器	甕	—	—	<4.2>	明褐色	赤色粒子・砂粒	良	底部朱切り痕	
553	502	21住	20	土師器	打目甕	<11.8>	3.0	<6.2>	非褐色	赤色粒子	良	底部：朱切り痕	内面：撲付箋
554	503	21住	7	土師器	甕	—	—	5.0	赤褐色	赤色粒子	良	底部：朱切り痕	糞付箋
555	504	21住	3	土師器	甕	<11.8>	3.5	7.0	明褐色	白色粒子	良	底部：朱切り痕	
556	505	21住	2	土師器	甕	11.4	—	—	明褐色	砂粒	良		
557	506	21住	22	土師器	甕	12.0	—	—	明褐色	白色粒子	良		
558	507	21住	13	土師器	甕	—	—	<5.0>	非褐色	赤色粒子	良		
559	508	21住	21	土師器	鉢	<24.4>	—	—	暗褐色	粗：全雲母	良		
560	509	21住	9	土師器	甕	—	—	<10.6>	暗褐色	やや粗：白色粒子	良	外面：ハケメ、底部：朱切り痕	
561	510	21住	10	土師器	圓筒カ マド	—	—	<30.0>	褐色	やや粗：白色粒子・全雲母	良	内外面：ハケメ	

標 番 号	道 番 号	出土地点	注記番号	様 別	器 形	法 量			色 調	物 土	種 成	調 整	備 考
						口径	高さ	底径					
6205	511	22往	17・18	土器器	片	<14.0	—	—	明褐色	赤色白色粒子	良		
6205	512	22往	14	土器器	直	<9.4	—	—	青褐色	深紫	良		
6205	513	22往	26	土器器	直	<14.0	—	—	赤褐色	赤色粒子	良		
6205	514	22往	3	土器器	高台付 直?	—	—	—	明褐色	白色粒子	良		
6205	515	22往	27	土器器	直?	<26.4	—	—	褐色	やや粗: 石灰・全雲母	良		
6205	516	22往	24	土器器	直	—	<7.0	—	暗褐色	やや粗: 石灰・全雲母	良	内面: オコゲ	
6205	517	22往	—	灰釉陶器	片	<15.6	—	—	黄褐色	粉彩	良		
6205	518	22往	20	灰釉陶器	直	—	—	—	暗灰色	粉彩	良		
6205	519	21・21往	—	土器器	直	<11.0	—	—	赤褐色	白色粒子	良		
6205	520	21・21往	—	土器器	直	<11.0	—	—	赤褐色	白色粒子	良		
6205	521	21・21往	—	灰釉陶器	直?	<13.2	—	—	明灰黑色	粉彩	良		
6205	523	23往	3	土器器	片	<13.6	—	—	暗褐色	粉彩	良		
6205	523	23往	42	土器器	片	—	—	4.4	赤褐色	白色粒子	良	底部: 黄斑しない孔	
6205	524	23往	41	土器器	片	—	—	<6.0	赤褐色	白色粒子	良	底部: 無切り痕	
6205	525	23往	22	土器器	片	—	—	<6.8	褐色	白色粒子	良		
6205	526	23往	20	土器器	片	<25.6	—	—	暗褐色	やや粗: 全雲母	良	外面: ハケメ?	
6205	527	23往	40	土器器	羽茎?	<32.0	—	—	褐色	やや粗: 白色粒子・微密	良	内外面: ハケメ	
6205	528	23往	14	土器器	羽茎?	<28.2	—	—	暗褐色	やや粗: 全雲母多微孔	良		
6205	529	23往	39	灰釉陶器	片	—	—	—	灰白色	微密	良		
6205	530	23往	11・21往・11	灰釉陶器	片	—	—	—	褐色	白色粒子	良		
6205	531	23往	4	灰釉陶器	片	—	—	—	灰白色	微密	良		
6205	532	23往	36	土器器	直?	—	—	—	灰白色	小石造り	良		
6205	533	24往	27	土器器	片	<12.0	—	—	赤褐色	白色粒子	良		
6205	534	24往	23	土器器	片	11.6	—	—	明褐色	赤色・黑色粒子	良		
6205	535	24往	28	土器器	片?	7.1	—	—	赤褐色	白色粒子	良		
6205	536	24往	16	土器器	片	—	—	5.2	赤褐色	赤色粒子	良	底部: 無切り痕	
6205	537	24往	2・14	土器器	片	<21.0	—	—	褐色	赤色粒子	良		
6205	538	24往	カマド1・2・4	土器器	直?	<17.2	—	—	赤褐色	赤色粒子	良		
6205	539	24往	57	土器器	高台付 片脚跡	—	—	<9.6	赤褐色	赤色粒子	良		
6205	540	24往	22	土器器	片	<37.0	—	—	褐色	やや粗: 白色粒子	良	始まら有	
6205	541	24往	8	土器器	直?	—	—	—	暗褐色	やや粗: 露母	良		
6205	542	24往	7	土器器	羽茎?	<26.6	—	—	褐色	やや粗: 全雲母・白色粒子	良		
6205	543	24往	36	土器器	羽茎?	—	—	—	褐色	やや粗: 全雲母・白色粒子	良	内面: ハケメ	
6205	544	24往	43・F14-6	灰釉陶器	片	<16.0	—	—	灰白色	微密	良		
6205	545	24往	24往・2溝	灰釉陶器	直?	—	—	—	白灰色	微密	良		
6205	546	24往	35・7往9・2溝	灰釉陶器	直?	—	—	—	青灰色	微密	良		
6205	547	24往	20	陶器器	直?	—	—	—	青灰色	微密	良	外面: タキメ	
6205	548	25往	39	土器器	片	<11.8	—	—	非褐色	白色粒子	良		
6205	549	25往	31	土器器	直?	<11.8	—	—	暗褐色	白色粒子	良		
6205	550	25往	16	土器器	片	<12.8	—	—	明褐色	赤色粒子	良		
6205	551	25往	7	土器器	片	—	—	<6.2	暗褐色	赤色粒子やや金	良	底部: 無切り痕	
6205	552	25往	一括	土器器	直?	—	—	—	赤褐色	全雲母	良	内外面: ハケメ	
6205	553	25往	10	土器器	直?	—	—	—	暗褐色	全雲母	良	内外面: ハケメ	
6205	554	25往	15	土器器	直?	—	—	—	褐色	全雲母・白色粒子	良	内外面: ハケメ	
6205	555	25往	6	土器器	直?	<28.6	—	—	暗褐色	全雲母	良		
6205	556	25往	17	土器器	直?	<23.8	—	—	暗褐色	やや粗	良		
6205	557	25往	34	土器器	片	20.6	—	—	暗褐色	やや粗: 全雲母	良	内外面: ハケメ	
6205	558	25往	26・27	土器器	直?	<15.0	—	—	赤褐色	やや粗: 白色粒子	良		
6205	559	25往	20・26	土器器	直?	—	—	9.6	暗褐色	やや粗: 石英・砂粒	良	底部: 大隙度	
6205	560	25往	2・3・24往・25・26・27	灰釉陶器	直?	14.2	6.5	7.0	黄灰色	微密	良	底部: 無切り痕	丸石2号
6205	561	25往	一括	灰釉陶器	直?	13.4	—	—	青灰色	微密	良		
6205	562	25往	38・2溝41	灰釉陶器	片	—	—	8.0	黄灰色	微密	良	虎渓山1号	
6205	563	25往	1	灰釉陶器	直?	—	—	<12.6	白灰色	微密	良	大野2号	
6205	564	25往	12・6往24・2溝155	土器器	直?	—	—	—	青灰色	密	良	平行タキメ	
6205	565	28往	6	土器器	片	<12.4	—	—	赤褐色	赤色粒子やや金	良		
6205	566	28往	11	土器器	片	<13.6	—	—	赤褐色	赤色粒子やや金	良		
6205	567	28往	9・40	土器器	片	<13.8	—	—	明褐色	密	良		
6205	568	28往	9・46	土器器	片	<13.8	—	—	明褐色	密	良		
6205	569	28往	13	土器器	直?	—	—	—	暗褐色	やや粗	良		
6205	570	28往	一括	土器器	直?	—	—	—	暗褐色	やや粗	良	内外面: ハケメ	
6205	571	28往	4	土器器	直?	—	—	<7.0	暗褐色	やや粗: 全雲母	良	内外面: ハケメ・内面: 刻跡	
6205	572	28往	25	土器器	片	<34.8	—	—	暗褐色	やや粗: 全雲母	良		
6205	573	28往	5	土器器	羽茎?	28.0	—	—	褐色	やや粗: 石英	良		
6205	574	28往	41	土器器	羽茎?	<24.8	—	—	暗褐色	やや粗	良		
6205	575	28往	21・24	土器器	片	—	—	—	暗褐色	やや粗	良	内外面: ハケメ	
6205	576	28往	10・カマド1・2	土器器	片	<14.4	—	—	赤褐色	赤色粒子	良	底部: 無切り痕	

測定 番号	遺物 番号	出土地点	注記番号	種別	器形	法 量			色 調	胎 土	構 成	調 整	備 考
						口径	底高	底径					
65回	577	29住	29・31	土器器	坪	11.4	3.2	6.0	赤褐色	赤色粒子・砂粒	良	底部：赤切り底、全体：ヘラによる調整底	
65回	578	29住	カマ F-5	土器器	坪	<14.4>	—	—	赤褐色	赤色粒子	良		
65回	579	29住	35	土器器	坪	<11.0>	3.0	<5.0>	赤褐色	やや粗：赤色粒子	良		
65回	580	29住	15	土器器	坪	<13.8>	—	—	赤褐色	赤色粒子	良		
65回	581	29住	12	土器器	坪	—	—	<7.0>	暗褐色	密	良	底部：赤切り底	
65回	582	29住	14	土器器	坪	—	—	<6.4>	褐色	密	良	底部：赤切り底	
65回	583	29住	33	土器器	脚高底 台付坪	—	—	<5.4>	明褐色	赤色粒子	良		
65回	584	29住	34	土器器	脚高底 台付坪 ：脚板	—	—	<9.4>	赤褐色	密	良		
65回	585	29住	39	灰陶陶器	坪	—	—	<8.0>	白灰色	緻密	良	虎渓山1号	
65回	586	29住	5	土器器	羽茎	<34.0>	—	—	暗褐色	やや粗	良		
65回	587	30住	1・カマ F-3・4	土器器	坪：灯	<11.8>	3.9	5.6	暗褐色	赤色粒子	良	底部：赤切り底 ：脚板	
65回	588	30住	31	土器器	坪	12.2	3.6	6.2	赤褐色	密	良	底部：赤切り底	
65回	589	30住	10・25	土器器	坪	<10.8>	3.6	5.1	明褐色	密	良	底部：赤切り底	
65回	590	30住	2	土器器	坪	—	—	6.4	明褐色	密	良	底部：赤切り底	
65回	591	30住	4	土器器	坪	—	—	5.4	褐色	赤色粒子	良	底部：赤切り底	
65回	592	30住	28	土器器	脚高底 台付坪	<13.4>	—	—	暗褐色	密	良	底部：赤切り底	
65回	593	30住	27	土器器	坪	<11.8>	—	—	暗褐色	密	良		
65回	594	30住	カマ F-5・7	土器器	跡	—	—	—	暗褐色	やや粗：石英・金雲母	良	外側：ハケメ	
65回	595	30住	18	灰陶陶器	壺	—	—	—	白灰色	緻密	良		
65回	596	30住	カマ F-5・31往81・25	灰陶陶器	壺	—	—	<13.6>	黄褐色	緻密	良	大原2号	
65回	597	30住	カマ F-1	灰陶陶器	壺	—	—	<13.6>	白灰色	緻密	良		
65回	598	31住	13	土器器	坪	<11.2>	<4.4>	4.8	暗褐色	赤色粒子・砂粒	良	底部：赤切り底 ：口縁部互み	
65回	599	31住	63	土器器	坪	<10.2>	<3.4>	<5.0>	暗褐色	赤色粒子・砂粒・小石	良	底部：赤切り底	
65回	600	31住	1・2	土器器	坪	<12.8>	—	<6.4>	明褐色	白色粒子・小石	良		
65回	601	31住	21・22	土器器	坪	<10.2>	<2.2>	<5.0>	明褐色	赤色粒子・砂粒	良	底部：赤切り底、外側：ハケメ	
65回	602	31住	44	土器器	坪	—	—	4.4	明褐色	赤色粒子・砂粒	良	底部：赤切り底	
65回	603	31住	21	土器器	坪	—	—	5.0	明褐色	赤色粒子	良	底部・外側に 焼付跡	
65回	604	31住	36	土器器	坪	—	—	<5.5>	明褐色	赤色粒子・砂粒	良	底部：赤切り底	
65回	605	31住	34・40	土器器	脚高底 台付坪	—	—	—	明褐色	赤色粒子・小石	良		
65回	606	31住	23・76	土器器	脚高底 台付坪	—	—	—	暗褐色	砂粒	良		
65回	607	31住	73	土器器	脚高底 台付坪	—	—	—	明褐色	砂粒・小石	良		
65回	608	31住	16	土器器	脚高底 台付坪	—	—	<10.8>	明褐色	赤色粒子・砂粒	良		
65回	609	31住	35	土器器	脚高底 台付坪	—	—	<6.0>	明褐色	白色粒子	良		
65回	610	31住	34	土器器	壺	<31.8>	—	—	褐色	全雲母・白色粒子	良		
65回	611	31住	31	土器器	羽茎	<25.4>	—	—	褐色	砂粒・小石	良		
65回	612	31住	43	土器器	羽茎	<20.4>	—	—	褐色	砂粒・小石	良	内側：ハケメ	
65回	613	31住	68	土器器	羽茎	—	—	—	褐色	砂粒・小石	良	内側：ハケメ	
65回	614	31住	78	土器器	壺	—	—	<6.8>	褐色	白色粒子・小石	良	底部：木炭痕	
65回	615	31住	29・72	土器器	壺	—	—	<6.4>	褐色	白色粒子・小石	良	底部：赤切り底、外側：ハケメ 不明瞭	
65回	616	31住	75	土器器	壺	—	—	<9.6>	褐色	白色粒子・小石	良	底部：木炭痕	
65回	617	31住	39	土器器	壺	—	—	—	暗褐色	白色粒子・砂粒	良	内側：ハケメ	
65回	618	31住	7・8	土器器	壺	—	—	—	暗褐色	白色粒子・砂粒	良	内側：ハケメ	
65回	619	31住	29	土器器	坪	—	—	—	明褐色	白色粒子・砂粒	良	内側：ハケメ	
65回	620	31住	36	土器器	坪	—	—	—	暗褐色	白色粒子・砂粒	良	内側：ハケメ	
65回	621	31住	32	灰陶陶器	坪	<11.4>	<3.9>	<6.8>	灰色	密	良		
65回	622	31住	46・71	灰陶陶器	壺	—	—	—	灰色	密	良		
65回	623	31住	26	灰陶陶器	壺	—	—	—	灰色	密	良		
65回	624	31住	62	灰陶陶器	壺	—	—	—	灰色	密	良		
65回	625	33住	35	土器器	坪：灯	10.8	3.4	5.6	赤褐色	赤色粒子	良	底部：赤切り底 ：煙付器	
65回	626	33住	86・108	土器器	盤	11.8	2.6	4.3	明褐色	密	良	底部：赤切り底	
65回	627	33住	50	土器器	盤	11.0	2.7	4.2	明褐色	密	良	底部：赤切り底	
65回	628	33住	72・77・110	土器器	坪	<11.4>	3.1	4.6	明褐色	密	良	底部：赤切り底	
65回	629	33住	36	土器器	灯明皿	10.5	2.2	5.2	明褐色	密	良	底部：赤切り底 ：煙付器	

標号 番号	出土地点	注記番号	種別	器形	大きさ			色調	胎土	構成	調査	備考
					口径	器高	底径					
6786 630 33住	107		土師器	杯	<13.4	3.4	<4.6	赤褐色	密	良	底部：赤切り痕	
6786 631 33住	27		土師器	杯	<14.6	—	—	赤褐色	密	良		
6786 632 33住	56		土師器	杯？	13.8	—	—	暗褐色	密	良		
6786 633 33住	カマド5		土師器	杯	—	—	4.1	暗褐色	密	良	底部：赤切り痕	
6786 634 33住	8		土師器	杯	—	—	4.0	明褐色	密	良	底部：赤切り痕	
6786 635 33住	15		土師器	高台付 杯：灯 明	—	—	—	赤褐色	白色粒子	良		様式
6786 636 33住	20・73		土師器	陶高台 杯	—	—	<8.0	明褐色	密	良		
6786 637 33住	24		土師器	陶高台 杯	—	—	7.0	明褐色	密	良	器体内部：	
												黑色
6786 638 33住	54・カマド1		土師器	鉢	25.8	—	—	暗褐色	やや粗：全赤母	良		
6786 639 33住	57		土師器	鉢	<34.4	—	—	赤褐色	やや粗：全赤母やや紫	良		
6786 640 33住	19・80・カマド5		土師器	鉢	<37.0	—	—	暗褐色	やや粗：全赤母・石英	良		
6786 641 33住	111・カマド3		土師器	鉢	31.6	—	—	赤褐色	やや粗：全赤母多數含	良		
6786 642 33住	49		土師器	瓶	36.6	—	—	暗褐色	やや粗	良	内外面：ハケメ	
6786 643 33住	51		土師器	羽釜	<21.2	—	—	暗褐色	やや粗：全赤母	良	内外面：ハケメ	
6786 644 33住	30		土師器	羽釜	<25.2	—	—	暗褐色	やや粗：全赤母	良	内外面：ハケメ	
6786 645 33住	34		土師器	羽釜	<29.2	—	—	暗褐色	やや粗：全赤母	良	内外面：ハケメ	
6786 646 33住	83		土師器	瓶	<22.4	—	—	暗褐色	やや粗：石英	良		
6786 647 33住	59		土師器	瓶	—	—	<5.2	暗褐色	やや粗	良	底部：木葉?	
6786 648 33住	40		土師器	鉢	—	—	<8.2	兩色	やや粗：全赤母	良	底部：木葉?	
6786 649 33住	カマド4		灰釉陶器	碗？	<14.6	—	—	黃灰色	疏密	良		
6786 650 33住	105		灰釉陶器	皿	<12.0	—	—	白灰色	緻密	良		
6786 651 33住	58・H16-19		灰釉陶器	碗	—	—	—	黃灰色	緻密	良		
6786 652 33住	7		灰釉陶器	碗	—	—	<5.8	白灰色	緻密	良	底部：赤切り痕	丸石2号
6786 653 34住	27		土師器	杯	<11.4	—	—	灰褐色	赤色粒子	良		
6786 654 34住	63		土師器	高台付 杯？	—	—	—	赤褐色	白色粒子	良		
6786 655 4住	32・33・59		土師器	陶高台 台付罐	10.7	—	—	明褐色	赤色粒子	良		
6786 656 34住	37		土師器	瓶	<24.8	—	—	暗褐色	やや粗：全赤母	良		
6786 657 34住	47		土師器	瓶	<36.0	—	—	兩色	やや粗：石英・全赤母多數含	良		
6786 658 34住	29		土師器	瓶	<33.8	—	—	暗褐色	やや粗：全赤母	良		
6786 659 34住	12・58		土師器	鉢	<31.2	—	—	兩色	やや粗：全赤母	良		
6786 660 34住	61		土師器	鉢	<24.8	—	—	暗褐色	やや粗：全赤母	良		
6786 661 34住	38・41・45・65		土師器	瓶？鉢？	—	—	8.0	暗褐色	やや粗：全赤母	良	底部：木葉痕	体側にまで木葉痕
6786 662 34住	8		土師器	鉢	10.6	—	—	暗褐色	やや粗：全赤母	良	底部：木葉痕	
6786 663 34住	10		土師器	鉢	—	—	<10.8	兩色	やや粗：全赤母	良	底部：木葉痕	
6786 664 34住	13		土師器	瓶	<—	—	10.0	兩色	やや粗：白色粒子・全赤母	良		外側：焼付
6786 665 34住	14・52		灰釉陶器	瓶	<16.0	—	—	黃灰色	疏密	良		
6786 666 34住	6・F18		灰釉陶器	杯	15.4	—	—	白灰色	緻密	良		
6786 667 34住	57		灰釉陶器	杯	<15.8	—	—	白灰色	緻密	良		
6786 668 34住	16・F17-6		灰釉陶器	瓶	—	—	—	白灰色	緻密	良		
6786 669 34住	30		灰釉陶器	瓶	—	—	—	青灰色	緻密	良		
7086 670 37住	10		土師器	灯？	9.3	2.7	5.0	明褐色	赤色・白色粒子	良	底部：赤切り痕	
7086 671 37住	5		土師器	杯	<13.0	3.9	<7.4	明褐色	赤色粒子・砂粒	良		
7086 672 37住	6		土師器	杯	<12.0	—	—	明褐色	赤色粒子・砂粒	良		
7086 673 37住	1		土師器	杯	<12.6	—	—	赤褐色	赤色粒子・小石	良		
7086 674 37住	13		土師器	陶高台 合杯	—	—	—	明褐色	赤色・白色粒子	良		
7086 675 37住	16		土師器	—	—	—	明褐色	—	良			
7086 676 37住	11		土師器	—	—	—	赤褐色	—	良			
7086 677 37住	3・4		土師器	瓶	—	—	<8.0	兩色	赤色・白色粒子	良	底部：木葉痕	
7086 678 37住	9		土師器	瓶	<36.0	—	—	明褐色	全赤母・白色粒子	良		
7086 679 37住	8		土師器	瓶	<26.6	—	—	暗褐色	砂粒・小石	良	内側：ハケメ、外側：ハケメ不 明瞭	
7086 680 37住	17・18		土師器	羽釜	<24.6	—	—	褐色	白色・黑色粒子・全赤母	良		
7086 681 1號	1		土師器	杯	—	—	<5.6	褐色	やや粗：赤色粒子・砂粒	良	底盤：刷毛状工具により底削?	
7086 682 1號	4		土師器	杯？	—	—	<4.6	赤褐色	赤色粒子・砂粒	良	底部：赤切り痕	
7086 683 1號	2・12・19		土師器	脚高台 合杯	—	—	—	赤褐色	底盤：赤色粒子・砂粒	良		
7086 684 1號	15		土師器	鉢	—	—	<7.0	明褐色	やや粗：石英・長石	良	外側：ハケメ?	
7086 685 1號	5		土師器	瓶？	—	—	<7.2	暗褐色	やや粗：白色粒子	良		
7086 686 1號	—		土師器	高台付 瓶（底 部？）	<11.6	<2.4	<6.2	明灰色	緻密	良	底部：赤切り痕	
7086 687 1號			灰釉陶器	青	—	—	<8.8	胡灰色	緻密	良		

地番 番号	西格 番号	出土地点	注記番号	種別	器形	法 盤		色 調	胎 土	燒 成	病 變	備 考
						口径	器底					
7088	588	1土	5	土器	环	<11.2	—	褐色	砂粒	良		内面：焼付有
7088	599	1土	6	土器	环	—	—	5.8-	明褐色	赤色粒子・砂粒	良	
7088	600	1土	9	土器	环	—	—	5.6-	褐色	砂粒	良	底部：赤切り痕
7088	601	1土	4	土器	环坏	—	—	—	明褐色	赤色粒子・砂粒・小石	良	底擦：赤切り痕
7088	602	1土	1	土器	陶高 台付坏	—	—	5.8-	赤褐色	赤色粒子・砂粒	良	
7088	603	1土	3	土器	坏	—	—	5.2-	褐色	全赤母・小石	良	底擦：木炭痕
7088	604	1土	10	土器	圈	<25.0	—	—	赤褐色	全赤母・砂粒・小石	良	
7088	605	2清	53・138	土器	环	<12.4	<3.5-	5.6-	明褐色	赤：赤色粒子・砂粒	良	底部：赤切り痕
7088	606	2清	56・529	土器	环	<10.2	<2.1	5.2-	褐色	赤：赤色粒子	良	底擦：赤切り痕
7088	607	2清	67	土器	环	<10.4	<3.0	5.2-	明褐色	赤：赤色全色粒子	良	底部：赤切り痕
7088	608	2清	68・124	土器	环	<13.2	<4.0	5.4-	赤褐色	赤：赤色粒子・小石	良	底擦：赤切り痕
7088	609	2清	122・123・517	土器	环	<11.2	<3.8	5.2-	褐色	赤：赤白色粒子	良	
7088	700	2清	225	土器	环	<12.0	<2.9	5.0-	褐色	赤：赤色粒子・砂粒	良	底擦：赤切り痕
7088	701	2清	515・520	土器	环	<15.0	<4.5	5.4-	明褐色	赤：赤色粒子	良	
7108	702	2清	140	土器	环	<14.4	—	—	赤褐色	赤：赤色白色粒子	良	
7108	703	2清	174	土器	环	<13.6	—	—	赤褐色	白角粒子・砂粒	良	
7108	704	2清	196	土器	环	<15.0	—	—	明褐色	赤：赤色粒子	良	
7108	705	2清	207	土器	曲?	<12.6	—	—	褐色	砂粒	良	
7108	706	2清	504	土器	环	<11.5	—	—	明褐色	赤：赤色粒子・砂粒	良	
7108	707	2清	509	土器	环	<10.8	—	—	明褐色	砂粒	良	
7108	708	2清	529	土器	环	<13.6	—	—	明褐色	赤：赤色粒子・砂粒	良	
7108	709	2清	178	土器	环	—	—	—	明褐色	赤：赤色粒子	良	
7108	710	2清	9	土器	环	—	—	5.0-	褐色	赤：赤色粒子	良	
7108	711	2清	11	土器	环	—	—	5.0-	明褐色	赤：赤色黑色粒子	良	
7108	712	2清	17	土器	环	—	—	4.8-	暗褐色	白：白色粒子	良	底部：赤切り痕
7108	713	2清	24	土器	环	—	—	5.0-	褐色	白：白色粒子	良	
7108	714	2清	25	土器	环	—	—	5.2-	明褐色	赤：赤色粒子	良	
7108	715	2清	69	土器	圆	—	—	5.8-	明褐色	赤：赤色粒子・小石	良	
7108	716	2清	126	土器	环	—	—	5.0-	褐色	砂粒	良	底部：赤切り痕
7108	717	2清	127	土器	环	—	—	5.5-	暗褐色	赤：赤色粒子	良	
7108	718	2清	161	土器	环	—	—	5.8-	褐色	赤：赤色粒子	良	底部：赤切り痕
7108	719	2清	210	土器	环	—	—	6.2-	明褐色	赤：赤色粒子	良	
7108	720	2清	503	土器	环	—	—	6.5-	褐色	赤：赤色粒子	良	
7108	721	2清	516	土器	环	—	—	5.2-	褐色	赤：赤色粒子	良	
7108	722	2清	517・519・523	土器	环	—	—	5.4-	褐色	赤：赤色粒子	良	
7108	723	2清	517	土器	环	—	—	5.6-	明褐色	赤：赤色粒子	良	
7108	724	2清	518	土器	环	—	—	5.2-	褐色	白：白色粒子・砂粒	良	
7108	725	2清	527	土器	环	—	—	5.0-	褐色	赤：赤色粒子	良	
7108	726	2清	528	土器	环	—	—	5.0-	明褐色	砂粒	良	底部：赤切り痕
7108	727	2清	43	土器	环	—	—	6.0-	褐色	砂粒	良	底部：赤切り痕
7108	728	2清	44	土器	环	—	—	5.4-	暗褐色	白：白色粒子	良	底部：赤切り痕 焼付有
7108	729	2清	46	土器	环	—	—	5.0-	赤褐色	金粒子	良	底部：赤切り痕
7108	730	2清	47	土器	环	—	—	5.8-	暗褐色	白：白色粒子・砂粒	良	底部：赤切り痕 心う有
7108	731	2清	49	土器	环	—	—	<5.4-	明褐色	赤：赤色粒子・金粒子・小石	良	底部：赤切り痕 内外面：焼付有
7108	732	2清	76	土器	环	—	—	5.8-	褐色	砂粒	良	底部：赤切り痕
7108	733	2清	105・145・172	土器	环	—	—	5.4-	明褐色	赤：赤色黑色粒子・砂粒	良	底部：赤切り痕
7108	734	2清	141	土器	环	—	—	5.0-	明褐色	砂粒・小石	良	底部：赤切り痕
7108	735	2清	149	土器	环	—	—	5.6-	暗褐色	赤：赤色粒子・金粒子	良	
7108	736	2清	168・521	土器	环	—	—	5.8-	褐色	赤：赤色白色粒子	良	底部：赤切り痕
7108	737	2清	175	土器	环	—	—	5.6-	明褐色	赤：赤色白色粒子	良	底部：赤切り痕
7108	738	2清	183	土器	环	—	—	5.0-	暗褐色	砂粒	良	底部：赤切り痕
7108	739	2清	206	土器	环	—	—	4.4-	褐色	白：白色粒子・砂粒	良	底部：赤切り痕
7108	740	2清	217	土器	环	—	—	5.6-	明褐色	白：白色粒子	良	底部：赤切り痕
7108	741	2清	522・E10	土器	环	—	—	<7.0-	明褐色	赤：赤色白色粒子	良	底部：赤切り痕
7108	742	2清	530	土器	环	—	—	5.2-	明褐色	赤：赤色金色粒子・砂粒	良	底部：赤切り痕
7208	743	2清	85・87	土器	陶高 台付坏	<11.5	—	—	明褐色	白：白色粒子・金粒子	良	
7208	744	2清	15	土器	陶高 台付坏	—	—	—	赤褐色	赤：赤色粒子	良	
7208	745	2清	45	土器	陶高 台付坏	—	—	—	褐色	赤：赤色白色粒子	良	
7208	746	2清	80	土器	陶高 台付坏	—	—	—	赤褐色	赤：赤色粒子・砂粒	良	
7208	747	2清	133	土器	陶高 台付坏	—	—	—	褐色	白：白色粒子	良	

番号	造形番号	出土地名	記号	種別	器形	直径			色調	胎土	性質	調査	備考
						口径	底径	底径					
728	748	2漢	179	土器器	圓高 合付坪	—	—	—	明褐色	密：白色粒子・砂粒	良		
728	749	2漢	48	土器器	圓高 合付坪	—	—	<7.2>	褐色	密：金粒子・砂粒	良		
728	750	2漢	154	土器器	圓高 合付坪	<7.4>	—	—	米褐色	密：金粒子・砂粒	良		
728	751	2漢	513	土器器	圓高 合付坪	—	—	<7.8>	暗褐色	密：白色粒子	良		
728	752	2漢	3・4	土器器	圓	<26.5>	—	—	褐色	密：白色粒子・小石・金雲母	良	内外面：ハケメ	
728	753	2漢	157	土器器	圓	<22.4>	—	—	褐色	密：金雲母・小石	良	内面：ナデ・外面：ハケメ	
728	754	2漢	167	土器器	圓	<20.0>	—	—	明褐色	密：金雲母・小石	良	内外面：ハケメ不明顯	
728	755	2漢	188	土器器	圓	<25.6>	—	—	褐色	密：金粒子・小石	良		
728	756	2漢	190	土器器	圓	<24.2>	—	—	暗褐色	密：金雲母・小石	良		
728	757	2漢	196	土器器	圓	<26.6>	—	—	赤褐色	密：金雲母・小石	良		
728	758	2漢	57・58・G11	土器器	鉢	<22.4>	—	—	褐色	密：金雲母・小石	良	内外面：ハケメ	
728	759	2漢	139・170	土器器	圓	<22.8>	—	—	褐色	密：金雲母・小石	良	内外面：ハケメ不明顯	
728	760	2漢	6・27	土器器	圓底	—	—	—	暗褐色	密：金雲母・小石	良	内面：ハケメ	
728	761	2漢	82	土器器	圓底	<20.8>	—	—	暗褐色	密：金雲母・白色粒子	良		
728	762	2漢	115	土器器	圓底	<24.6>	—	—	褐色	密：金雲母・小石	良	内外面：ハケメ不明顯	
728	763	2漢	136	土器器	圓底	<25.2>	—	—	暗褐色	密：金雲母・小石	良	内面：ハケメ	
728	764	2漢	202	土器器	圓底	<28.0>	—	—	褐色	密：金粒子・砂粒・小石	良	内面：爆裂痕	
728	765	2漢	205	土器器	圓蓋	—	—	—	褐色	密：白色粒子・石英	良		
728	766	2漢	13	土器器	圓	—	<9.0>	—	暗褐色	密：金雲母・小石	良	底部：木炭痕	
728	767	2漢	13	土器器	圓	—	<9.0>	—	暗褐色	密：金雲母・小石	良	底部：木炭痕	
728	768	2漢	66	土器器	圓	—	<9.2>	—	暗褐色	密：砂粒子・石英・小石	良	底部：木炭痕	
728	769	2漢	227	土器器	圓	—	<10.0>	—	褐色	密：砂粒・小石	良	内外面：ハケメ不明顯	
728	770	2漢	209・201	土器器	圓	—	<9.6>	—	褐色	密：白色粒子・小石	良	底部：木炭痕	
728	771	2漢	131・166	土器器	圓	—	<9.6>	—	褐色	密：金雲母・小石	良	底部：木炭痕	
728	772	2漢	536	土器器	?	—	<9.0>	—	褐色	密：白色粒子・金粒子・石英	良		
728	773	2漢	142・93・27・12柱・42	灰釉陶器	瓶	<14.6>	<4.5>	<7.0>	灰白色	密	良	底部：水切り痕	
728	774	2漢	95・99・E10	灰釉陶器	瓶	<12.6>	<4.9>	<7.0>	灰白色	密	良	丸石2号	
728	775	2漢	197	灰釉陶器	瓶	<16.8>	<6.0>	<7.8>	灰白色	密	良	丸石2号	
728	776	2漢	20	灰釉陶器	瓶	<16.8>	—	—	灰白色	密	良		
728	777	2漢	29・106	灰釉陶器	瓶	<12.2>	—	—	灰白色	密：白色粒子	良		
728	778	2漢	65	灰釉陶器	瓶	<18.4>	—	—	灰白色	密	良		
728	779	2漢	?	灰釉陶器	瓶	<15.6>	—	—	灰白色	密：白色粒子	良		
728	780	2漢	80・18	灰釉陶器	瓶	<16.2>	—	—	灰白色	密	良		
728	781	2漢	93・G12	灰釉陶器	瓶	<16.0>	—	—	灰白色	密：白色粒子	良		
728	782	2漢	109・F12	灰釉陶器	瓶	<19.0>	—	—	黄褐色	密	良		
728	783	2漢	120	灰釉陶器	瓶	<16.2>	—	—	灰白色	密	良		
728	784	2漢	128	灰釉陶器	瓶	<16.4>	—	—	灰白色	密	良		
728	785	2漢	137	灰釉陶器	瓶	<15.0>	—	—	灰白色	密	良		
728	786	2漢	143・E10	灰釉陶器	瓶	<14.8>	—	—	灰白色	密	良		
728	787	2漢	160	灰釉陶器	瓶	<16.0>	—	—	黄褐色	密	良		
728	788	2漢	220	灰釉陶器	瓶	<14.6>	—	—	灰白色	密	良		
728	789	2漢	2・G9	灰釉陶器	瓶	—	<9.4>	—	灰白色	密	良		
728	790	2漢	16	灰釉陶器	瓶	—	<6.2>	—	灰白色	密	良	底部：水切り痕	
728	791	2漢	18	灰釉陶器	瓶	—	<6.0>	—	灰白色	密	良	丸石2号	
728	792	2漢	42	灰釉陶器	瓶	—	—	灰白色	密	良			
728	793	2漢	55・125	灰釉陶器	瓶	—	<6.2>	—	灰白色	密	良	丸石2号	
728	794	2漢	55	灰釉陶器	瓶	—	<7.4>	—	灰白色	密	良		
728	795	2漢	71・G12	灰釉陶器	瓶	—	—	暗褐色	密	良			
728	796	2漢	81・24・218	灰釉陶器	瓶	—	<7.6>	—	灰白色	密	良		
728	797	2漢	103	灰釉陶器	瓶	—	<7.6>	—	灰白色	密	良		
728	798	2漢	104・159	灰釉陶器	瓶	—	<7.6>	—	灰白色	密	良	虎渕山1号	
728	799	2漢	119	灰釉陶器	瓶	—	<6.2>	—	灰白色	密	良	虎渕山1号	
728	800	2漢	189	灰釉陶器	瓶	—	<6.0>	—	灰白色	密	良	虎渕山1号	
728	801	2漢	193	灰釉陶器	瓶	—	<6.4>	—	灰白色	密	良		
728	802	2漢	506・508	灰釉陶器	瓶	—	<6.0>	—	灰白色	密	良		
728	803	2漢	514	灰釉陶器	瓶	—	<6.2>	—	灰白色	密	良	底部：水切り痕	
728	804	2漢	524・E10	灰釉陶器	瓶	—	<6.2>	—	灰白色	密	良		
728	805	2漢	33・84	灰釉陶器	瓶	<13.6>	<6.8>	<6.8>	灰白色	密	良	底部：水切り痕	虎渕山1号
728	806	2漢	55・上塗区G8・9-45	灰釉陶器	瓶	<16.2>	<2.8>	<7.6>	灰白色	密	良	虎渕山1号	
728	807	2漢	61・62・63	灰釉陶器	瓶	<14.2>	<2.3>	<6.0>	黄褐色	密	良		
728	808	2漢	94・95・100	灰釉陶器	瓶	<12.6>	<2.2>	<7.4>	灰白色	密	良	丸石2号	
728	809	2漢	187	灰釉陶器	瓶	<16.2>	—	—	暗褐色	密	良		
728	810	2漢	31・32	灰釉陶器	瓶	—	—	—	灰白色	密	良		
728	811	2漢	34・36・92・96・111-112	灰釉陶器	瓶	—	—	—	灰白色	密	良		

井図 番号	遺物 番号	出土地点	記号	種別	器形	法量			色調	胎土	性 質	測定	備考
						口径	底高	底径					
7508	812	2溝	86 - 144 - 165 - 12往52 -	灰陶器	長頸壺	-	-	-	暗緑色	密	良		
			土窓区G8・9-5										
7509	813	2溝	114 - 171 - 510 - F8 - F9 -	灰陶器	長頸壺	-	-	-	灰白色	密	良		
			- 24E - 1號E - 17										
7508	814	2溝	12 - 14 - II0 - 1	灰陶器	壺	-	-	-	灰白色	密	良		
7508	815	2溝	39 - 54	灰陶器	壺	-	-	-	暗緑色	密	良	内面：赤褐色	
7508	816	2溝	70 - 佛シ264	灰陶器		-	-	-	灰白色	密	良		
7508	817	2溝		灰陶器	片口	-	-	-	灰白色	密	良		
7508	818	2溝	77	土窓器	壺?	-	-	<15.6	灰色	密	良	圓窓器	
7508	819	2溝	102	土窓器		-	-	-	灰色	密	良		
7508	820	2溝	134 - 501	瓦器		-	-	-	灰色	密	良		
7508	821	H19G	1	土窓器	壺	10.1	3.2	5.4	明褐色	密	良	底部：赤褐色	
7508	822	H20G	13 - 15	土窓器	壺	<15.0	3.5	6.0	青褐色	白色粒子多數含	良	底部：赤褐色	
7508	823	H20G	11	土窓器	壺	9.3	2.5	4.7	赤褐色	密	良	内面：赤褐色	
7508	824	H20G	11 - 15 - 38	土窓器	壺	9.4	2.4	4.7	赤褐色	密	良	底部：赤褐色	
7508	825	H20G	28	土窓器	壺	9.7	2.5	5.1	赤褐色	密	良	内面：赤褐色	
7508	826	H20G	29	土窓器	壺	9.4	2.3	5.0	青褐色	黑耀石	良	底部：赤褐色	
7508	827	H20G	31	土窓器	壺	8.4	2.8	5.0	明褐色	更	良	底部：赤褐色	
7508	828	H20G	3	土窓器	壺	<8.5	2.1	<5.2	明褐色	密	良	底部：赤褐色	
7508	829	H19G	2	土窓器	高台付 壺	10.8	-	-	褐色	金屬子	良	赤褐色後貼り付	高台部欠損
7508	830	H19G	6 - 7	土窓器	圓窓高 台付壺	14.6	-	-	赤褐色	白色粒子	良		
7508	831	H19G	H19G	土窓器	圓窓高 台付壺	-	-	-	赤褐色	密	良		
7508	832	H19G	3	土窓器	圓窓高 台付壺	-	-	6.5	明褐色	密	良		
7508	833	H19G	11 - 12	土窓器	壺	26.6	-	-	暗褐色	金屬子	良	内面：ハケメ・ヘラナデ	
7508	834	H19G	16	土窓器	壺	<29.0	-	-	暗褐色	密	良	内面：ハケメ	
7508	835	H20G	4 - 14 - 19 - 21 - 22 - 23 + 37	土窓器	壺	<31.4	-	-	暗褐色	金屬子	良	内面：ハケメ	
7508	836	H20G	1 - 9 - 16 - 18 - 8 - 2 - 32 + 77 - 40 - 41	土窓器	鉢	<39.8	-	-	暗褐色	やや粗	良		
7508	837	H19G	13	土窓器	鉢	<33.4	-	-	暗褐色	密	良		
7508	838	H20G	32 - 33 - 34 - 35 - 36 - 39 + 42	土窓器	鉢	<31.0	19.8	13.0	暗褐色	やや粗	良	内面：ヘラ削り	
7508	839	29 - 30G	126 - 74 - 150 - 24 - 25 - 129 - 8	土窓器	貫き方 マド	<31.0	-	-	褐色	金屬子	良		
7508	840	8往	S-1	石器	砾石	-	-	-	-	-	-	-	-
7508	841	8往	S-2	石器	砾石	-	-	-	-	-	-	-	-
7508	842	10往	S-1	石器	砾石	-	-	-	-	-	-	-	-
7508	843	10往	S-1	石器	砾石	-	-	-	-	-	-	-	-
7508	844	10往	S-5	石器	砾石	-	-	-	-	-	-	-	-
7508	845	24往	S2	石器	砾石	-	-	-	-	-	-	-	-
7508	846	24往	S3	石器	砾石	-	-	-	-	-	-	-	-
7508	847	25往	S1	石器	砾石	-	-	-	-	-	-	-	-
7508	848	25往	S1	石器	砾石	-	-	-	-	-	-	-	-
7508	849	28往	S1	石器	砾石	-	-	-	-	-	-	-	-
7508	850	37往	S-1	石器	砾石	-	-	-	-	-	-	-	-
7508	851	1土	7 - S-1	石器	砾石	-	-	-	-	-	-	-	-
7508	852	グリッド	E-16	石器	砾石	-	-	-	-	-	-	-	-
7508	853	グリッド	G8 - 9	石器	砾石	-	-	-	-	-	-	-	-
7508	854	グリッド	I-3	石器	砾石	-	-	-	-	-	-	-	-
7508	855	グリッド	J-9 - 28 S-1	石器	砾石	-	-	-	-	-	-	-	-
7508	856	グリッド	G8 - 9 - 12	石器	砾石	-	-	-	-	-	-	-	-
7508	857	余生窓中	K28	石器	石皿	-	-	-	-	-	-	-	-
7508	858	8往	F-1	鉄製品	-	-	-	-	-	-	-	-	-
7508	859	8往	F-4	鉄製品	-	-	-	-	-	-	-	-	-
7508	860	F-1	鉄製品	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
7508	861	24往	F-1	鉄製品	刀子	-	-	-	-	-	-	-	-

第4章 横町遺跡の自然科学分析 パリノ・サーヴェイ株式会社

第1節 目的

分析を行う遺構は、弥生時代末の焼失住居(18号住居)と平安時代末のカマドである。焼失住居には多くの炭化材がみられることから、当時の木材利用に関する情報を得るために樹種同定を実施する。また焼失住居とカマド試料は、微細物同定を行い、当時の植物利用に関する情報を得る。

第2節 試料

樹種同定用試料は、18号住居から検出された17点である。微細物同定には、18号住居から2点、4号住居などのカマドから5点、弥生時代の土坑内土から1点の計8点である。試料の詳細は、結果とともに表に示す。

第3節 分析方法

(1)樹種同定

木口(横断面)・粋目(放射断面)・板目(接線断面)の3断面の割断面を作製し、実体顕微鏡および走査型電子顕微鏡を用いて木材組織の特徴を観察し、種類を同定する。

(2)微細物分析

試料約1kgを秤量し、数%の水酸化ナトリウム水溶液を加えて放置し、試料を泥化させる。0.5mmの篩を通して水洗し、残渣を集める。双眼実体顕微鏡下で観察し、種類が特定できそうな微細物を抽出・同定する。ただし、試料番号4、5は試料が少なかったため、分析量を減らした。

第4節 結果

(1)樹種同定

樹種同定結果を表1に示す。C-16の炭化材のうち2点は、道管が認められることから広葉樹であるが、保存が悪いために種類の同定には至らなかった。またC-9の炭化材のうち1点は木材組織が観察できず不明とした。その他の試料は、いずれも落葉広葉樹で3種類(コナラ属コナラ亜属クヌギ節・コナラ属コナラ亜属コナラ節・ケヤキ)に同定された。各種類の主な解剖学的特徴を以下に記す。

・コナラ属コナラ亜属クヌギ節(*Quercus* subgen. *Lepidobalanus* sect. *Cerris*) ブナ科

環孔材で、孔圈部は1~3列、孔圈外で急激に管径を減じたのち、漸減しながら単独で放射状に配列する。道管は單穿孔を有し、壁孔は交互状に配列する。放射組

表2 横町遺跡の樹種同定結果

遺構名	試料番号	点 数	樹種(点数)
18号住	C-1	4	ケヤキ(4)
	C-2	4	ケヤキ(4)
	C-3	4	コナラ属コナラ亜属コナラ節(4)
	C-4	4	ケヤキ(4)
	C-5	4	ケヤキ(4)
	C-6	4	コナラ属コナラ亜属クヌギ節(2) ケヤキ(2)
	C-7	4	コナラ属コナラ亜属クヌギ節(4)
	C-8	4	コナラ属コナラ亜属クヌギ節(4)
	C-9	4	コナラ属コナラ亜属クヌギ節(3) 不明(1)
	C-10	4	コナラ属コナラ亜属クヌギ節(4)
	C-11	4	コナラ属コナラ亜属クヌギ節(4)
	C-12	4	コナラ属コナラ亜属クヌギ節(4)
	C-13	4	コナラ属コナラ亜属クヌギ節(4)
	C-14	4	コナラ属コナラ亜属クヌギ節(4)
	C-15	4	コナラ属コナラ亜属クヌギ節(4)
	C-16	4	コナラ属コナラ亜属コナラ節(2) 広葉樹(2)
	C-17	4	コナラ属コナラ亜属クヌギ節(4)

織は同性、単列、1～20細胞高のものと複合放射組織とがある。

・コナラ属コナラ亜属コナラ節(*Quercus subgen. Lepidobalanus sect. Prinus*) プナ科

環孔材で、孔圈部は1～2列、孔圈外で急激に管径を減じたのち、漸減しながら火炎状に配列する。道管は單穿孔を有し、壁孔は交互状に配列する。放射組織は同性、単列、1～20細胞高のものと複合放射組織とがある。

・ケヤキ(*Zelkova serrata* (Thunb.) Makino) ニレ科ケヤキ属

環孔材で、孔圈部はほぼ1列、孔圈外で急激に管径を減じたのち漸減、塊状に複合し接線・斜方向の紋様をなす。道管は單穿孔を有し、壁孔は交互状に配列、小道管内壁にはらせん肥厚が認められる。放射組織は異性Ⅲ型、1～10細胞幅、1～60細胞高で、しばしば結晶を含む。

(2) 微細物分析

結果を表2に示す。分析の結果、同定可能な微細物は、試料番号2から検出されたタデ属1個体のみで、他からは検出されない。炭化物の数は比較的多く、特に試料番号2で多い。また、炭化材同定が可能な材片もいくつか見られたが、別の試料で樹種同定を行っているので、ここでは分析を行わなかった。

表3 横町遺跡の微細物同定結果

番号	試料名	種実	材(g)	土器(g)
1	18号住居跡 床面C		1.22	
2	18号住居跡 土サンプル	タデ属(1)	7.77	
3	24号住居跡 カマド内		1.58	
4	K-26G P-23内土		+	
5	4号住居跡 カマドC1		2.43	
6	7号住居跡 カマド土		2.02	1.84
7	22号住居跡 カマド土		0.21	
8	4号住居跡 カマド土		5.82	

番号は便宜上つけた + : 0.01g以下

第5節 考察

18号住は、火災住居跡であり、柱が倒れこむような状態で出土している。炭化材は、いずれも住居構築材など的一部が炭化・残存したものと考えられる。樹種は、いずれも落葉広葉樹で、3種類が認められ、とくにクヌギ節が多い。この結果から、18号住では、住居構築材としてクヌギ節を中心とした落葉広葉樹を選択していたことが推定される。

一方微細遺物同定では、微細な炭化材片が多いが、種実は試料番号2から検出されたタデ属1個体のみである。タデ属は炭化していなかったことから、機能していた当時に由来するのではなく、遺構が廃絶され、埋積の途中に紛れ込んだものと考えられる。

第5章 調査の成果と課題

第1節 弥生時代の集落と遺物について

今回の調査では、調査前には予想もしなかった弥生時代の集落にあたり、調査できたことが幸運であった。

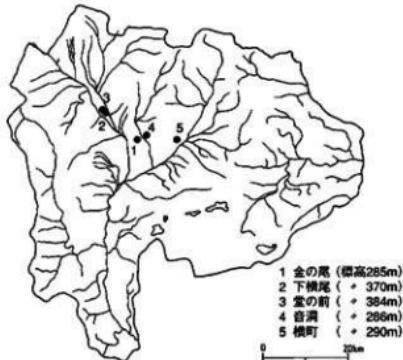
春日居町内では、これまで弥生時代の集落はもちろん、遺物もほとんどない状況であったため、今回の調査で春日居町の歴史の新たな一面が確認できることになる。町内の弥生時代に関しては、鎮目地区の上町田遺跡から、それらしき破片が採取されたと報告されている。昭和46年の分布調査では弥生土器採取は報告されておらず、昭和54年の山梨県遺跡地名表では上町田遺跡の時代に弥生が加わっていることから、この間に弥生土器らしき破片が採取されたものと思われるが、昭和63年の町誌では上町田遺跡のそれについては「弥生式土器ではないかと推定される細片が得られたにすぎない」と書かれており、きわめてあやふやな資料であったことが窺われる。確実な資料は、1986年度の春日居町教育委員会による寺本地区の寺本庵跡(遺跡)トレンチ調査で、Tトレンチ、Pトレンチからそれぞれ1点ずつの弥生土器が出土した例である。1点は脣部下半の無文であるが、もう1点は櫛描波状文と同一工具による脣部への鋸歯文が施文された箇で、後期前半でも古く位置づけられるものである⁽¹⁾。

今回の調査では弥生時代後期前半の住居跡12軒と同時代の遺物集中区1カ所が確認された。遺物も非常に多く、今回は1~253までの土器・土製品と843・844・857の3点の石器を示した。土器は後期前半に限られる。

住居はほとんどすべてが同時期と考えても差し支えないほどであり、その中で主体を成すのは中部高地系櫛描波状文土器である。本県でこれまでこの時期を調査した例は非常に少ない。わずかに敷島町金の尾遺跡と並崎市下横屋遺跡、堂の前遺跡でこの時期の集落が確認されているにすぎない。なお、集落の様相までは明らかにされていないものの、甲府市音羽遺跡でも当該期の住居跡2軒が調査されている。この時期の住居跡複数が調査された例は上記4例に限られる。

金の尾遺跡は、これまで数次の調査が行われているが、集落としての姿が浮かび上がったのは、遺跡発見の契機ともなった昭和53年の県教育委員会による中央自動車道建設に伴う事前調査である。約8000m²を対象としたこの調査で、それまで本県では全く未確認であった後期前半の住居跡32軒と周溝墓17基、集落を区分けする溝などが確認された⁽²⁾。下横屋遺跡は平成元年に宅地造成工事に伴う事前調査として約1200m²が調査され、この時期の住居跡8軒が調査された⁽³⁾。金の尾遺跡に比べ調査面積が少ないが、住居の密度はむしろ濃いものと思われる。また、近接の堂の前遺跡でも同時期の住居跡が4軒調査されている⁽⁴⁾。下横屋遺跡と堂の前遺跡とは直線で800m程度の距離であり、極めて近接していることや、これらの遺跡の立地する、塩川の氾濫源である通称蘿井平には該期を含め前後の時期の集落が広く分布することなど弥生時代後期の集落の大きな拠点となっていることから、これらの遺跡周辺にさらに多くの当該期集落が存在しているものと思われる。音羽遺跡は盆地中央部を南流する荒川の氾濫源に位置する。調査では2軒だけが確認された⁽⁵⁾が、この付近でも当該期を含み前後の時期の住居跡が何カ所かで確認されており、今後さらに確認されることが予想される。

これらの遺跡で確認された住居跡の様相や出土遺物を一覧表に示した。金の尾、下横屋、堂の前、音羽の4遺跡と、今回調査した横町遺跡の比較を行ってみるこ



第79図 弥生時代後期の集落分布

表4 金の尾・下横屋・堂の前・音羽・横町遺跡住居跡遺構遺物比較一覧

住居	形態	規模(m)	柱穴	梯子受	貯藏穴	土 器							石 器							その他	
						壺	甌	鉢	高坏	楕	器台	瓶	その他	打斧	磨斧	石包丁	磨石	石皿	磨製鉢	石鏃	
金 の 尾	1 鳥丸方形	4.0×3.8				○							○		○						
	2 鳥丸長方形	5.8×4.2	4	○		○	○	○					○		○		○			○	
	3 鳥丸方形	5.8×5.7	4			○	○	○					○		○		○			凹石	
	4 鳥丸長方形	6.8×6.0	4	○	○	○	○	○				○	○				○		○	○	凹石
	5 横円形?	不明																			
	6 鳥丸方形	5.2×3.6	4			○	○	○				○	台付甌	○			○	○	○		
	8 鳥丸長方形	4.6×3.1	4		○	○	○	○				○		○		○	○	○	○		
	9 鳥丸長方形	4.6×4.1	4			○	○					○		○						○	
	12 横円形?	不明				○															
	14 鳥丸方形	4.7×4.4	4				○													○	
	15 不整鶴丸方形	3.5×3.3				○	○														
	16 鳥丸長方形	6.2×4.8	4	○	○	○	○					○					○	○	○	火災住居	
	17 鳥丸長方形	6.6×4.8	4			○	○	○	○	○		○	手捏ね		○		○	○	○	環状斧	
	18 横円形	6.4×5.0	4	○	○	○	○	○	○	○		○					○	○	○	碇石	
	19 鳥丸長方形	5.6×4.6	4	○	○	○	○	○	○	○								○			
	20 鳥丸長方形	8.4×5.8	4			○	○					○	○	○	○	○	○	○	○	○	凹石
	21 鳥丸長方形	5.2×4.5	4	○	○	○				○	○		○		○	○	○	○			
	22 横円形?	不明																			
	24 横円形	6.1×3.5	4	○	○	○	○	○					○						○	多孔石	
	25 鳥丸方形	5.0×3.8	4	○	○	○	○	○	○	○									○	多孔石	
	26 鳥丸長方形	4.4×3.2	4	○		○	○												○		
	28 横円形	6.2×5.2	4	○	○				○	○			手捏ね								
	29 横円形	7.3×6.5	4	○	○	○	○	○	○	○		手捏ね			○					凹石	
	30 横円形	5.0×3.4	4	○	○	○	○	○	○	○			○								
	31 横円形	4.7×3.4	4		○		○	○													
	32 横円形	4.4×3.8	4			○			○						○				○		
	33 横円形	7.2×5.0	4	○	○	○	○	○	○				○		○			○			
	34 鳥丸長方形	6.2×5.0	4	○	○	○	○	○	○				片口	○							
	35 横円形	6.2×4.2	4	○	○	○	○	○				○	台付甌	○	○			○	○	凹石	
	36 横円形	8.1×6.6	4	○	○	○	○	○	○			手捏ね			○	○			○	○	凹石
	37 鳥丸方形	3.1×2.4																			
	38 鳥丸長方形	5.5×3.9	4		○	○	○								○		○	○			

	住居	形態	規模(m)	柱穴	様子受	貯蔵穴	土 器							石 器							その他	
							壺	甌	鉢	高坏	檢	器台	瓶	その他	打斧	磨斧	石包丁	磨石	石皿	磨製錐	石鏃	
下 横 屋	1	楕円形	7.2×6.0	4			○	○						合付甌	○							
	2	楕丸長方形	不明																			
	3	楕丸方形	7.5×5.5	4			○	○						合付甌								火災住居
	4	楕円形	5.4×4.2	4				○														
	5	楕丸長方形	4.8×3.7	4		○	○	○	○				○		○		○					火災住居
	6	楕丸長方形	6.6×5.3	4			○	○					○									
	7	楕丸長方形	5.5×	4				○	○													
	10	楕丸長方形	6.0×5.1	4			○								○	○						火災住居
	6	楕丸方形	3.8×3.5				○	○														
	16	楕丸長方形	5.0×3.4				○	○						紡錘車								
堂 の 前	19	楕丸長方形	7.0×5.7	4		○	○	○	○	○			○	紡錘車・匙	○							火災住居
	20	楕丸長方形	7.6×6.6	4			○	○					○			○						ガラス玉
	A-2	楕円形	5.7×3.9	4		○	○	○						織み物压痕			○	○				
	A-3	楕丸方形	4.7×4.3	4	○		○	○	○					紡錘車	○		○	○			凹石	
横 町	1	楕丸長方形	5.0×4.5					○														
	2	楕丸長方形	3.8×3.5	6				○						合付甌								
	3	楕丸長方形	4.4×3.5				○	○						蓋								
	13	楕丸長方形	4.6×3.8				○							片口								
	14	楕丸長方形	5.0×4.5					○						手捏ね								火災住居
	15	楕丸長方形	4.6×3.9	6			○	○		○				蓋								
	16	楕丸長方形	5.8×5.0				○	○														
	18	楕丸長方形	5.2×4.5	6			○	○						蓋・紡錘車			○					火災住居
	26	不明	不明				○	○		○												
	27	円形?	2.8×2.8					○														
	32	円形?	3.2×3.2				○	○		○				片口								
	35	楕丸方形	4.2×3.9				○	○		○				片口								

ととする。

まず住居跡であるが、4遺跡は、平面形は長軸5~6m前後の隅丸長方形もしくは梢円形を呈するものが一般的である。柱穴は4本柱穴で、入り口部に梯子受穴・貯蔵穴を有することが共通項として挙げられる。

遺物についてみると、土器は壺・甕と瓶を日常の生活用具の基本として、それに供献形態の高坏や器台が加わることとなる。石器で目に付くのは打製石斧である。また、石包丁もみられるが、そのほとんどは打製であり、報告書では横刃形とされたものを含んでいる。この時期の確実な磨製石包丁は下横屋遺跡10号住居跡と堂の前遺跡20号住居跡例の2点のみであるが、むしろこれら県内では一般的とは考えにくい。穂積みという想定からは打製でも十分であり、打製石斧と報告された一群をさらに検証することも必要であろう。その意味でこの時期の打製石斧は慎重に扱う必要がある。それに対し、磨製錐は片寄りがあり特徴的である。韮崎市の2遺跡では全く出土していないのに対し、盆地に下った金の尾、音羽の両遺跡からはかなりの割合で出土していることが特徴である。

これに対し、本遺跡の今回の調査で得られた資料からはどのような比較ができるであろうか。まず、住居跡であるが、規模・形状などは4遺跡とそれほど違いがあるとは思われない。しかし、内部施設に目を向けると、柱穴配置は6本が主流で、4遺跡とは全く異なる状況を示し、さらに、梯子受穴や住居内貯蔵穴などの施設も全く確認されていない。本遺跡については、あえて言えば甲府盆地東部という地域分けが可能かと思われるが、本遺跡と、盆地西部およびさらに西部の台上の遺跡群との間にはっきりとした一線を画してもよいのではないかと思いたくなるような相違である。

次に遺物であるが、土器では壺・甕・高坏は共通であるものの、日常用具の柱の一つである瓶が全く確認されていない点が挙げられる。もちろん調査区域の制約上の問題もあるが、瓶という器種の性格上、食料の加工方法と密接にかかわるものであり、その有無の意味するところは大きい。石器では、さらに大きな違いが挙げられる。今回の調査を通じて、総じて遺物の量の少なさが気になっていたが、ともかく石器の極端なまでの少なさが大きな特徴である。12軒の住居跡内で確認された石器は磨石1点のみである。また、弥生集中区内でも石皿1点が確認されただけであった。一覧表の石器の項目からもその違いは一目瞭然であろう。ここに挙げた石器類は生産・加工に直接かかわるものである。当然、何らかの生業がムラを支えていた訳であろうから、生業にかかわる何かしらの痕跡がなければならないはずであるが、ここまで石器が確認されない現状では、その手掛かりすらつかめない。

現在、甲府盆地で出土する土器の様相からは、中部高地系が主である地域と東海系が主である地域に分けられることが指摘されている。今回の本遺跡の土器は明らかに中部高地の系統を主とする地域に入るものである。しかし、住居内施設や極端に貧弱な石器の状況等から、甲府以西の遺跡群とは明瞭な相違を指摘せざるを得ない。このように狭い甲府盆地という範囲内でも、その東と西とで大きな相違を想定する必要があるのかもしれない。

以上のように、遺構と遺物の比較を行ったが、次に土器について述べてみたい。

中部高地系統の土器では、後期前半の櫛描波状文が最も発達する時期として、5-(2)期(=金の尾II式期)が、中山誠二・保坂和博らによって設定されている⁽⁶⁾が、本遺跡の資料はまさにここに位置づけられるものであろう。

しかし、これらの中でも、さらに細分化が進められており、山梨県史では5-(2)期のなかでもさらに古い様相を示すものを分ける試みがなされている。それは前段階である5-(1)期(=金の尾I式期)の文様施文部位が器面の口縁部から胴部下半にまで及んでいるのに対し、5-(2)期段階では口縁部から肩部に施文部位が狭まっているという、文様施文部位の変化を時期的変遷と捉える考え方によるものである。つまりそれらの中間段階を一つの時期として捉えようというので、その考えからすると、波状文・簾状文の施文された甕でいうなら73・153などをこの一群として括ることが可能であろう。

一方、壺の79・86・131・132・196~200などは、頸部に横方向の沈線を縦の沈線で区分けするT字状文を施文したもので、これらは中期後半から引き継がれる手法であり、5-(2)期段階まで存在する。したがってこれらについては73・153などと同様に5-(2)期段階の古い時期に位置づけられることも考えられよう。また、107・108・195などは、同じ壺であっても施文が特徴的な円弧文である。これらは長野県下で散見される資料で、後期でも最も古い部分に確実に存在するようである。したがってこれらは79などの一群より一段階古く、本県の縦年では5-

(1) 期にまで潮らせることも可能であろう。

同じ中部高地系でも 124・125 などは口縁部形態が“くの字”状を呈しており、明らかに伊那谷など南信地域の系譜に属するものである。後期前半という時期からは、座光寺原式の影響を想定するのが妥当であろう。また、いわゆる“赤い土器”が何点か出土している。44・71・72・85・88・117・118・154・155・156・159・160・161 などである。これらは従前は広く箱清水式の範疇で括られていたものであるが、最近の資料では、とくに諏訪地域を中心とする橋原式が甲府盆地まで広がっていると考えられており、その中で捉えるべき一群なのであろう。

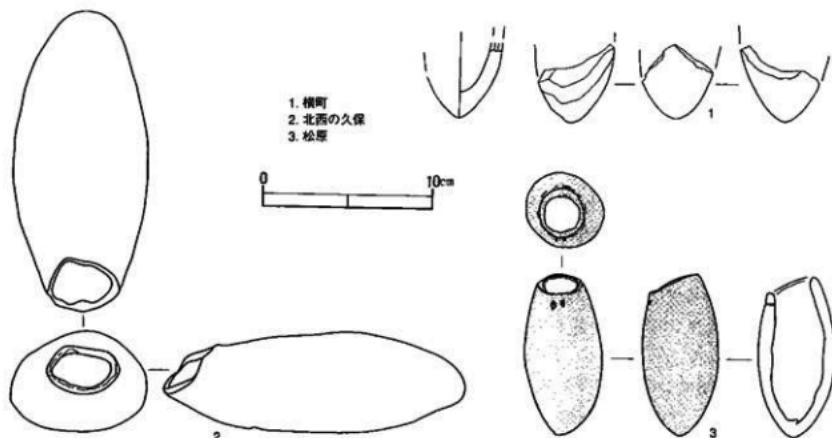
一方、東海東部地域の影響下にある資料としては、複合口縁や折り返し口縁と口縁部に棒状浮文が付く壺である 11・19・64・80・110・126 などや、円形浮文の貼付される 49・133 などが挙げられる。これらは今回の調査で確認された範囲内ではあくまで客体である。

以上、今回出土した土器について述べてみた。時期は後期前半に限られるが、金の尾遺跡で主体となる時期と同じ時期を中心に、若干それに先行する時期が認められ、それらがその時期の資料的空白を埋める資料たり得ることが確認されたことは大きな成果である。

第2節 249の土製品について

今回の調査で、特殊遺物として挙げなければならないのが、249に示した土製品である。本文中では笛の可能性が大きいとしておいたが、それについて述べてみたい。5cm 程の破片であるが、底部は砲弾型で、外面にはところどころに、いわゆる赤い土器と同様の製法と推定される赤色の化粧土(焼成後に塗布するのではなく、焼き込んだものである)が残存するため、おそらく全面が赤であったと推定される。この赤彩部分は丁寧に磨かれている。

このような資料はこれまで山梨県内では全く確認されていなかった。小型の土製品であることや砲弾型の底部から、当初は山陰地方に分布する陶壺(笛)を想定してみた¹⁷⁾。破片部分の形状は似ているものの、陶壺は砲弾型の底部にちかい部分に指孔と思われる小孔が存在するはずであるが本資料にはそれがみられず、また推定した器形が 7・8cm 程度で卵形に収束していくとは考えにくいくこと、さらに陶壺の分布が九州～山陰地方で丹後半島が東限である(例外的に静岡県浜松市伊場遺跡資料が陶壺とされた¹⁸⁾が、正報告では陶壺の可能性は否定されている)こと、時期的にも前期に限られていることなど、現状では今回の出土品とはあまりに時間・空間ともに掛け離れているこ



第80図 笛状土製品

とから直ちに陶壙と結び付けることは困難と判断した。しかし、前期の陶壙はともかく、このような形態の土製品が周辺地域に存在するのか調査したところ、同じ中部高地系櫛描波状文土器の分布域である長野県内で類似する資料が2例確認できた。

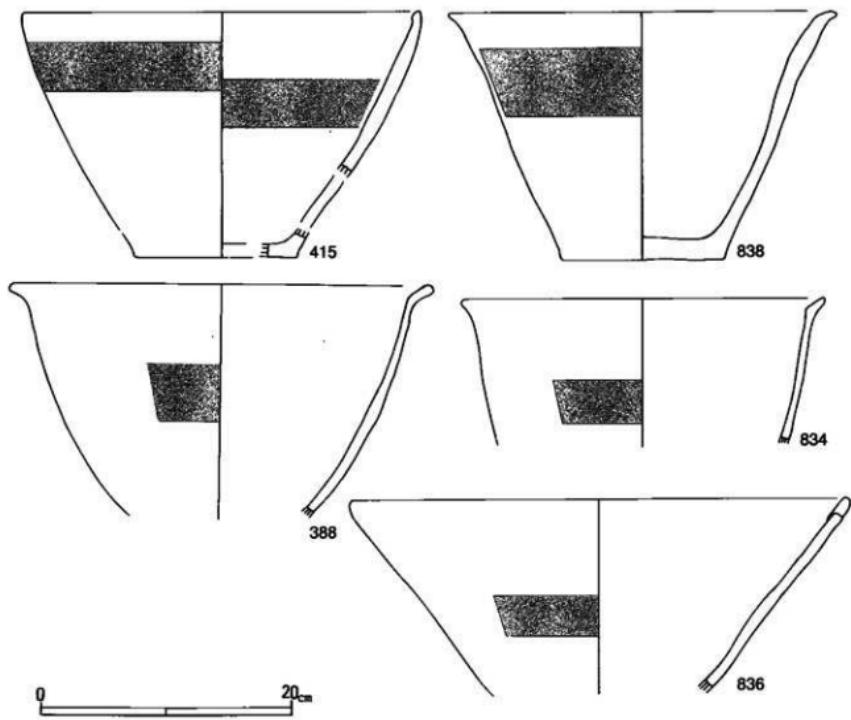
一例は佐久市北西の久保遺跡のY2号住居跡出土品で中期後半に位置づけられる⁽¹⁹⁾。報告書では異形土器とされており、長さ17.5cm、最大幅8.0cm、最大厚6.0cmを計る。中期後半に位置づけられるもので、本遺跡例より一時期古く位置づけられる。卵を極端に細長くしたような形態で、片方が吹口となっている。この部分は垂直に切った状況ではなく斜めに切ったように整形してある。孔は吹口部分の一ヵ所だけで、指孔と思われる小孔は全く存在しない。磨きは丁寧であるが、焼き付けにせよ塗布にせよ赤彩は行われていなかつたらしい。この製品が笛であるとは断定できないが、口の部分が斜めに整形されていることから、吹くのには都合がよいものと思われる。ちなみに吹けば、ジュースのビンを吹いたのと同じようなボーボーと低くこもった音がすることになるのであろう。比較可能な部分である底部(この表現は適切ではないが)の状況は、本遺跡資料に比べ丸くかつ平べったい。大きさも含めこれを同じ性格のものと判断することには躊躇せざるを得なかった。しかし、このような土製品が同じ文化圏に存在することが確認できたことは収穫であった。そこでさらに別の類例を教示いただいたのが、もう一例の長野市松原遺跡資料であった。

松原遺跡資料も中期後半の可能性が大きく本遺跡例より先行するものである⁽²⁰⁾。しかし、この資料は本遺跡例と極めて類似する。まず、大きさであるが、長さ9.5cm、最大幅・厚さとともに4.5cmであり、本遺跡例の推定される大きさと合致することと、胴部の大きさもほぼ同様で、また偏平ではなく胴部は断面円形に近い状況であることが共通する。また、焼き付けと思われる赤彩が外面全面にみられ、しかも丁寧に磨かれていることも同じである。さらに底部の整形状況も類似しており、同一の性格の製品であると判断した。この土製品は、やはり反対側端部を斜めに切ったように整形しており、しかも口縁部(吹口)の直下に二つの小孔が穿たれている。報告書では他に類例がないことからか、この資料については筒形土器と呼称、口縁部下の小孔を紐孔として紐をかけることを想定したようである。しかし、通常の土器であれば端部を斜めに整形する必要はないのであって、そのことだけをとっても土製品と考えるべきであろう。

松原遺跡資料は、指孔の数や位置、あるいはその有無、さらにはより細長いという形態上の違いはあるものの、それでもあえて山陰地方の陶壙に類似した形態であると言っておきたい。それほど他に類似資料がないのである。現状では、笛の可能性を指摘しておきたい。ただし、仮にこれが笛であっても、陶壙と中部高地の中期後半～後期前半の資料を結ぶ資料が皆無な現状では、両者のかかわりを推定することは困難である。あくまで中部高地系の櫛描波状文土器圏内の中期後半から後期前半にかけて確認される資料中に笛らしき資料が存在するという提示に止めおきたい。

第3節 415の鉢に付着するスス・オコゲについて

この鉢には内面にスス、外面にオコゲが付着しており、形状は鉢であるもののカマドに掛けて使用したことが明らかである。その模式図を示したが、外面は口縁部下2cmから4.6cmの幅でススが一周する。内面は口縁部下5.2cmから4.1cmの幅で一周する。外面下部の一部に赤変らしき痕跡が確認されるが、内外面とも熱による剥離は確認されない。このような事例は本遺跡の他の鉢にも、これ程顕著ではないものの確認されている。図に示した例では388(=8号住居跡カマド内)は口縁部下6.3cmから4.5cmの幅で、838(=H-20グリッド)は口縁部下2.9cmから5.4cmの幅で外面にススが付着する。また、834(=H-19グリッド)、836(=H-20グリッド)にも外面に同様のススが付着する。388はこれまで壺系の鉢と称してきたものの典型的な例であるが、カマド内からの出土ということからも明らかのようにカマドで使用したと考えられるのである。415や838はこれまでの甲斐型壺系の鉢とは明らかに違うものであるが、このような2種類の系統の存在とこれらに共通して煮沸という用途が確認できたことになる。



第81図 鉢付着のスヌとオコゲ

以上の例から、鉢と分類してきたこれら的一群も、すでに指摘されているようにかなりの頻度で甕と同じ使われ方、すなわち煮沸用具として用いられてきたと考えられる。とすれば、形態から鉢としている呼称も、本来の用途から鍋と呼ぶことが妥当であろう。また、当時、同じ煮沸であっても甕と鉢でどのような使い分けがなされていたか知る由もないが、とくに内面に付着するオコゲ自体が分析できればその用途上の違いについても言及できるかもしれない。今後の調査と整理段階での取り扱いにも注意が必要となってこよう。同時に、カマドにおいては甕を掛けるかけ口に円形に焼土が形成されている事例があることから、甕は一度掛けたら取り外さないのではないかという解釈がなされているが、その一方で形態上鉢である鍋が掛けられる場合も同様の想定をしなければならないことになる。言うまでもなく、甕と鍋では口径が全く違うことになり煮沸の内容についても使い分けを想定する方が自然であると考えるからである。いずれにせよ、今後これらの疑問についての検証作業を行う必要があり、スヌやオコゲの付着状況の観察は重要な視点となろう。

註

- (1) 内田裕一ほか 1988『寺本庵寺 第1・2・3次発掘調査報告書』 春日居町教育委員会
- (2) 末木 健ほか 1987 山梨県埋蔵文化財センター調査報告第25集『金の尾遺跡 無名墳』 山梨県教育委員会
- (3) 山下孝司ほか 1991『下横屋遺跡』 蕎崎市教育委員会
- (4) 山下孝司ほか 1987『中本田遺跡 堂の前遺跡』 蕎崎市教育委員会
- (5) 高野玄明ほか 1997 山梨県埋蔵文化財センター調査報告第125集『音羽遺跡』 山梨県教育委員会
- (6) 中山誠二・保坂和博 2000『山梨県』『東日本弥生時代後期の土器編年』 東日本埋蔵文化財研究会福島大会実行委員会
中山誠二 2000『弥生時代の編年』『山梨県史 資料編 2』 山梨県
- (7) 江川幸子 1997『弥生の土笛』『古代文化研究 5』 烏根県古代文化センター
- (8) 大野勝美ほか 1997『伊場遺跡遺物編 7』 浜松市教育委員会
- (9) 林 幸彦ほか 1984『北西の久保遺跡』 佐久市教育委員会
- (10) 青木一男ほか 1998 長野県埋蔵文化財センター発掘調査報告書 36『松原遺跡 弥生・総論 3 弥生時代中期土器本文』長野県教育委員会
青木一男ほか 1998 長野県埋蔵文化財センター発掘調査報告書 36『松原遺跡 弥生・総論 4 弥生時代中期土器図版』 長野県教育委員会

図 版



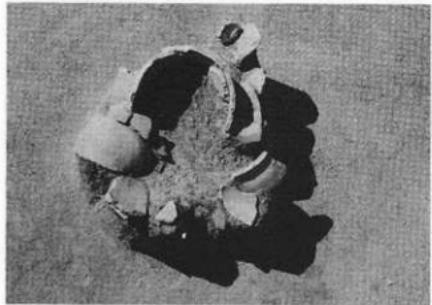
連跡全景



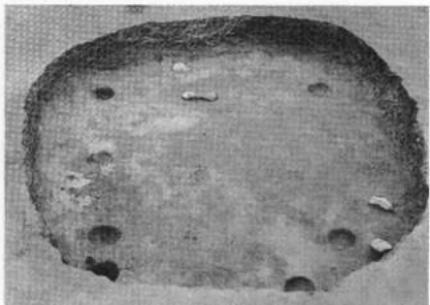
遗迹远景



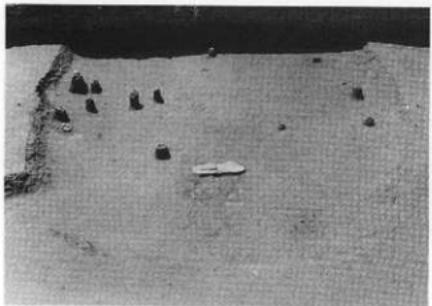
1号住居跡



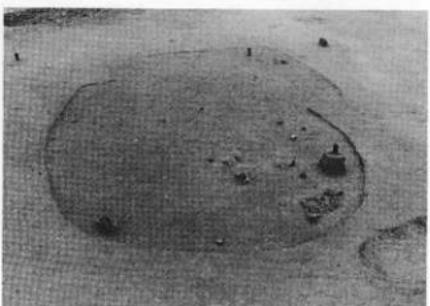
1号住居跡遺物



2号住居跡



3号住居跡



15号住居跡



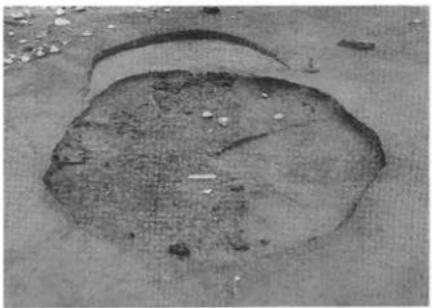
15号住居跡遺物



同左



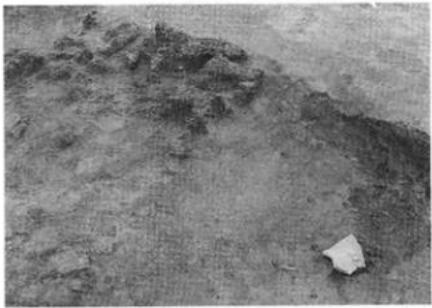
同上



18号住居跡



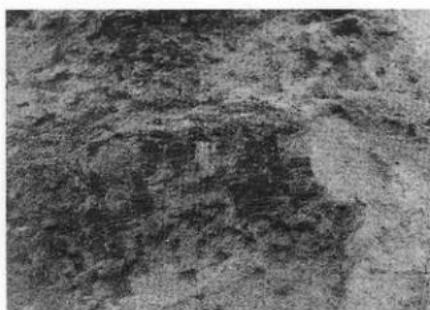
18号住居跡遺物



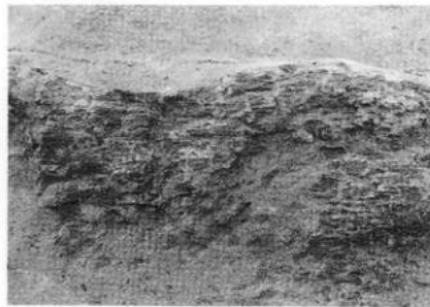
同左



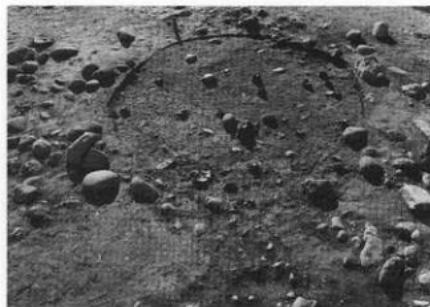
18号住居跡炭化材



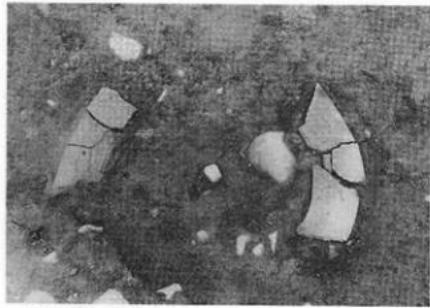
同左



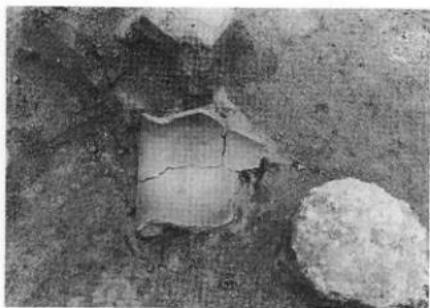
同上



26号住居跡



26号住居跡遺物



同左



35号住居跡



弥生時代遺物集中区



弥生時代遺物集中区



同左



同上



4号住居跡



4号住居跡カマド



5号住居跡



5号住居跡遺物



同左



同カマド



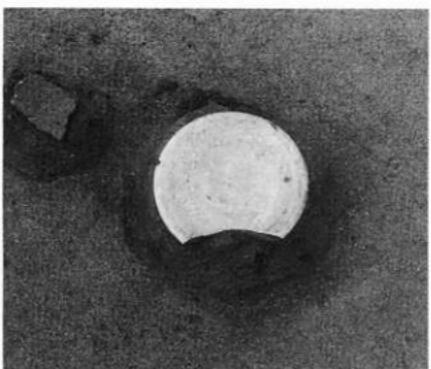
同左



5号住居跡カマド



7号住居跡カマド



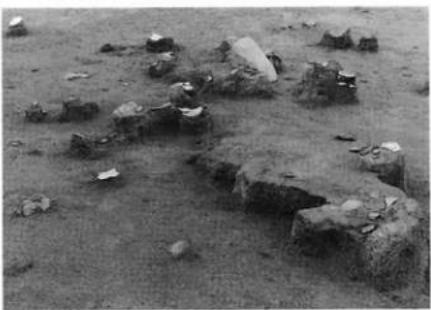
7号住居跡遺物



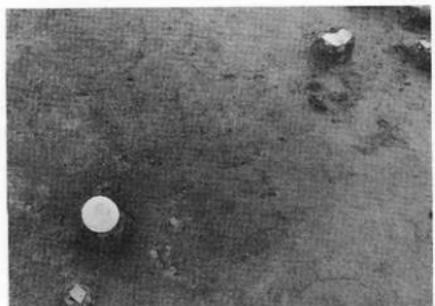
同左



10号住居跡



11号住居跡遺物



11号住居跡遺物



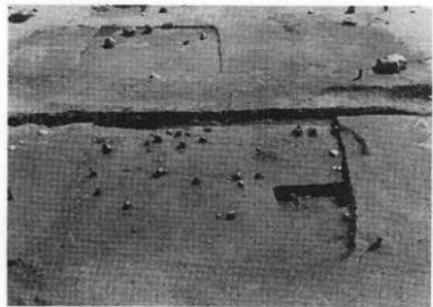
同左



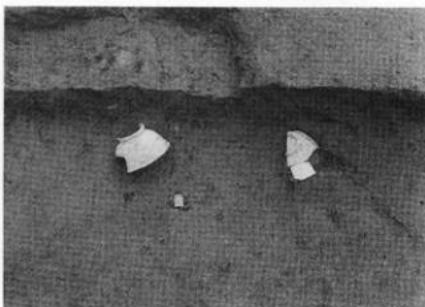
同上



21号～23号住居跡



24号・25号住居跡



25号住居跡遺物



24号住居跡



同左カマド



29号住居跡



30号住居跡



H-20 グリッド遺物



同左



1



9



13



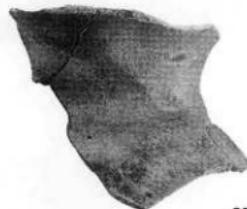
16



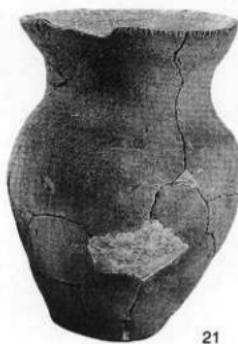
18



19



20



21



26



27



31



35



49



64



66



73



90



91



94



116



118



124



139



140



141



152



154



155



163



165



167



249







251



256



259



258



287



291



293



294



307



341



361



365



370



371



388



392



395



400



401



402



415



429



433



434



440



458



461



463



464



465



466



475



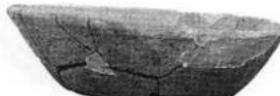
476



487



488



492



560



576



577



588



592



596



598



602



625



629



627



655



661



670



731



743



773



805



811



812



825



826



836



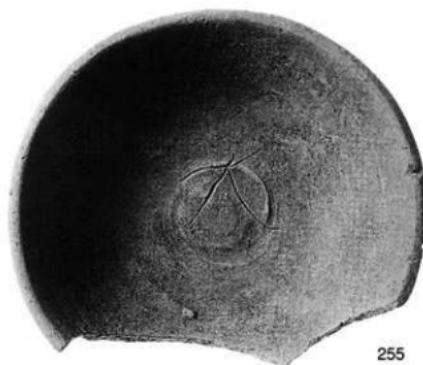
838



839



254



255



772



844



856



857



840



841



842



847



848



850



851



852



853



854



855



858



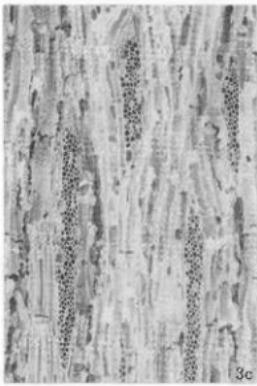
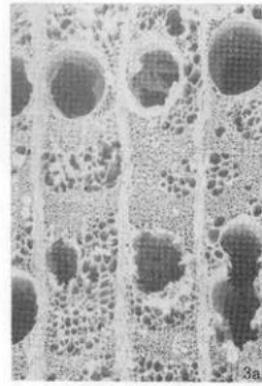
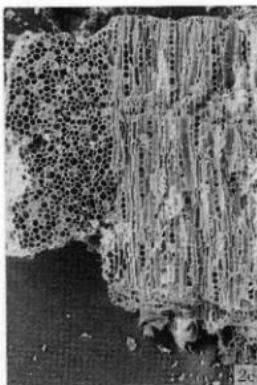
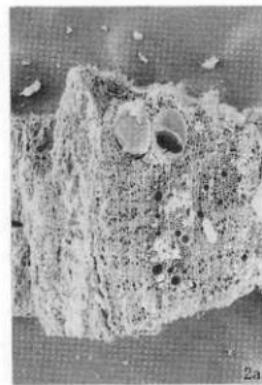
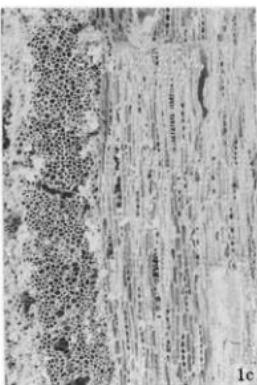
859



860



861



1. コナラ属コナラ亜属クヌギ節 (18号住 C-12)

2. コナラ属コナラ亜属コナラ節 (18号住 C-16)

3. ケヤキ (18号住 C-1)

a : 木口, b : 柄目, c : 板目

— 200 μm : a
— 200 μm : b, c

報告書抄録

ふりがな	よこまちいせき							
書名	横町遺跡							
副書名	新環状・西関東道路建設工事に伴う埋蔵文化財調査							
シリーズ名	山梨県埋蔵文化財センター発掘調査報告書							
シリーズ番号	第200号							
編著者名	長沢宏昌・三森鉄治							
編集機関	山梨県埋蔵文化財センター							
所在地	〒400-1508 山梨県東八代郡中道町923番地 TEL 055-266-3881							
発行年月日	西暦 2002年3月29日							
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積 m ²	調査原因
		市町村	遺跡番号	35° 40' 30"	138° 39' 12"			
よこまちいせき 横町遺跡	やまなしけんかすがい ちようしもいわした 山梨県春日居町下岩 下字横町1281-1番地外	19301		35° 40' 30"	138° 39' 12"	平成11年 7月1日～ 平成14年 3月29日	5,000m ²	新環状・西関東 道路建設工事に 伴う埋蔵文化財 調査
種別	主な時代	主な遺構		主な遺物		特記事項		
畠地	弥生時代 平安時代	弥生時代の住居跡 12軒、平安時代の 住居跡23軒、溝4 条、土坑		土器(弥生土器、平安時代 土器、灰釉陶器)、土製 品(土笛)				

山梨県埋蔵文化財センター調査報告書 第200集

横町遺跡

—新環状・西関東道路建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書—

印刷日	2002年3月20日
発行日	2002年3月29日
編集	山梨県埋蔵文化財センター
	http://www.yokogawa.co.jp/Measurement/Yamanashi/maibun/maibun.htm
発行	山梨県教育委員会・山梨県土木部
印刷	横河グラフィックアーツ(株)
	TEL 055(243)0548
	http://www.yokogawa.co.jp/YGA/

